

成溪會誌



ホームページのご案内!

成蹊会ホームページ <http://alumnet.ne.jp/>

社団法人 成蹊会
SEIKEI ALUMNI ASSOCIATION

成蹊の歌 MP3 Sound
校歌の歌詞カード pdf
PC用壁紙・待受画面館
以下各コーナーへのアクセスにはパスワードが必要です。
成蹊写真館 Photograph
成蹊会掲示板 BBS
成蹊会の個人情報保護方針
各種証明書申請について (成蹊大学事務局)

What's New
3/5 印刷用として成蹊の歌・心力歌のPDFをアップロードしました。
3/1 成蹊写真館 新体開始!
3/1 PC用壁紙、携帯用待受画面のダウンロードサービスも開始。どうぞ自由にダウンロード。
2/16 英語のお知らせ (パスワード・お問い合せサービス)

校歌
心力歌
の印刷ができます。

成蹊会事務局 〒80-8655 東京都豊島区西池袋 3-3-1 E-mail: seikeikai@jpn.seikei.ac.jp
学校法人 成蹊学園
印刷・複製及び転載は成蹊学園の承認の許可を得て掲載しております。

成蹊会 壁紙・待受画面館

成蹊会 PC用壁紙

正門より成蹊会館 ¥800+税 ¥1,024+税	中門前二重塔 ¥800+税 ¥1,024+税
成蹊の学生生活 ¥800+税 ¥1,024+税	中門前土蔵 ¥800+税 ¥1,024+税
本館正門入り口 ¥800+税 ¥1,024+税	正門前噴水 ¥800+税 ¥1,024+税
成蹊より正門前 ¥800+税 ¥1,024+税	

成蹊写真館
社団法人 成蹊会

- ※ 500円+税 学園風景
- 成蹊学園の再会
- 成蹊中村澤一先生ゼミ同窓会(2005・3・7撮影)
- 成蹊大学体育会 準硬式野球部50周年記念式典(2005・3・25撮影)
- 2005高等学校野球選手権大会2回戦(2005・3・25撮影)
- 第14回箱根駅伝野津家祭(2005・4・2撮影)
- 2005/4/3 桜祭の朝(2005・4・4撮影)
- 昭和26年度(1951)大学入学生の写真(2005・4・8撮影)
- 第28回成蹊杯(2005・4・14撮影)
- 成蹊の春(平成17年4月8日撮影)(2005・4・14撮影)
- 第28回成蹊杯・高校25周年セント・村学園祭(2005・4・19撮影)

成蹊会設立の理念に思いを馳せて……………瀧 秀彦 / 2

成蹊会通常総会…………… / 4

特別寄稿

江戸時代の経営理念考……………朝倉 孝吉 / 6

千葉支部総会講演 呆けずに長生き……………津田 英彦 / 13

戦後の世界経済の変遷と日本……………廣野 良吉 / 18

無名学者の思いをたどる……………久保 正彰 / 21

私の戦争体験『零戦空戦記』……………土方 敏夫 / 24

随想

私の池袋での学校生活……………長島 花樹 / 28

理化館の焦げ茶のタイル……………金井 弘夫 / 29

ゴルフ場の現状と成蹊出身ゴルファー……………大石 順一 / 30

同窓のつどい

学校・年次会のつどい / 36

小学校同窓会

山形学級クラス会

星の子会

成蹊高校1組同窓会ゴルフコンペ

高等学校(旧制)創立八十周年記念

祝賀会

萩の会

奥住先生お別れ会

昭和36年卒成蹊高校3年C組同窓会

桃江会

昭和18年尋常科入学同期会

高校卒業20周年

66全蹊オープン

経済学部昭和48年卒業旧1Fの集い

昭和四十九年度 成蹊中学3Bクラス会

高校卒業40周年

伊東良延先生の傘寿を祝う会

小学校卒業40周年

高校卒業30周年

大学卒業20周年

大学卒業10周年

たつみ会

卒業50周年 昭和26年入学・ブレメ・政経

体育会・文化会・OB会・趣味のつどい / 46

写蹊会写真展

成蹊ラグークラブ桜祭り

清和会ハイキング

蹊気会

ヨット部OB会

旧高OBラガーマンの集い

写蹊会総会

ギターソサエティーOB/OG会

自動車部17年度OB会総会

SGCゴルフ大会

業界・企業をつどい / 50

成蹊会計人会

地域のつどい / 51

オーストラリア・クイーンズランド成蹊会

ハワイ成蹊会

宮城成蹊会

新潟成蹊会

山形成蹊会

千葉支部総会

埼玉成蹊会

渋谷成蹊会

長野成蹊会

岡山成蹊会

中国支部総会・広島成蹊会

九州支部総会

佐賀成蹊会

成蹊会事務局からのお知らせ / 3 叙勲 / 12 廣野ゼミOB会 / 20

渡邊兵力先輩を偲んで / 27 原宿竹下通りを馬で行く / 32

表紙絵の言葉 / 31 成蹊の歌を歌おう / 33 成蹊ラビリンタス / 34

物故会員 / 35 予告 / 57 寮歌祭 / 58

大学各種証明書発行についてのお願い / 61 新聞コラム / 62 会員動静 / 66

地域同窓会連絡先一覽 / 80 成蹊会報告 / 81 旧制成蹊高校創立100周年記念誌正誤表 / 84

旧制成蹊高等学校創立100周年記念祝賀同窓会の報告 / 84

表紙の題字は故上條信山先生、絵は高木 裕 (政経・36年)

成蹊会設立の理念に思いを馳せて

—成蹊会会長三期目に際して—

成蹊会会長 瀧 秀彦

本年6月の成蹊会総会と併せて開催されました理事会において、成蹊会会長に再任され、三期目の任に当たることになりました。

来年は成蹊会設立70周年目の節目に当たり、成蹊会では来年6月18日の成蹊会総会時にこれを記念する会を予定しており、現在、吉野雅晴副会長を委員長とする70周年委員会を組織して、各同窓会選出の委員とともに検討しているところでございます。来年の記念の催しには、より多くの会員の参加をいただき、是非成功させたいと念願しております。

成蹊会は昭和11年に学園創立者、中村春二先生の13回忌を期して、それまでの各学校別同窓会が大団結して設立されました。母校の支援と同窓生の親睦を活動の柱として、昭和30年の公益法人化という組織変更を経て現在に



至っております。成蹊会設立時の昭和11年には1,500名であった会員数

も、現在では7万4千名を数える会に発展しており、多くの会員が、同窓の絆を深くするとともに、積極的に母校支援にご協力いただけるよう、成蹊会の活動をより活性化していく必要を感じております。多くの先輩方の大変なご努力によって、現在の成蹊会がございます。設立70周年にあたり、先達の成蹊会への熱い思いに立ち返り、設立時の理念に基づき、さらなる成蹊会の発展に尽くしていきたいと決意を新たにいたしております。

そのため今任期では、会員総数のおよそ8割を占める大学4学部各同窓会の活性化をより進めたいと思っております。まずは同窓会の核となる学部同窓会各年次の委員の充実を図ることで、組織力を強化することが必要であると認識し、新卒業生の委員については、2年前より大学側の協力を得て選任しており、既卒年次については、10年毎の合同同窓会該当年次委員を中心に充実を図り、それぞれ各年次横割りの合同同窓会を組織しております。本年は、大学10周年及び20周年の合同同窓会を

初めて開催いたしました。卒業10年を学園ではホームカミングと位置付け、会場及び開催費用につき全面的な協力をお願いしており、また卒業30周年についても、品川「開東閣」の継続的な使用につき、便宜を図っていただいております。学園の協力をいただき、連携を図りながら、成蹊会の組織力を高めていき、会員サービスの向上に繋げていきたいと思っております。

財政基盤の確立につきましては、引き続き取り組んで参ります。成蹊会の財政は、ご承知のとおり会員からの年会費に支えられております。特に今年の高校・大学新入生からは、これまでの入会金とともに新たに10年分の年会費も併せて納入いただき、卒業後の会費収入として使用させていただくことになっておりますが、そのためには、尚一層の既卒会員からの年会費納入率を上げることが必要となります。成蹊会費の年間事業費の半分以上は母校の支援、特に在校生の直接的な支援に当てられております。本来の同窓会活動を活性化していくことと併せて、母校・後輩を支援する意味でも、年会費納入につき是非ご協力をいただきたいと存じます。

成蹊会を取り巻く社会的な環境も大きく変わろうとしております。成蹊会は社団法人として母校支援を中心とす

る公益活動を行なっておりますが、現在、国会では公益法人改革について検討がなされており、まずは平成18年4月に公益法人会計基準が改正され、事業活動の一層の透明性が要請されており、成蹊会ではこれに対応するための取り組みをいたしております。また、同窓会の組織力や、活動の内容そのものが指標化され、直接学校の評価に繋がってきております。そうした意味においても、今後学園と連携しながら、会の質的向上を図っていく必要を痛感しております。

最後に、平成24年の学園創立100周年事業が着々と進んでおり、まず学園一貫教育の柱となる国際教育センターが設置されました。小学校では1クラス28人学級制が始まり、中学・高校では一貫化への取り組みを進めており、これと平行して小学校・中学校・高等学校の施設開発計画の検討が進められております。また大学の情報図書館については来年秋には開館するなど、学園は100周年を機に大きな発展を遂げようとしております。成蹊会ではこれらの事業を支える100周年記念事業募金に全面的な協力をいたしております。会員の皆様方には、是非、母校への思いを形に表したご支援の途を開いていただくとともに、継続したご協力をいただきますようお願い申し上げます。

(政経・35年)

★成蹊会事務局からのお知らせ★

●成蹊会年会費の預金口座振替のお願い

年会費の預金口座振替は年会費を所定日に、ご指定の金融機関の口座から、自動引落としによりお払いただくもので、払い忘れの防止、事務処理費の削減にも有効で、皆様にお手数をおかけしない便利なものです。お手続きは会誌終面（又は同封）の「預金口座振替依頼書」（グリーン色で印刷）にご記入いただき、金融機関届出印をご捺印の上、成蹊会事務局宛ご返送ください。

●住所・勤務先などの変更は必ず成蹊会事務局にご連絡を

転居先不明や記載の宛て先人不明による返送が増えています。

改姓、転居や市町村合併、転勤等でお届けの氏名、住所、〒番号、電話番号、勤務先（所属・役職・電話番号）に修正・変更・追加の必要がある場合は、必ず成蹊会事務局まで、総会出欠回答ハガキの「名簿資料届」、官製ハガキ、FAX、成蹊会ホームページ上の「住所勤務先変更届」でお知らせ下さい。その際には<会員番号>の記載をお忘れなく！（電話でのご連絡はご遠慮願います。）

●「理化館メモリアル盾」を特別桜募金の記念に贈呈

学園理化館（大学1号館）が大学情報図書館建設に伴い解体されるに当たり、学園より理化館建物外装に実際に使用されていた「タイル板」を成蹊会にご寄贈いただきましたので、成蹊会ではこの「タイル板」を埋め込んだアクリル板のメモリアル盾を115個（限定）作成しました。

成蹊会では4月3日開催の成蹊桜祭において特別桜募金を実施し、母校の桜の維持のため3,000円以上のご寄附協力者に、記念の品としてメモリアル盾を贈呈したところ、理化館を懐かしむ記念品として好評でした。メモリアル盾を記念品とする特別桜募金は現在も引き続き成蹊会及び成蹊倶楽部で受付けております。個数に限りがありますのでお早めにお申し込みください。

●地域成蹊会へのお誘い

成蹊会には国内・国外合わせて50余の地域同窓会があり、各地で地域の集いを開催しています。一年または二年に一度の集まりも、同窓生ということで気軽に会話がはずみ、先輩・同輩・後輩との思いがけない出会いはもちろん、異業種交流への発展なども数多く見られます。懇親会の他に家族会・ゴルフコンペなど地域における年代を超えた同窓生のネットワークを広げていただく好機でもあります。

地域同窓会への連絡方法などについては、成蹊会誌に掲載の「地域同窓会連絡先一覧」で直接お問い合わせ下さい。

第50回 成蹊会通常総会

第50回成蹊会通常総会が平成17年6月19日(土)に学園で開催されました。本年度は成蹊会学術賞贈呈式が行なわれ、懇親会では第45回謝恩顕章が行なわれました。

第1部 成蹊会通常総会

総会出席者は117名。成蹊会事務局の齋藤悠氏(政経17回)の司会進行により、まず瀧秀彦成蹊会会長(政経9回)より挨拶がありました。瀧会長からは、同窓会活動をより身近なものとし、母校及び在校生を支援する事業をより確かなものとするため、引き続き、「財政の健全化」を具現化するため、会費納入率の向上に引き続き取り組み、同時に、「同窓会活動の活性化」のための方策として、学園とも協力しながら同窓会活動での学内施設利用促進に努めるなど、一層の会員サービスの上を目指していく方針が表明されました。また学園100周年記念事業募金に成蹊会が全面的な協力体制で臨んでいること、そのためにも会員一人ひとりが積極的に募金事業へ協力いただけるよう呼び掛けられました。

続いて以下の議案が審議されました。

議案1 平成16年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

議案2 平成16年度財産目録承認の件

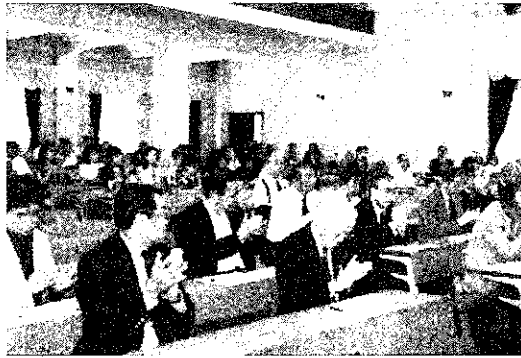
議案3 平成17年度事業報告及び収支予算案承認の件

議案4 成蹊会評議員選任の件

が審議され、右4議案は満場一致で原案通り承認されました。

第2部 成蹊会学術賞贈呈式

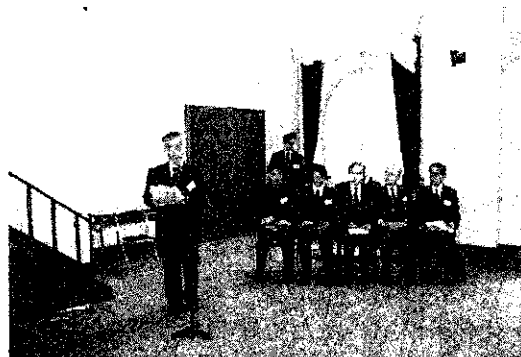
成蹊会学術賞は、母校成蹊学園で学術研究に取組んでおられる先生方への学術顕彰制度として、平成2年に設けられ、隔年毎に表彰しています。瀧会長から成蹊会学術賞の経緯説明の後、受賞者である理工学部佐々木成朗助教、法学部飯田高講師に、瀧会長から賞状、城戸毅学術・教育助成委員会委員長(高5回)より副賞が贈呈されま



4 議案が原案通り承認



瀧会長の挨拶



瀧藤常務理事の司会と関係者

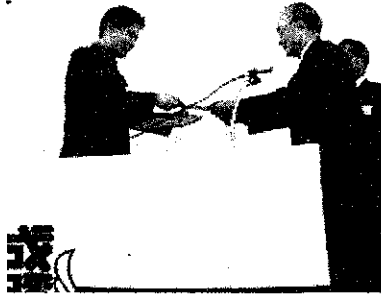


本館玄関の受付

第50回通常総会懇親会



第45回謝恩顕彰会



法学部飯田講師へ成蹊会学術賞贈呈



理工学部佐々木助教へ成蹊会学術賞贈呈

した。引き続き栗田恵輔大学長（高12回）から挨拶と受賞者の推薦理由について経緯説明をいただきました。

第2部終了後、総会で新たに選出された新評議員による評議員会が開催され、成蹊会理事・監事の選任が行なわれました。そして引き続き、新理事・新監事による理事会で、会長・常務理事の選任が行なわれました。

第3部 成蹊会謝恩顕彰式・懇親会

大学10号館12階ホールに場所を移し、加藤節学園専務理事、栗田恵輔大学長、岡崎忠彦小学校長を来賓としてお迎えして、村上善二氏（工10回）、新見多可氏（文9回）の司会で会が進行されました。

まず、総会後の理事会で引き続き会長として選任された瀧会長の挨拶があり、成蹊会新体制を支える、新理事・新監事の方々が紹介されました。続いて加藤学園専務理事からご挨拶を頂戴した後、第45回謝恩顕彰が行なわれました。今年は9名の教職員の方々が顕彰され、内6名の方にご出席いただきました。瀧会長からご功績に対する謝意が表され、記念品が贈られ

ました。顕彰された方を代表して黒田道雄様よりご挨拶をいただきました。本年度の顕彰を受けたのは次の9名の方々です。

- 黒田 道雄 様（工学部）
- 今野 良範 様（職員）
- 佐仲 努 様（職員）
- 菅谷 徳司 様（職員）
- 田中 一行 様（経済学部）
- 竹内 靖男 様（経済学部）
- 樋口 進 様（経済学部）
- 古軸 隆介 様（法学部）
- 松田 英夫 様（職員）

懇親会は、当日出席者の中で最高齢である久我大郎氏（旧高16回）の乾杯のご発声で始まりしました。いつもながらの和気あいあいとした雰囲気の中で時間の経つのも忘れてしまう和やかな懇親会でした。最後に全員で校歌を斉唱し会は終了しました。

なお、来年の総会は成蹊会設立70周年記念行事と併せて開催される予定です。是非多くの会員のご出席・ご参加を願っております。

最後にこの場を借りまして、運営にご尽力いただきました総会実行委員の皆様方に深く御礼申し上げます。

大山卓治（経・56年）



懇親会 加藤専務理事の挨拶（左上）、懇親会・久我先輩の挨拶（右上）、懇親会風景（下）

・総会実行委員

高等学校	井田 博通 (28回)
	鈴木 眞太郎 (39回)
政治経済	角原 敷 (17回)
	金子 正哲 (18回)
経 済	岩清水 正和 (23回)
	清水 和久 (24回)
工 学	村上 善一 (10回)
	高橋 道哉 (11回)
文 学	村田 比佐 (7回)
	新見 多可 (9回)
法 学	武藤 正司 (8回)
	泉 晴久 (19回)

・写真撮影

写蹊会 アパッチ (小39回)
清水和久 (経24回)

江戸時代の経営理念考

朝倉孝吉

近年企業倫理の頽廃がやかましい。「企業人のモラルが地に落ちた」と。

願みれば、わが国では、江戸時代より企業倫理、経営理念について大変立派なものがあつたし、明治以降も優れた企業家による美事な経営理念、企業倫理もみられた。戦後においても混乱

期から経済の高度成長期が始まつて間もない昭和三十一年に経済同友会が決議した「経営者の社会的責任の自覚と定義（注①）」も、昭和三十年十月に同友会の大会で桜田武氏の示した新経営理念（注②）も仲々立派なものであつた。

注①

(一) 経営者は企業の公器性を自覚し、自己の利益だけでなく、社会との調和をとりながら企業を営営することを社会的責任と心得て遂行する。

(二) この際、日本経済の不均衡が妨げになるので、その体質の改善と企業者の近代化を併行して行う。

(三) 日本経済の体質改造には、変容しつつある現代資本主義を基本理念

として社会平衡力の形成と公正競争ルールの確立に努力する。

(四) 企業経営の近代化には、技術革新と市場開拓を中心に利潤をふやし、これを資本家、経営者、労働者に公正に分配する。

注②

(一) 今は力と数の時代ではなく、知識と技術の時代であること。

(二) 資本家の時代から経営者の時代へとすすんでいること。

(三) 経営者は、もはや資本の持主でもその代弁者でもなく、勤労者の出身でその中から選ばれるものであること。

(四) したがって企業は資本の所有者の私のものでなく、公けのもので、経営者はこれをあずかっている被委託者であること。

(五) 株主の権利は尊重さるべきであるが、それを同時にあるいはそれ以上に、経営者は勤労者の利益を尊重し、そして一層公けの利益を尊重し、公けに奉仕すべきである。

江戸時代の経営理念、企業倫理、明

治以降のわが国経済の発展を支えた企業倫理、経営理念も、戦後の経済同友会が示した新経営理念も、それぞれその時代を背景に生れてきたものである。わが国も戦後五十数年を経過し、高度成長から安定成長時代、そして平成不況と推移し、空洞化問題、雇用問題、老令化、財政赤字、金融機関の大量の不良資産問題と種々の問題を抱え、戦後の歩みの大きな節目にきていることは確かである。一方世界も冷戦の終結以来、民族、部属間の紛争が宗教とか

らみ新しい形の紛争、戦火がここ、かしこにみられている。世界的に激動不透明の中で、経済成長の原動力であった技術革新、イノベーションの泉が二十一世紀の中ごろには涸枯するのではないかという不安もささやかれる。

いずれにしても日本の経済発展を支えてきた企業も、その経営理念、企業倫理を再検討する必要にせまられていると考える。

以下に江戸期の企業倫理、経営理念をみてみよう。

企業とは、人類の福祉増進の為に広く社会に財（ハード、ソフト双方の経済財）を提供して、自らの活動を維持発展しながら人類社会に奉仕する。即ち、或るものは情報を提供し、或るも

のは融資など信用を形にすることにより、またあるものは経済の大動脈である通貨を提供するなどいずれにしてもこれらのことを通じて社会、国家、人類にサービスするものといえる。

まず、我国の江戸時代からの経営理念、企業倫理について一べつしよう。

洋の東西を問わず本格的経営が成立するのは商品流通が普及し、貨幣経済が一応成立してからとみられるので日本であれば本格的な意味で経営が出現し、経営者が現れたのは徳川時代とみられる。即ち慶長金銀及び慶長通宝が幕府によって統一的に鑄造され、寛永年間には寛永通宝が大量につくられた。その後金、銀、銭の三貨が全国に流通勿論、農業工業など生産力の増大、城下町その他都市の急速な発達などに伴い経営も発展して行く。事実農工業にも商業や交通業にも両替のような貨幣交換や貸付をなすものが現出し、その中に経営者とみるべきものが発生し、経済精神も成立していった。

もつとも江戸時代より前にも経営者の先駆者のようなものがなかった訳ではない。中世の西南方面より中国や南方へ向けて貿易をした商人達も経営者といえよう。

それは中世の英国の冒険的商人

(Merchant Adventures) に類似したものの海賊的性格をもつものであった。

また、平家物語にある金売吉次のような行商人も半ば武士あるいは冒險的な商人の性格もあつたが、中世の商人は権力者の御用商人たる性格をもつていたといえよう。彼らが本格的経営者となり得なかつたのは、治安が確立していながつたこと、貨幣経済も確立していながつたことによると考えられる。徳川時代治安が確立し、本格的な商品流通、貨幣経済が成立すると共に経営といえる事象がおこり、経営者が姿を現すとみるべきと考える。経営者精神の発達について

日本では経営者精神についてマックス・ウェーバー（プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神）やルヨ・ブレンター（近世資本主義の起源）ウェルナー・ゾンバルト（近世資本主義）などがポピュラーで研究されている。しかし、これらの資本主義の精神の本質や経営理念は日本の資本主義精神や経営者精神を考える場合に参考になつてもあてはめることはできないと考える。

「ゾンバルトが貨幣的営利の無限の志向をもつて資本主義精神の本質とみ、ブレンターはゾンバルトを批判した

ものの営利のための営利」という自己目的の性格をもつた利益追求——貨幣の為に貨幣を獲得する——が資本主義精神の決定的特徴とみている。ウェーバーは経済的伝統主義に対し全く異なる画期的な「倫理の転換」を論じたものの「正直なる労働より獲られた利得は神の賜物である」という宗教的信仰と結びついた経済倫理の考え方は時間の経過と共に貨幣の為に新しい貪慾に移りかわつてしまつた。西欧的な資本主義的精神が利益追求、貨幣獲得を自己目的とする点で江戸時代からみられる日本の経営理念と基本的に異なるものであるとみざるを得ない。したがつて西欧の有名有力なこれら諸先人の論理には大いに学ぶべきものはあるが、日本にあてはめることは不可能と考える。

ただウェーバーの宗教的経済倫理は江戸時代の経済倫理に相通するものがあることは後にみるとおりである。

また、キリスト教的な思想から金は儲けてもよい、儲けた金を使う時に神のみむねにかなう使い方をする（大学や公益法人に寄附をする）ということ、ここに歯止めがある。日本や東洋的なものは、儲けるところに歯止めをかけている。この点が面白い。積極的な宗教と、そうでない宗教の違いがあ

らう。

○江戸前期

徳川時代に入り、慶長年間にはじめて慶長金銀と呼ばれる金銀貨幣および慶長通宝と呼ばれる銭の三貨が幕府により統一的に鑄造され全国的に通用がみられるようになった。貨幣の流通は都市でとくに盛んであつたが、次第に農村にも浸透するようになった。このような貨幣経済の発達は経済情勢の発展に対応したものであつた。すなわち、徳川時代に入り、まず二百有余の大名が各地に封ぜられ、城下町が急速に発達した。とくに江戸は最大の城下町としてその最盛期には百三、四十万人の人口をもち十七、八世紀を通じて世界最大の都市となつた。十八世紀初頭、ロンドン八十万、パリ五十万人の人口とみられた。わが国では、江戸ばかりでなく大阪も四十万人の人口をもち、わが国最大の貨物集散地となつた。京都は五〇万人の人口を有し、城下町には一万人以上の人口を有するものもみられた。その他商業的都市の発達も顕著となり、工業品のみならず農産物も相当商業化が進み、商業、交通も急速に発達し、市場も全国的規模にまで拡大されていった。これと並行して貨幣経済の発展がみられ、寛文年間以降諸藩で

次々と藩札を發行通用させ貨幣流通は一層盛んとなり、元禄以降には度々貨幣改鑄が行われるなど貨幣流通は一層普及していった。

「慶長見聞集」に「著者の若い頃には一両、二両のような少額の金をみることもまれで、五両、三両をもつ人は長者といつたが、昨今は民百姓に到るまで五両や十両もつており、富裕な町人は五百、七百両もつている」とあり、享保年間に刊行された田中久陽の「民間省要」にも「七十年前までは小判一枚でさえも近隣の村々より人々がきておがんだものだが、今は船頭、籠とりの類に至るまで小判をもつている」とある。

享保年間に刊行された荻生徂来の「政談」にも「昔は田舎では米麦で物を買ひ銭は使用しなかつたが、元禄の頃より田舎にも銭が行き渡り、それで物を買うようになった」と記され、元禄時代が貨幣経済の発展普及に一區画となつたと荻生徂生もみているが、商人の富の力に武家も頼るようになった点も重大な点とみられる。

元禄時代以降、都市を中心に商品流通や貨幣経済がますます発展したことについて論じた文献は沢山あるが、その一つ熊沢藩山の寛文十二年（一六七

二年)の著述「集議和書」に「……商人富んで士貧しくなるなり」と商品貨幣経済の発達と商人の富裕、武家の貧窮が明確になったと記されている。藩山の貞享三年(一六八六年)の著書「大学或問」には、「諸大名諸家中身上不相応の借金すべきようなれば」とあり、さらに明確にこの間の事情が詳述されている。山崎闇斎なども同様の論述があり、諸大名が大都會の富商からの借金は明確であり、商人の勢力の拡大が判明する。

このような貨幣経済が商業や都市と共に発展し、「町人社会」ともいうべきものが成立してはじめて厳密な意味における経営が成立する。

皮肉なことであるが武士にとつては商品、貨幣経済の波にのる富裕、資本蓄積への道であった。

勿論わが国で町人社会が一応成立したのは江戸時代初期のことであるが、それが発達して活発な活動をみせたのが寛文期以降より元禄にいたる時代にみられる。当時の町人社会は主として商人と手工業者で構成されていたが、商人が支配的地位を占めていた。当時の商人の中で最大のものは両替商であり、彼らの中には商人を兼ねていたものもあり、更に大名貸をしていた蔵元

や掛屋を兼ねていたものもあった。両替商につぐ大商人は諸商品の問屋商人であり、仲買がこれにいた。小売商人は小さいものも多かったが小売商人の中には江戸の越後屋のように大規模なものもあった(これは金融業者であると同時に酒、油、回漕、呉服等の事業を兼ねるものを金融企業家と呼ぶことが妥当と考える)。これら商人群はそれぞれ株仲間を結成して、その特権を保持していた。そして問屋商人などは、自分達が「本商人」であるとし、幕府や諸大名を相手に行っていた特別な商人達を「袖長商人」と呼んで軽蔑していた。

ともあれ、町人社会は元禄時代に近づくにつれ活発な活動をしていたが、井原西鶴はこの時代に多くの町人文学と称せられるものを発表した。その中に商人の経営精神、企業倫理ともいえるものも多く書き記していた。これは決して架空の物語りばかりでなく、当時の商人の経済精神、商人としてあるべき姿を如実に反映させたものと考えられる。西鶴以降も西川如見や石田梅岩ら多くの人々によって江戸時代の商人の経営精神は論ぜられるが西鶴は江戸時代の商業の発達、貨幣経済の浸透が確立される頃に記された点でこの

種の代表的なものといえると考ええる。

西鶴は寛永十八年(一六四二年)に生れ、文禄六年(一六九三年)に五二才でなくなっており、宝井其角や英一蝶が江戸で豪商紀ノ国屋文左衛門たちの腰巾着となつて遊蕩三昧の生活を送つたと伝えられるように、西鶴も大阪に住んで豪商達に付き添うて花柳の巷に陶酔の生活をつづけた経験もあり、町人生活の表裏に通暁した人であった。したがつて西鶴には多くの好色本といわれる假名草子があるが、同時に「日本永代蔵(貞享五年刊)」、「世間胸算用(元禄五年刊)」、「西鶴織留(元禄七年二月刊西鶴没後七ヶ月)」など町人物と称せられるものがあり、これら町人物によつて当時の商人の経営精神が浮彫的に把握できるのである。

これら町人物を通してみて大阪商人のあこがれは、「分限者」「長者」または「銀持(金持)」と呼ばれるものになることであつた。

「日本永代蔵」に「惣じて親のゆづりをうけず其身才覚にしてかせぎ出し銀五百貫目よりして是を分限といえり。千貫目のうへを長者と云うなり」とある。ここで長者という言葉は中世から使われており、例の金売り吉次は京の三条の大福長者といわれていたし、江

戸太郎金長は「阪東八カ国の大福長者」といわれ、東京の白金地区に住んでいた上坂下上總之助は「白金長者」と呼ばれていた。この時代の長者は「土地持ち」の豪族であつたが、「銀持」は全く江戸時代にできた言葉で中世には見当たらない。「銀持」さらに上の「分限者は文字通り「金銀、小判、大判」を沢山所有するものであつた。「長者は銀千貫目より、銀五百貫目より分限者と云うなり」と前述の引用があつたが銀持についてその地位は分らない。

西鶴の町人物には商人の倫理観念が示され、金持、分限者、長者と呼ばれたものの理想的な在り方が記されている。それは青年より壮年にかけて勤儉力行し老境に入らんとするまでに家の固めを成しとげ老年には逸遊し、あるいは施與などして安楽に余生を送るものである。西鶴はそういう理想的な生き方をした桔梗屋甚三郎などの商人を記している。これは「出世致富」でありその逆の「失敗貧窮」についても記している。西鶴の「世間胸算用」にも「二十五の若盛より油断なく、三十五の男盛りかせぎ、五十の分別盛に家を納め、総領に万事をわたし、六十の前半より楽隠居して寺道場へまいり」と

書いている。この場合は寺道場まいりとあるが、老後の遊樂としては、書画、俳諧、茶の温、観劇等高尚のものが多かったとみられる。

以上のように西鶴の町人物には商人の倫理観を書いている。即ち人倫の道にかなうものを賞讃する反面、道義に反する商売を排除する。「永代蔵」に寺院の僧をあざむいて不当利益を得たものを「さてもすかぬ男」といい「一たびはおもうままなりしが、元来すじなき分限、むかしより浅ましくほろびて」とその未踏のあわれさを記している。彼は筋なき分限を否定し「筋止しき分限」を認めているのである。後年澁沢栄一が論語の「不義而富且貴於我如浮雲」という言葉を大事にしたが、まさに西鶴の筋止しき分限と全く同じである。

西鶴はさらに詐欺行為に対して極めて厳しい。永代蔵巻三におのがかせぎは疎略にしながら居室や衣類をかざり派手な人付合いをし、酒宴を好み借金をし、破産を見越して親類の者の名前で家や田畑を買うような行為をする人に対して憎悪の念をもち「盗人よりも悪し」といつている。

西鶴の書いたものからみると「利潤を追求し資本を蓄積するのを自己目的

として手段を選ばないという行き方は是認されない。商人は仁義、正直を以て根本としなければならぬ」と。また永代蔵第一巻に「福德は其身の堅固にあり朝夕油断すること勿れ。殊更世の仁義を本として神佛をまつるべし、是れ和國の風俗なり」ともある。水代蔵の四巻に「人は正直を元とすること、是神國のならわしなり」、又巻二には分限者をほめて「信あれば徳あり佛につかへ神を祭ることおろそかならず」ともある。このように西鶴の町人物には商人としての倫理観がそこかしこに描かれている。

さて江戸時代前期において商人の理想とするところや商人のあるべき倫理について一べつしたが、商人として倫理上正しい方法をもつて分限者になるのに如何なる手段方法が重要と考えられていたかである。これは、江戸時代の巨商や豪商、商家の家訓や店訓をみて要約すると、才覚・算用、始末であった。才覚と算用によって商業利益の増大、商売の繁昌をもたらすことができ、それを始末して蓄積、増殖することが分限者になる要因であるというもので西鶴もその三者を商人として重要としているが、才覚・算用と始末は三位一体不可分と私は考える。江戸初期、

小さな商人から才覚と算用がすぐれて商売を成功させ始末して蓄積する場合もあるし、始末一本槍でつましく元手をつくり才覚・算用の才能により強大になり、さらに始末して益々強大となるというものもあった。もう少し細くみると、才覚は智慧を働かせ目さきを利かし巧みに商機をつかみ工夫をこらして正直、信用を得、愛想をよくして顧客を集め商売の繁栄をはかるというもの。算用は勘定を精細確実なものとし計数を誤らない。才覚・算用が結合して「商才」となる。そして始末とは今日でいう貯蓄である。日々の稼ぎを始末（貯蓄）して資本をつくる。そして才覚算用を活用して勤勉力行で繁昌させ、さらに始末して大をなしたのが豪商、巨商になっていったし、正しい商売をする多くの商人の行き方であった。

西鶴の「永代蔵」「胸算用」「織留」に多くの実例をもつて分限者になった事例が描かれている。

ついで西鶴が「大商人の手本と賞讃した三井家の開祖たる八郎兵衛高利について一べつしよう。

三井八郎兵衛高利は、三井家の基礎を築いた歴史的な人物であるが、天和三年（一六八三年）「現銀安値掛値な

し」という商売上の新機軸を開いた点で特筆される。

三井家の商業経営及び資本蓄積の歴史が詳細に記述されたものとして「稿本三井家史料（全九十巻）」があるが、これらにより三井家の経営および資本蓄積の歴史をあとづけてみると、やはり才覚、算用、始末の伝統が三本糸としてみられる。その伝統の出発点に八郎兵衛高利の母、殊法の姿をみるのである。殊法については三井家で編纂した「殊法大姉行状」に「三井家商の元祖は比殊法也」と記されてい程三井家の歴史上重要な人である。その性格行状については、その孫の一人が書き残した「商売記」にくわしく記されている。その詳細は省略するが、殊法の資質は商人として商業を経営しその家業の繁昌をもたらし、資本を蓄積するのに必要なあらゆる長所を多分に備えていた婦人であった。即ち、商才にすぐれ、算数に明るく、客扱い巧み、正直にして信用を重んじ、勤勉にして廢物利用にも心を砕くなど真にめずらしい節儉の人であった。殊法の子女に対する感化力は大きく男子はいずれもすぐれた商人となったが、とくに最もその母に似て商人として稀有の資質と才能をもち三井の基礎をきづいたのは、四

男の八郎兵衛高利であった。事実、高利は西鶴の「永代蔵」において「大商人の手法」と賞讃されている。そしてその商法は四つの特徴をもっていた。

一つには、新商法として「現金安売りにかけねなし」即ち他より安い定価による現金売りであり、天和三年（一六八三年）より始めた。これはわが国商業史上始めてであり世界商業史上でもはじめてといわれる。

二つには、呉服の切売りである。従前は一反など単位として売ったので買手に不便であったのを改めた。

三として、「一人一色の役目」として手代に分業を行わせた。

四として「即座に仕立ててこれを渡し」というもので衣類の仕立てを極端にまでスピードアップした。

このように八郎兵衛は、商人としての才覚は極めてすぐれていたが、同時に始末を大事にした。彼の遺訓に次のようなものがある。

一、始末を不致再人、何ほど商能致候とても始終一番之基勝に成り不申候、武士の上には文武両道、商人の上には商始末、両道欠候ては鳥之翼一方無之同前、始終立身不成候

一、人々身代の本は、上々様より下々迄、費いとひ申儀、人々の本にて

候。

一、人一生商売之外のたのしみ致申儀無分別成事、碁、将棋或は博奕など勝負を楽しみ申もの、人々在之、昼夜商の道、無油断工夫致候へば其規模一日々々に商売の工面能成候、是業の第一、惣じて我家職の儀を昼夜はまり候へば、色々の妙出来、業に成申事候、更に勤を苦勞などと心得候ものは、夥敷了簡違にて候

こういう始末を強調した遺訓でも判明するように、三井家の巨額の資本蓄積には殊法と高利の始末尊重の精神が大きな力となっていたと考えられる。偶々アダム・スミスの国富論の第二章第三章「資材の性質及び用途について」において、「勤勞ではなく節儉が資本増加の直接原因である」とあるのは興味深い。

また井原西鶴の町人物にある「さてもすかぬもの」「筋なき分限」など商人批判は現在の企業人に対する批判として通じるのではなからうか。

江戸中期から後期
江戸中期からは、企業倫理についての書物はかなりみられるようになる。

西鶴以降商人の経営精神を描いた人々で代表的な人は西川如見、その後石田梅巖があげられる。

西川如見は商人出身の学者とみられている。「諸家人物志」には次のようにある。

「長崎の訳官、字は如見、求林斎と号す。忠英は其の名なり。長崎の人。少にして天文を好み、皓首に至りて廢せず、江戸に徴され、長崎の訳官となる。

著はす所、四十二口文物圖説、虞書曆象俗解、天文義論、日本水土考、天文和歌注、町人囊、長崎夜話草、水上解弁、華夷通商考、下物怪異弁断等あり」とある。又「幕府時代の長崎」には「西川如見名は忠英、求林斎は其の号なり、幼にして父を失い、母に事へて至考なり。年二十余にして初めて学に志し、南部草寿の門に入る。又唐蘭諸書を繕き、自得する所多く、天文曆数の学に於て最も造詣する所あり。享保三年七月幕府の召に應じ江戸に到り、献替するもの数十条、本邦曆学為に一進歩を加う。後長崎に帰り天文地理書を著して幕閣に献じ、閑余又華夷通商考、長崎夜話等二十余程を著す。

その天文書は徳川時代における我が国最初の良著として、華夷通商考は我が国最初の世界地理書として、長崎夜話は長崎史の好参考書として後世に貢献すること頗る多し。享保九年八月病を以て長逝す。行年七十七」と記され

ている。

如見の多くの著書の中で商人の経営精神を書き記したものは「町人囊」であり、その叙述は多分に需教的道義理念の色がこく、商人訓といえるものである。

「正しい商人になるには身をおさめ、こころを正しくしてのち、其のこころを成就せんことを待つべし、町人の富を求めもの其の基なくして果報を待つはおろかなり」「町人は第一質朴に居て万の不自由を堪忍し、外の名聞に拘らずおのおの職分をつとめて家業に退屈せざるは町人の勇なり」「用を節して身を謹しむ事は四民とも第一のいましめなり。取分町人は用を節する事さしあたり肝要なり。町人の身を亡ぼし人を悩ます事の悪事、皆起用を節する事なきより始まり。兎角質素儉約を本とすべき理にて、節の字のこころ甚だ深き理あり、町人百姓の学問は比一句にて濟事なり」これらの言葉に如見の本質が判明する。

さらに、如見は「分限者、分相応のかぎりを知る。身の分際に従い相応のふるまいをし過分の貯を求めず、身を静かにして心を安樂にして日をくらす人。金持一一生に身を安んじる事を知らず金銀を集むることを楽しみと思ひ

心のうち静かなるいとまもなく飽足ることを知らず是を金持といへり。」といつている。

結局「分限者は利潤追求、個別資本の蓄積を肯定するが、これを自己目的としない。資本蓄積を晩年身を静かにし心を安らかにして生活を送らんがため手段とするものである。これに対し金持は徹頭徹尾拜金主義、個別資本蓄積を自己目的とするもの」とみた。プレントナーやゾンバルトなどの「資本家精神の本質は自己目的として利潤追及、資本蓄積をなす者」というのと如見のいう金持の概念が相通するところがある。

(江戸後期)

西鶴や如見にみられた利潤追求や個別資本蓄積が道義的に高いものを成就する為の手段として行わなければならぬという考え方は江戸中期以降「心学」において大いに発展した。「心学」は商人社会の中から生れ、主として商人達を教化した「道德教説」であるといえるであろう。武家や公卿の間にもこれを信奉したものが少くなかったが、心学には商業経営思想も含まれていることを忘れてはならない。

心学は、享保年末・農家の子であるが商人としての長い経験をもった石田

梅蔵によって起されたものである。柴田寅三郎著の「石門心学提要」岩内誠一著「教育家としての石田梅蔵」に梅蔵の生い立ちが詳しいのでそれに譲るが、一言すれば、梅蔵は貞享二年（一六八五年）九月に丹波国桑田郡東栗村の農家石田権右衛門の二男として生れ、勤平と称し梅蔵はその号である。極めて篤実、厳格な父の感化を大きくうけて育ち、元禄八年（一六九五年）十一才の時京都に出て商家の丁稚となり、

四、五年後に郷里に帰り、五、六年間親の農事の手助をし宝永四年（一七〇七年）二十三才の時再び京都に出て商家に奉公した。求道心の強かった彼は奉公の余暇に神社、仏閣に詣り、国典・釈書を読み、さらに儒教を学び享保十四年（一七二九年）四五才の時京都東屋町御池に講席をもうけ、広く世人に講義をした。石川謙博士の「石門心学史の研究」によれば、「石門心学は人間生活の意味を探究して本性存養の道を講じた人生哲学であると共に、その道とする所を広く一般に推し及ぼさんとした社会教化の運動でもあった。教祖梅蔵は名もなき市井の儒者であり、随って集ったものは、近江屋仁介（斎藤金門）近江屋喜左衛門（手島堵庵）、大喜屋平兵衛（木村重光）十一屋伝兵

衛（富岡以直）といったような屋号を名乗る町人三十余名と若干の武士達とである。街頭から萌えたさやかな斯の運動が半世紀を経た天明、寛政の頃から急速に進展して、終には五畿八道に跨つて六十箇国に普及し、旗本、大名から公卿殿上人に至る社会の上層部まで浸潤したのであった。」という。

今日伝わる石門心学の代表的なものとしては、梅蔵の「都鄙問答」「齊家論」「門人手島堵庵の「我津衛」や「町人身体柱立」等があるが、さらに門人富岡以直の門人の布施松翁の「松翁道話」「門人手島堵庵の門人中沢道二の「道」翁夜話」柴田鳩翁の「鳩翁道話」等々多くのものがある。さらに明治以降も多くのものがあるが、石川謙博士著の「石門心学史の研究」という大著もあるが、昭和三十二年にその全集が刊行、梅蔵の全著作をみる事ができる。

梅蔵の「都鄙問答」の中には石門心学の商業経営、商業資本蓄積に関する思想を細くつたえているが、それをあらずけることはこの小論では不可能であるのでその一、二を紹介しよう。

「都鄙問答」に「商人の道を問うの段」の中で商人の道をとき「……商人といふとも聖人の道を不知ばおなじく

金銀を設（儲）けながら不義の金銀を設（儲）け、子孫絶ゆる理に至るべし。実に子孫を愛せば道を学んで栄ることを致すべし」。即ち商業経営にも明確に倫理の重要性を認めている。彼は、商業も正道すなわち買人の心を尊重し、売物に念を入れ万事相（ま）にせずに売渡すことを分計として経営するべきであり、富を蓄積することも正道によるならば是認さるべきである。しかし、「不義の金銀」をもうける仕方、すなわち不義の利潤追求、不義の資本蓄積は否定すべきであり、子孫絶ゆる結果となる」というのである。このような商人道に関する序論から梅蔵は多くの問答を以て商人の道を説いている。とくに「偽つて利を得るのは商人道ではない、正しい商人も学問の必要を強く説いている。

面白いことに、福沢諭吉が明治六年にあらわした「帳合之法」に次のようにある。

「物を売買製造するも商売なり、武家奉公も商売なり」梅蔵も「商人の売利は士の禄に同じ、売利なくば士の禄なしでつかうる如し」といつている。

また、梅蔵は「商人の心得は如何にして善からんや」という設問に対し懇切に答えているが、その要点は次の如く

なろう。武士が君主に忠義を尽すように商人は買主に忠実な商売をすべきである。すなわち、商人は私生活を質素な節約にし、売利を少くすることを第一として、万事客を大切にするというのである。要は、薄利多売により総利潤を多くすることが「商人の道」であり、商売繁昌の基本とするものである。さきに述べた経済同友会の経営者理念にもり込まれた「消費者主権」こそ梅蔵の主張、考え方に共通するものである。

梅蔵の高弟である手島堵庵の父川上宗義の享保十二年の著書「商人夜話草」には「……（前略）我が手前の物入をうすくして商物を念入、人が一割とれば、我は七、八分、又人が八歩とれば我は五、六歩、人より内ばに利得をとりて能く、得意を取べし……後略」と節儉と薄利多売を目的としている。文化四年に京都、江戸、名古屋にて出版された徹堂著「渡世肝要記」にも極めて明確に薄利多売や現金売りについて述べている。また天保十三年には大和屋圭蔵著「質素儉約現金大安売」という著書が刊行されたが、これも前記「渡世肝要記」と同様現銀安売を心がけるべく質素儉約を守り、正直を旨とし正路をふむことにより家業が

繁昌することを詳細に述べている。この書の質素儉約についての論述をみると現銀安売りと質素・儉約とを経済的にも相関係するものとして考察しており、單なる私生活の問題として質素儉約を見るのに比すれば一段の進歩といえる。

江戸期に多くの商人道や商業経営についての著作がみられたが、その思想の根本においては、西鶴や三井八郎兵衛の時代と如見や梅蔵時代との間に決定的な発展はなかった。事実、江戸後期の商人達を説いた人々の思想もその根本においては西鶴や八郎兵衛と決定的な変化はみられないとみてよいであろう。これは江戸時代の初期に出来て商業の仕方や機構が中期・後期を通じて根本的な変化はなかったし、それに対する意識も殆んど変化がなかったことも当然とみられる。

(旧高・17年)



平成十七年度(秋) 叙勲受章者

(敬称略)

旭日大綬章

榎原 稔 (旧高・25年) 元三菱商事会長

旭日重光章

沢村 紫光 (政経・28年) 元沖電気工業社長

瑞宝重光章

細谷 憲政 (旧高・20年) 東大名誉教授

平成十七年度(春) 叙勲受章者

瑞宝重光章

入江 昭 (高・28年) 元ハーバード大歴史学部長

平成十五年度(秋) 叙勲受章者

瑞宝双光章

石館 基 (高・26年) 元国立衛生試験所変異遺伝部部長

(本会調べに漏れがある場合には、お知らせ頂ければ幸いに存じます)

秋の風景



秋の風景 本館

呆けずに長生き

津田英彦

本稿は、平成17年7月2日開催の千葉支会（於ビル2号）の講演会に於いて行われた録音です。

ご紹介を頂きました新制高校5回卒業の津田でございます。

本日は学術講演会ではありませんし、私には格調の高いお話も出来ませんので気楽に聴いて頂ければと思っております。宜しくお願い致します。

本日の演題は私自身の願望でもあります。人間ある程度、歳を取ってきますとマイナス思考になり易いものです。長生きはしたいけれど呆けたくない、寝たきりにもなりたくない、苦しむの



法人 成蹊

も痛いのも嫌だ、家族や他人に下の世話をさせたくない、出来ればよく言われるPPK（ピンピン・コロリ）GNP（元気で長生き・ポックリ）のような一生を送れば良いと思うことは当然であります。しかし何時、何処で、どんな死に方をするかは神のみぞ知るところで天寿を全とうして自然死に近いポックリと死ぬる人は一割もいないと言われております。

私はまだ詣でていませんが奈良・斑鳩（いかるが）に浄土宗の吉田寺（きちでんじ）と言うお寺があるそうで別名「ポックリ寺」と呼ばれており考える事はみな同じでポックリ往生を願うお年寄りで大変に賑わっていたそうです。念仏中に安楽往生したと言う故事からこのように呼ばれるようになったとの事ですが、この言い伝えにもオチがあります。新しい住職さんが数年前に脳梗塞で寝たきりとなりご利益が無いことが判り詣でる人がどんどん減っているようですが真偽の程は知りません。しかしポックリは保久利往生と言っ

て充分に生きて安らかに死ぬことであって若いうちに急死する事ではない事です。余り急いでポックリ行かないようにしましょう。

平成15年度の簡易生命表によると日本人の平均寿命は男78・36歳、女、85・33歳とあります。ご承知のように男女とも世界に誇れる長寿国であります。

しかし、最近の平均寿命の伸び率はそろそろ限界なのか鈍化傾向にあります。日本人の三大死因は癌・脳卒中・心筋梗塞ですが、これらを全てを克服する事は至難であり、平均寿命が90歳を超えるのは無理だろうと言われております。

2000年から開始された介護保険制度は利用者・利用サービス量共に増加して来ております。要介護者の審査に当たって見ますと、こんなに沢山の方々が自立出来ず不自由な生活を余儀なくされておられるのかと、その大変さ実感します。

これは高齢化社会の宿命であります。本人やご家族の負担はもとより社会的にも大変な負担であることは事実です。私自身、生涯、介護保険料だけ支払って出来れば使わなくて済む人生でありたいと思っております。

近年、健康寿命と言う事が言われて

おります。長生きしても健康でなければ意味が無い即ち寿命の質が問われて来ました。これは平均寿命から日常生活を大きく損ねる病気・寝たきり・痴呆等、高齢化に伴う障害になる期間を差し引いたもので健康体で生活出来る寿命を言います。

平成15年度のWHOの調査では日本人の健康寿命は男72・3歳、女77・7歳とあります。どう言う統計のとり方をしたかは知りませんが平均寿命と比較しますと6〜7年短くなっています。観点を変えますと6〜7年の長きに亘って不自由な生活を余儀なくされる人が殆どと言うこととなります。自分が当てはめて見ますと空恐ろしい思いが致します。

平均寿命≠健康寿命が理想的ですが健康寿命を出来るだけ長く保ち、この差を如何にして少なくする事が願望であり課題です。しかし最近では平均寿命の伸びより健康寿命の伸びの方がやや大きいようです。社会や個人の健康に対する取り組みが良い方向に向かっているように感じております。

平均寿命が延びたのは医学の進歩と生活環境衛生の改善にあります。具体的には食生活の向上、感染症の減少等が挙げられます。平均寿命は延びてお

りますが最大寿命は変化ありません。

最大寿命に関してはオールド・パーと言いうウイスキーの商標となったトーマス・パーが152年生存したと言いう言い伝えがありますが確証もなく伝説とされています。日本では1986年に亡くなった泉重千代さんは120歳と237日生存したとしてギネス・ブックに載りました。戸籍調査で誤りがあったとの指摘もありましたがケチを付けることもありません。120才位が限界と言うのが通説です。

病気の話、これはいけない、これは駄目と言う話ばかりでは愉快ではありません。この方が元気になると言った話を中心に、なるべくなら緩つくり歳老いるために皆さんと一緒に考えて見たいと思います。人間の身体も長年使っておりますと「ガタ」がきます。100歳まで元気でおられる人の調査では、この方たちも、老化しない訳ではなく、骨、筋肉、血管、神経、ホルモン全てが均質に老化しており各機能のバランスが取れているとの報告があります。

生活習慣病の予防は大切ですが生活習慣病は慢性退行性疾患であり自覚症状に乏しいので病状が進行するまで気がつかなかったり、油断し勝ちな厄介

なものです。

生活習慣病予防に対する啓蒙運動として2000年に厚生労働省は「健康日本21」を提唱しました。2010年を目的達成年度としています。

- 1・栄養と食生活
- 2・身体活動と運動
- 3・休養のとり方
- 4・喫煙について
- 5・適切なアルコール摂取
- 6・歯の健康
- 7・糖尿病の予防
- 8・循環器疾患の予防
- 9・ガンの予防と早期発見

この9項目の正しい知識と行動を推進して健康寿命を延ばす事を目指しております。

これら全てを本日お話する時間もありますし内容が重複するものも有りますので項目を絞ってお話させて頂きます。

日本人は努力を重ねて豊かさを手にしました。しかし、その豊かさは皮肉な事に生活習慣病の増加も産み出しました。飽食の時代になりました。一方、交通手段も便利になり、家事や仕事も自動化されました。その利便さは身体を動かさなくても生活出来る様になり慢性的な運動不足を惹き起こしました。

これは高齢者に限らず各年齢層にも言える事です。

本来、人間は身体を動かす事によって発育、発達し身体機能を維持しています。

65歳以上の方を対象とした運動テストの結果、運動習慣のある人と無い人の間には5年分の体力低下の差が見られたとの報告があります。

体力は大きく二つに分けられます。一つは行動体力です。具体的には心機能・肺機能・筋力機能です。もう一つは防衛体力と称されるもので抵抗力・ストレス耐性を言います。

加齢による体力低下は加齢の影響よりも運動不足の影響が大きく普段使っていない部分の体力低下は著しいと言われております。上半身より下半身、更にバランス能力、コントロール能力の低下は著明であります。

無重力の宇宙で過ごした宇宙飛行士は筋力の低下、骨量の減少、循環器機能低下の報告があります。

地球は重力に支配されています。日常生活で重力に抵抗していると言う感覚はありませんが、加齢や肥満により何かに捉らなさと立ち上がれない等の弊害が出てきます。

人は立つためには自分の体重を両足

で支え歩く為には片足で体重を支える必要があります。歩く為の筋群を総称して抗重力筋と言います。立ち上がる約80%の抗重力筋群が働くと言われています。筋力は使わなければ退化します。これに加齢が加われば益々弱ります。高齢者歩行の特徴は膝をやや屈曲させ腰を落とし足を引き摺るような歩き方です。従って躓き易くなるのは当然です。

昔から「老化は足から」「老化は血管から」と言われます。

外国に「二本の足は二人の医者」と言う諺があります。二人の医者の一は心臓血管系の専門医、もう一人は脳神経系の専門医であるとされています。歩く事は心臓血管系にも脳神経系にも良い影響を及ぼすと言う事でしょう。一方、転倒による骨折も寝たきりになる一つの要素ですので体力維持のためにも「二本の足」を使いましょう。運動は骨量低下を抑えると言う報告もあります。簡単に誰にでも出来る歩く習慣を身に付けたいものです。

大腿の筋肉が収縮すると膝が伸展します。脛の筋肉は足先を引き上げる筋肉であり、その裏側にある「ひらめ筋」が収縮するとアキレス腱によって踵の骨が引き上げられて、爪先立ちと

なります。運動は筋肉と骨の協同作業なのです。

特殊なアスリートを除いて中高年にはエアロビクス(有酸素運動)が適しています。エアロビクスと言う概念は新しいものでは無く既に1968年にはH・クーパーによる「エアロビクス」と言う出版物があります。ウォーキング・ジョギング・スイミング・サイクリング等、いずれも下肢の大筋群を使って息切れしない程度の速度で運動を持続し呼吸・循環器系の機能向上をはかると言うものでした。

その後、有酸素運動について多くの研究結果から生活習慣病の予防、(高血圧症・高脂血症・動脈硬化症・糖尿病)の予防、骨量の維持にも有効であることが解かって来ました。その人の年齢・体力によってどの有酸素運動を選ぶかは異なりますが、高齢者では一般的には速歩・水中歩行程度が適当と思います。運動が逆効果にならないためにも現在の身体状況を知っておく必要があります。健康診断を受けられてからはじめられる事をお勧めします。これに対してアネロビクス(無酸素運動)と呼ばれる大きなパワーはでるが息切れして長く続けられない運動があります。普段からトレーニングを積ん

でいる方は別として一般の中・高年には適した運動ではないように思います。

現在の日本人の日常生活における1日の平均歩数は7000〜8000歩これが70歳以上になりますと4000〜5000歩だそうです。厚生労働省の2010年の達成目標はそれぞれ1000歩増やすことにあり啓蒙運動を奨めております。

一步の歩幅は平均して身長÷100と言われています。一分間に100歩、1000歩は100分、30歩で1Kカロリー消費するから現在通説となっている1日に必要な運動量としての300Kカロリーは10000歩とすることになります。

300Kカロリー消費するには歩行速度×時間で決まります。散歩(50m/分)で110分、平常歩(75m/分)で90分、速歩(90m/分)60分急歩(120m/分)で38分となります。他のスポーツで300Kカロリー消費するのはどの位の時間が必要か調べたデータがあります。ゴルフ1R・サイクリング60分・キャッチボール50分・野球1ゲーム・縄跳び20分・登山60分・卓球45分・テニス壁打ち30分・ボーリング9ゲーム・ランニング30分に換算しております。

何故300Kカロリーなのかと言うと日本人が平均的に摂取しているカロリーは2200〜2300Kカロリーです。生命保持のために必要な基礎代謝カロリーは身体の大きさ・年齢・性別によつて異なりますが1300〜1500Kカロリーです。仕事の内容にも左右されますが多くの人は基礎代謝カロリーに活動カロリーを加えても摂取カロリーに及ばず200〜300Kカロリー余つてしまつて言う調査結果に基づいたものです。栄養過多が続

き身体を動かさないと脂肪が沈着して肥満になります。しかし、肥満解消を目的に食事を正しく摂らないで運動するのも危険です。食事量やその質に多くの人は気を遣つております。レストラン等でもメニューの横に値段とカロリー表示も見かけます。便利だと歓迎する向きもありますが自然の営みが科学に支配されているようで寂しい気持ちにもなります。美味しく楽しく偏食しないように食べ身体を積極的に動かす方が精神衛生上に良く合法的と思つております。

摂取カロリー即ち食物に含まれるカロリー計算は比較的簡単です。カロリーとなるものは糖質(炭水化物)・蛋白質・脂肪の三つに限られているから

です。1gに持つカロリーは糖質4Kcal・蛋白質4Kcal・脂肪9Kcalですので、この3つがどれだけ含まれているかで決まります。

これに対して消費する活動カロリーの計算は簡単ではありません。大きく3つの状態を考えてみますと1つは睡眠中のカロリーで基礎代謝の95%、2つ目は座つて何かしている時のカロリーで基礎代謝の1.5倍です。3つ目は何かしら動いている時の消費カロリーです。これは活動の強さ・時間によつて違いますので調べて計算する必要があります。1日の行動の全てを24時間に亘つて記録してどのような活動にどの位時間を費やしているかを調べ、それぞれのカロリーの合計を算出します。これはタイムスタディ法と呼ばれていきます。運動は週一回長時間行うより、平均して一定量が続ける方が効果的ですが楽しくないと長続きしません。個人個人が工夫して飽きないように色々な運動を取り入れると良いでしょう。ただ余りむきにならずに体調の悪い時や天候の不順な時は思い切って休む事も大事です。

呆けについてお話しします。人の脳神経細胞の数は一十億とも一十四百億とも言われています。20歳を

すぎると毎日10万個つつ死滅し再生しないと言われております。しかし神経ネットワークは年齢に関係なく使えば使うほど充実するそうです。

しかし歳をとると多かれ少なかれ記憶力が鈍ります。痴呆の始まりではなからうかと心配になる事もあります。

老人性痴呆は大きく分けると脳血管性痴呆とアルツハイマー型痴呆があります。他にぐうたら呆けもありますが、これは別物です。

脳血管性痴呆は脳梗塞や脳出血等によって脳の神経細胞に酸素や栄養が行き届かなくなり障害が起こるものです。梗塞や出血の程度が大きければ一度の発作で痴呆が起こる事もあります。自覚症状のないような小さな発作を繰り返す事によって神経細胞が広範囲で傷つけられて、やがて痴呆を起こすものもあります。最近の多くの疫学調査や研究から生活習慣病の予防が発症抑制に有効だと言われています。危険因子は動脈硬化・高血圧・高脂血症・糖尿病だとされていますが、これら危険因子はアルツハイマー型痴呆の発症にも関係していると言った研究結果もあります。アルツハイマー型痴呆の原因は遺伝因子・環境因子が関係しており、未だ不明なことが沢山あります。これは

脳実質の変性により神経細胞が脱落し脳が萎縮するものです。

脳血管性痴呆は男性に多く発作等に合せて階段状に進行します。しびれとか麻痺や動きの低下等の神経症状を伴います。本人は初期は物忘れを自覚していません。人格は保たれ易く画像診断で梗塞や出血の病巣が判ります。アルツハイマー型痴呆は女性に多く、なだらかに進行します。神経症状は無いが、あつても少ないのが特徴です。物忘れの自覚はありませんし人格が変わる事もあります。画像診断で脳の萎縮を認めます。

最近、方々で痴呆予防教室が開かれ様々なアクティビリティの提供が試みられています。まだ確立した方法はありません。

痴呆という言葉は侮蔑的意味合いが強く、必要なケアや予防対策から高齢者を遠ざけるケースもあるとしてこの度、厚生労働省は認知症と読み替えました。

物忘れの病態を3つに分類した報告がありますのでご紹介して置きます。

- 1・物をしまつてどこにしまったか分からなくなる事がある。
- 2・人の名前が出てこない事がある。
- 3・何をしようとしていたか忘れてしま

まう事がある。

- 4・なれない場所で道に迷う事がある。
- 5・最近、買い換えた洗濯機やテレビ等、新しいものの使い方が覚えにくい。身に覚えがある方も居られると思いますが、これらは年齢による正常範囲のものとの事ですのでご安心下さい。
- 1・同じ話を何回もする。
- 2・蛇口の閉め忘れ、鍵の掛け忘れ、火の消し忘れ等がある。
- 3・前に良くやっていた日課を全くしなくなつた。
- 4・以前やっていた趣味をしなくなつた。
- 5・以前よりだらしなくなつた。
- 6・以前より些細な事で怒るようになった。

これらは正常と病気の境界線上にあるものとの事です。

- 1・今日の年月日が判らない。
- 2・少し前の事を全く忘れて思い出せない。
- 3・探し物が見つからないと誰かに盗られたと思う事がある。

このような症状は病気が疑われるそうです。生活習慣病の予防での運動や摂取カロリーのお話は先程、致しましたが呆けないためには脳を鍛える必要があります。

人間の脳を輪切りにしますと中心に脳幹があります。これは生命保持のためにあります。脳幹を取り巻くように大脳辺縁系、その外側に大脳新皮質があり、ここが他の動物と異なる人間らしい脳です。大脳新皮質にある側座核がやる気の中核です。視床下部を刺激してやる気を起こさせ脳全体を活性化しましょう。刺激するためには色々な事に興味を持ち、頭を使い、五感を研ぎ澄ます事にあります。その中でも男性は女性の存在を意識することが一番だそうです。しかし、これは話し方、付き合い方を間違えますと誤解が生じ、問題が起こると困りますので本日は触れない事にします。

女性では男性の存在もあるでしょうがお洒落が一番効果があるそうです。しかし、ヨソ様を追い掛け回すあのパワーと情熱を目の当たりにしますと良く判らなくなります。

痴呆予防の六か条を見た事があります。

- 1・人と付き合いましょう。
- 2・お酒を飲みましょう。
- 3・趣味を持ちましょう。
- 4・色々なものを観察しながら散歩しましょう。
- 5・昼寝をしましょう。

第54回 成蹊会 千葉支部総会



6・魚・野菜・果物を食べましょう。お洒落をしましょうと言う項目がありました。これは男性にも当てはまりません。

健康とは身体の状態のみならず精神的状態・社会的状態も兼ねたものでなければなりません。ストレスに晒され続けるとNK（ナチュラル・キラー）細胞の数も減り免疫力が低下します。運動が免疫力を上昇させると言うお話は先程致しましたが、お洒落にもその効果があります。お洒落と言っても着飾る事だけではありません。身体を清潔にして手入れをして鏡をみる。鏡を見たくなるような機会を自分で作るこ

とです。

ある老人施設で自分で毎日化粧をし、月一回専門家に化粧してもらおう化粧療法を見て4ヶ月後のNK細胞の活性化を調べたところ、はっきりした効果が見られたとの報告もあります。日常生活でも元気になる・活動的になる・積極的になる・社交的になる事も報告されています。フランスでは病院や老人ホームに入院患者や入所者にエステティックを施すソシオエステティシャンと呼ばれる専門家が常駐して身体の手入れ等をして元気を回復させ社会復帰を早める事に取り組んでいる施設もあるそうです。

最後に本日の話とは直接、関係はありませんが高齢者の生き方に対する諫言を読んだ事があります。出典は判りませんが、どこかのお坊さんの言葉でしょう。ご存知の方も居られるかとは思いますが面白かったのでご紹介して本日のお話を終わらせて頂きます。

私も、もう少し歳をとったら、こんな心境でありたいと思っております。「呆けずに長生きしなはれや」年をとったらでしゃばらず憎まれ口に、泣き事に人の陰口、愚痴いわず

他人の事は褒めなはれ

聞かれりや教えてあげたかて知ったか振りしなはれんいつでもアホでいるこつちや

昔の事はみな忘れ

自慢話はしなはれん

わしらの時代はもう過ぎた

なんぼ頑張り力んでも

体がいうこと効きまへん

あんたは偉い、わしやあかん

そんな気持ちでいてなはれ

お金の欲を捨てなはれ

なんぼゼニ・カネ持つても

死んだら持つてはいけまへん

ええ人やつたとみんなから

言われるようにしなはれや

生きてるうちにバラまいて

山ほど徳を積みなはれ

そやけどそれは表向き

ほんまはゼニを離さず

しつかり握つていなはれや

お金があるから大事にし

みんなベンチャラ言うてくる

内緒やけどほんまだ

勝つたらあかん負けなはれ

いずれお世話になる身だす
若いもんには花持たせ
一歩下がってゆずるのが
仲よう暮らすコツですわ
いつも感謝を忘れずに
どんな時でもへえおおきに

我が子に孫に世間様
どなたからでも慕われる
ええ年寄りになりなはれ
ボケたらあかん、そのために
頭の洗濯生き甲斐に
何か一つ趣味持つて
力一杯生きとくなはれ

雑駁な話をご清聴頂き有難うござい
ました。

津田会津田 胃腸科医院（高・29年）

略歴

- 昭和29年 成蹊高等学校卒業（5回）
- 昭和36年 順天堂大学医学部卒業
- 平成1年 医療法人社団津田胃腸科医院理事
- 平成8年 14年 社団法人千葉市医師会会長
- 平成14年 社団法人千葉市医師会顧問
- 昭和59年 関東ラグビーフットボール協会メデイカルササエテ1委員

戦後の世界経済の変遷と日本

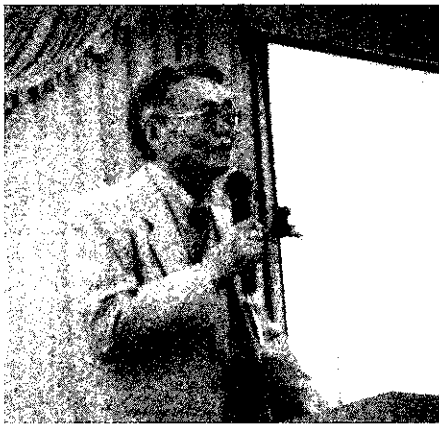
成蹊大学名誉教授 廣野良吉

ひろのりよきち
本稿は、平成17年6月11日開催の廣野ゼミ（於一）OB会（広蹊会）総会2階演説室（大ホール）で行われた講演の抄録したものです。

本日はたくさん卒業生の皆様にお集まりいただき、久しぶりに話す機会を持たせていただけたことをありがたく思っております。今日は、これまで私が見てまいりました世界と日本経済の動きを、かつてのゼミの時と同じように、フランクな私見も交えながら振り返っていききたいと思います。

【戦後復興から高度成長の時代へ】

我々の世代にとって忘れることのできない1945年8月15日を境に日本の状況は一変しました。戦争一色の社会から一気に戦後の復興へと、平和民



主国家の制度の下で全国民が必死に生きていたわけです。当時大学生だった私自身も、わが国の復興に役立ちたいという気持ちで一杯でした。

そこで早速ですが皆さんに質問を出したいと思えます。1945年のわが国の国民一人あたりのGDPはいくらだったかご存知でしょうか？当時はなんと45USDドルです。偶然年号と符合しているのが覚えやすい数字です。ちなみに現在は4万5千USDドルと同じ「45」です。当時は政策も経済復興最優先で占領軍の統治の下、日本経済を立て直しに邁進していったのです。

更に第二の質問です。1952年4月28日は何の日だかご存知ですか？これはわが国が独立した日です。私は今でも、「独立記念日」と呼んでいます。サンフランシスコ講和条約を経て晴れて独立国家となったわけです。世界中の戦争が終結した記念日でもあります。なお、その時の日本のGDPは世界の2・4%というシェアでした。当時の吉田内閣の経済復興推進から

池田内閣の所得倍増計画へと、重化学工業を中心とした国内インフラの整備、そしてその後の60年代の高度成長へと向かっていきました。この背景には、わが国は軍備費にお金を使わなくて済んだ分、経済に傾斜できたという当時の状況もありました。

【世界経済の変化と成長の持続】

では本日三つ目の質問です。1971年8月15日には何が起こったか覚えていますか？所謂ニクソンショックです。当時の為替レートは戦後の長い間1ドル360円で固定されていたわけですが、すでに輸出立国と化していたわが国は、膨大な貿易黒字と外貨蓄積がなされ諸外国からその異常性が指摘され始めていたのです。私はその頃、経済同友会の国際共同研究プロジェクトの一員として何度も米国を訪れ、大統領の経済諮問委員会のメンバーと議論を繰り返したのを覚えています。私自身は自由化論者でしたが、当時の日本政府は諸外国が主張する外国為替自由化および円の切り上げに対し強硬に反対していたのです。

そこでアメリカは突如、NEP (New Economic Policy) を打ち出してきました。米ドルの金兌換停止を

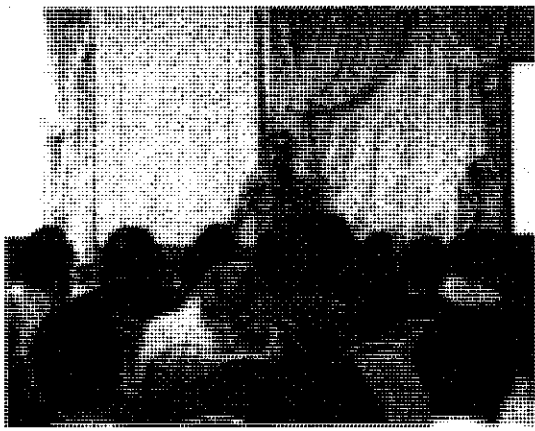
中心とした経済政策です。金の裏打ちの無くなったドルは、当然のことながら価値が下落し、結果的に約16・8%の切り下げとなり、円にとっては1ドル308円への切り上げとなったわけです。当時、固定相場制から変動相場制への移行は大変な騒ぎをもたらしましたが、わが国の産業界は生産性向上努力で見事その荒波を乗り切ったのです。

その次の経済環境の大きな変化は、1973〜1974年に発生しました。それは、第一次石油ショックです。当時原油や天然ガス等は全てドルで取引さされていました。ドルの実質的価値下落を受け、産油各国は輸出価格を引き上げたのです。当時の日本経済は、石油依存型に完全に移行していた状態でありましたから、この影響は国家的な規模であったわけです。現象面では消費者がトイレットペーパーなどを買いに走り、産官レベルではそれまでの高度成長熱に冷や水を浴びせられた格好で、省エネを合言葉に体質の転換を余儀なくされました。

外国為替と石油という二つのショックを克服した日本経済はその後、産業界の経営努力、特に輸出競争力の進展の結果、見事な経済成長を遂げ198

0年には世界のGDPに占めるシェアは10%にまでになりました。しかし、国際的な立場では常に後ろ指を差されていたのです。それは、日銀（政府）による為替介入です。輸出産業を保護する意図で人為的に円を割安に操作していた事実が非難されたのです。経常収支は慢性的な黒字でしたから、政策の常として意図的に資本収支でバランスさせようとしたのです。

そして1985年9月、当時の中曽根内閣の橋本蔵相はG5各国に呼び出される格好でニューヨークに臨みました。そして米国の対外不均衡は正の名目で1ドル200円台から100円台へ一気に50%近い円切り上げとなった



のです。所謂、プラザ合意です。

【バブル経済破壊、そして再生へ】

その後わが国では急速な円高による不況を避けるべく低金利政策がとられると同時に、ドル換算でみた所得の膨張や高めの物価水準を背景に不動産や株式に投機が向かいました。「バブル経済」です。

このバブル経済は後の91年（欧米では90年）に崩壊しましたが、ここでも日本政府は政策を誤りました。欧米諸国では同じ様にバブルを経験し金融機関の不良債権問題に直面しましたが、迷うことなく財政支出を出動し、たった一年で立ち直ったのです。わが国では当時の大蔵省が発表した不良債権の数字も正確であったり国民の反対もあつたりして後手後手の状態でした。そうして立ち直るまでにはなんと12年の歳月を要してしまったのです。

【環境問題の解決と平和国家】

さてわが国は様々な国家的苦難を乗り切りGDPも伸長し、ピーク時には世界全体のGDPの18%を占めるまでになりました。

ここで振り返っておかなければならないもう一つの歴史的事実としては

「環境破壊」です。当時の高度成長のツケとして国内で様々な問題が発生しました。四日市ぜんそくや水俣病に代表される公害問題です。1970年には環境庁が発足し遅まきながら問題に取り組み始めました。現在となつては共通認識ですが、やはり経済発展は環境問題と両立させながら進めていかなければならないということです。ところが隣の中国ではその歴史の過ちを繰り返しています。例えば重化学工業都市の重慶では小学生の36%がぜんそくを罹患しているという報告もあります。なお中国では内政問題としても一つ、社会政策の失敗ということも挙げられます。上海では一人あたりGDPが9000ドルですが、内陸部に行くとい00ドルという格差です。こういったアンバランスな状態が、都市部への急激な人口流入を引き起こしそして失業問題やひいては犯罪という社会現象に連鎖していつてしまうのです。環境問題と社会問題に手をつけず、

経済成長や軍備力強化にはかり目がいつている訳で、私自身も中国の政府の首脳部や関係者と会う機会にはいつも問題提起と提言をし続けています。

わが国の話に戻りますと、80年代ま

でに深刻な環境問題をほぼ解決できましたし、所得分配という観点からも理想的な社会政策を推進できたという評価できます。「先進国の中で最も所得分配が公平な国」という国連のレポートもあります。ここで申し上げたいことは、日本は環境問題と社会政策という2点においては途上国から見ればお手本であり世界的なモデルとも言えるのです。

更にもう一つわが国が胸を張れるのは「平和国家」という事実です。1945年以降、一切戦争をしたことが無い先進数カ国にわが国は入っているのですが、世界的に見ると稀有な存在とも言えるのです。これは国民全員が平和を希求しているという意識構造から来るものです。一方、中国は戦争の歴史です。第二次世界大戦後、朝鮮戦争への介入や、インドやベトナムなど周辺国との紛争を繰り返してきました。

また最近、中国で発生した反日行動の報道が記憶に新しいところです。わが国としては外交的に反中・反韓感情など決してなく、平和国家として生きてきたのですが、特に中国での動きは気になります。しかし、わが国としても、若干の反省材料はあります。それは歴史教育です。受験重視の為に歴史

の授業が大正時代や昭和初期で終わってしまふことが多く、戦前の隣国との関係を正しく理解している学生が意外と少ないという事実です。今後はお互いの歴史認識のずれを無くすという努力がより一層求められているわけです。

さて、本日お集まりの皆さんはお勤めの方や現役を引退された方々などそれぞれ状況の中におられると思いますが、御家族を含めてお健やかであると同時に、企業や地域社会レベルで益々活躍されることを祈念し本日の話を結びたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

廣野ゼミO B会 (広蹊会総会)

6月11日の土曜日、大学10号館12階ホールで広蹊会総会(廣野ゼミO B・O G会)を開催しました。初めての試みとして会を2部構成とし、

第1部では名誉教授廣野良吉先生の講演を、第2部では立食形式の懇親会を行ないました。

講演のテーマは、戦後の世界経済の動きと、復興から今日までの日本経済の変遷についてでした。高度成長期の



わが国の目覚ましい成長や為替レートの推移に触れながら、ニクソンショックや石油ショックなどの大きな変動を生産性向上等の企業努力で乗り越えたものの、為替介入や産業保護を目的とした諸政策がプラザ合意後の急激な円高や、その後のバブル経済の到来と崩壊後の長期間の混迷を招いたなど、これまでの過程をわかりやすく講演して頂きました。

そして、急激な経済成長と変化を遂げている中国が、環境問題や社会政策の面で日本の過去の経験に学んでいない点などについても熱弁を振られました。

日頃の多忙な生活で勉強から遠ざかってしまっているO B達も、これまでの経済や企業の成長を自ら担ってきた経験を振り返りながら、学生時代に戻ったように熱心に聴き入っていました。

第2部の懇親会では、年次ごとの懐かしい仲間や先輩後輩同士の交流に先生や奥様も参加され、学生時代を振り返りつつ近

況報告をしあうなど、時間の経つのも忘れて話が咲きました。

広蹊会終了後も三々五々、2次会などに流れたほか、30人以上のO B O Gが先生のご自宅にお邪魔するなど、旧交を温めることができました。

高村昌寛(経・平12年)

秋の蹊成



秋の風景 本館前

無名学者の思いをたどる

久保正彰

本稿は、平成17年9月16日開催の成蹊高等学校(旧制)同窓会委員会(於ニューヨーク・桃杏楼)で行われた講演を抄録したものです。

成蹊会の大先輩の皆様がた、それから同輩の、かつては教室で机を並べて学び、ときにはふざけていた悪童諸氏の老いてなお御元氣なお姿を拝見いたしましたして、何とも言えない、なつかしい、恐ろしい感じにうたれております。唯今、ご紹介いただきました、久保正彰でございます。

私は成蹊高校を去りましてから大半の年月を、古代ギリシア、ラテンの勉強に費してきました。西洋古典学と呼ばれるものです。この学問の歴史は非



常に長いのですが、その長い歴史の上で、今日の学問や研究に直結するような形で、飛躍的展開をとげたのが、いわゆる十五世紀、十六世紀のルネッサンスの時代であります。

ルネッサンスというと、先ず、見ごとな絵画、彫刻あるいは建造物などを思い浮かべるかたもありません。私も古典学者、とくにギリシア語文獻に関心の深い者にとりましては、ルネッサンスという時期は、一つの巨大な世界——コンスタンチノープルを中心とする中世ビザンチン世界であります——それが崩壊した、そのショックの中から、奇跡的に生まれ出た産物のように思われます。そしてその誕生に大きい力を貸したものが、その頃北ヨーロッパで発明された活版印刷の技術でありました。ビザンチン世界の崩壊した瓦礫の中から辛うじて救出された、貴重なギリシア語の中世写本(手書き本)は、活版印刷に付されるや、たちまち西欧諸地に広く伝わりました。詩人ホメロスや哲人プラトンなどの作品

も、この崩壊と再生の奇しき組合わせが同時に生じていなかったならば、今日の私どもの処にまで届かなかったかも知れません。

ところが手書きのギリシア語の書物を活字に組むという当時の作業には、多くの難問が立ちはだかつていました。綴りや句読点、略字や続き書きなど、ごく初歩的な問題からはじまる活字化の処理は、そう簡単ではなかったのです。さらに同一の著述を記録した複数の写本が発見された場合には、それらの間に優劣の差を見出し、最も優れた写本に準拠した印刷本を作らねばなりません。その為には、優劣を定める学問的な整理と検証が必要であります。写本と活版印刷との出会いによって誘発されたこれらの難易さまざまの問題と、その具体的解決の手立てはルネッサンス以来五百年経た今日もなお、世界のギリシア学者達の重要な関心事となっております。

ルネッサンス時代に印刷された書物とくに古代ギリシア、ローマの時代に著された書物の印刷本を開いてみると、しばしば、本文が占める印刷面に比して、欄外余白の紙面が広くとられ、本文の数を占めていることに気付きます。当時、紙が高価であったことを考

えると、不思議にさえ思われます。しかしこの印刷本の形式の一つには中世伝来の写本の様態を受けついでいた為でありましょう。多くの由緒正しい中世写本には、本文の四周に広い余白があり、そこには、当該の作品本文に関して古来の学者たちが寄せた注記が、ぎっしりと書き込まれています。典拠や、類似の用例、語釈や後世人の模倣例など、ある作品のある特定箇所のみわば文藝的、生活史の痕跡が記入されている、と言うことができます。

このような中世写本を前にしてルネッサンスの印刷家たちは、自分たちが活字で印刷する古代作品も、同じように本文の四周の余白は学者たちの注記によって埋められるべきもの、と考えたのであります。十六世紀末にもなりますと、余白の注記そのものも、活字に組まれて印刷されるようになります。しかし十五、六世紀の印刷本の多くはまだ、余白は余白として残されていました。そこには当時の学者たちが、活字ではなく、自筆で注記を施していく余地が残されていたのです。そこにはもちろん、中世写本記載の注釈が、もう一度そのまま筆写されている場合も少なくありません。しかし、同時にルネッサンスの学者が、独自の立



場で自分が調査し発見した事項を記入している場合も稀ではありません。余白は新しい学問の揺りかごでありました。

そのようなルネッサンス印刷本の欄外余白の肉筆の書込みから、今日、何か意味のある事柄を読みとることが出来るものでありましょうか。私は以前にも、ルネッサンス期フィレンツェの大学者アンジェロ・ポリチアーノの自筆の欄外書込みの調査をしたことがあり、この人物の想像を絶する博学ぶりをつぶさに目撃して驚嘆しました。ま

た今日準備して参りました話題も、別の資料をもとに、同じ問いに答えようとする試みであります。

今回の主人公は、アンジェロ・ポリチアーノのような名声高い大学者ではありません。三年ほど前にその出自が再発見されるまでは、誰も知らない、どこにも記録が残っていない、一人の無名学者でありました。

私がかれの名前ヤコプス・ホイエルと、その欄外余白の書込みに触れることとなったのは一九九四年夏でありましたから、もう十年以上も昔のことです。ベルギーの、とある古書店で、一五二七年ヴェネチアで出版された一冊の書物と出会ったことがきっかけでした。それはギリシアの詩人ホメロスの作品集一巻でした。しかし最初はこれを買おうとも思わず——かなり高価でありましたから——ただ手にとつて開いてみたのです。私が驚いたのは、その書物の随所に肉筆で記入された、極細字の膨大な量の書込みでありました。アンジェロ・ポリチアーノほどの学者が十六世紀にも現れて、ホメロスの全作品に明細な注記を施したのであるうか——というのが私の最初の反応でありました。驚いたのは、ギリシア語、ラテン語による注記の量もさることな

がら、それよりも、ホメロス詩の単語の語形や綴りの印刷が過っている箇所ごとに、その誤謬を発見し、正している処置の正確さには、深い敬意を覚えるほどでありました。しかし、そのような書込みや訂正を附記した人物については、その名がヤコプス・ホイエルであるということ以外には、何も判らぬままに七、八年も過ぎてしまいました。ただ、かれが引用している百種類ばかりの刊本の刊行年代を調べた結果その主要なものの数種が一六八〇年代後半のものであり、中でも最も新しい書物は一六八九年刊行の、サルマシウス著「同名異種葉草論」であったことから、またそれ以降の刊行書物に対する言及が皆無であることから、この無名の大学者の活躍期は一六八〇年代であったろう、ということだけは推察できました。

その後、三年の間にフランス、イギリスやオランダの学者たちの助力のおかげで、このヤコプス・ホイエルの周辺にはわかに明らかになって来ました。オランダの古都ユトレヒトの大学図書館の写本室には、ヤコプスの学生時代のノート・ブック数冊や一六七六年に訪英した際の詳細な旅行記一冊などが保存されていました。ロンドンの大英

図書館には、ヤコプスの死（一六八九年）後、その蔵書約千冊が競売に附された際の、目録一巻が残っていました。その目録には、例の、一五二七年ヴェネチアのアルド版「ホメロス全集」一巻の記載もあり、故人の肉筆注記多数あり、という説明付きで、この時に売りに出されていたことも判りました。

しかし何よりも大きい助けを提供してくれたのは、アムステルダム大学の美術史教授のマルテン・ヤン・ポーク氏でありました。教授はオランダ絵画史の黄金期、画家たちのパトロンであった富裕階層の家譜研究という新分野の開拓者であります。二〇〇二年初めてお会いして以来、ユトレヒトのホイエル家の歴代家譜に関する多大の資料を私の探索の為に提供してくれました。若し私に小説家の才能があつたならば、今手元にある材料だけを使つても、ゲーテの『ウィルヘルム・マイスター』やトマス・マンの『魔の山』のむこうを張つて、『ヤコプス・ホイエル』という教養小説の一巻を著して、ノーベル文学賞受賞を夢みていたかもしれせん。

それほどにヤコプス・ホイエルの背景は華麗であり、芸術や学問の彩り濃く、しかも最後は悲劇的暗転によって

一門の栄華が終りを迎えるというものでありました。ヤコブスが稀代の英才であったことはホメロス全集の余白注記だけからでも充分に明白であります。かれの非凡な才能は十才台の頃のノート・ブックからもよく判ります。かれがまだ少年時代にアントワープのイエズス会の学校に送られ、ギリシア語の徹底的習熟に励んだことも、次の驚くべき事実から判明しています。

ヤコブスは一六八九年、三十八才で没していますが、その蔵書中には肉筆三巻の『ギリシア語語源辞典』が残されてきました。このフォリオ版（新聞紙半面のサイズ）一巻約五センチの厚さの三巻は現在もユトレヒト大学図書館の宝として保存されています。肉筆」というのは、ヤコブス・ホイエル自身の筆ということですが。しかも、このみごとに筆蹟の写本を完成するためには、ヤコブス・ホイエルは「三週間」の期間しか与えられていなかった、というユトレヒト市の公式の記録も残っています。一六八八年頃のことです。ちなみに十八世紀末、同じような辞典を筆写したポーソンという英国の大学者はその為に六ヶ月を費したことが判っています。ヤコブスの場合このように短期間に筆写が可能であったのは、

ヤコブスがこの大部の辞書の原本を完全に暗記していたから、といわねばなりません。その原本は当時アントワープのイエズス会が所蔵していました。記録によれば、ユトレヒト市は三週間の期限付きでこれを借り出し、ヤコブスに写すことを依頼したとのことです。ヤコブスは少年時代にアントワープのイエズス会を訪ね、この辞書を正確に暗記することに集中していた、と考えざるを得ないのです。

ヤコブスが古代ギリシアの学問に傾注することになった理由は、恐らく当時のユトレヒト大学のグレーヴィウス教授の勧めによる処か、と思われまます。十七世紀オランダ諸大学では古代ラテン学の分野では当時世界屈指の大学者が幾名もいましたが、ギリシア研究は凋落の傾向にありました。ヤコブスはこの分野において自分の曾祖父ワレリウスやその弟子たちに次ぐ仕事を著したいと思つたのかも知れません。

しかしヤコブスにとって、もつと身近かな処に、学問に没頭する動機があつたのかも知れません。かれの家は父の代まで、五代にわたってユトレヒト市長を勤めた家柄であり、母方も代々デルフト市長でありました。両家とも当時のオランダでは屈指の名門で

ありましたが、ヤコブスが二十二才の時、ユトレヒトはフランス軍によつて占領され、家屋敷は接収され、市長であつた父は追放される、という憂目にあつていました。ヤコブスとその母親はユトレヒトに残りましたが、ヤコブスは終身独身で終り、ここに家系も絶えています。

ヤコブスが、ホメロス叙事詩『イリアス』の登場人物たちの中で、とくにトロイアの悲劇的英雄ヘクトルとその最期に深い関心を寄せて、その死の描写に細密な注記を施していることも、もしかしたらフランスに敗れたユトレヒトの悲惨が影を落しているのでは、と感じることがあります。また、『オデュッセイア』の最終巻の、英雄オデュッセウスと老父アルテスの再会場面にも、細かい注記を付し、その描写が後世の詩人たちに深甚の影響を与えた旨を記しています。ヤコブスも、追放された父デリックに面会に行つたのでは……？ その証拠は皆無であります。アムステルダムスのポーク教授も私も、この点での意見は完全に一致しました。

無名学者の思いをたどる道筋はまだまだ遠く続いておりますが、今日はこの辺で終りとさせて頂きます。あまり

ギリシアのことばかりやっているためしが食えなくなる、これは私の人生の教訓でもありますので。

長時間にわたり御清聴賜りありがとうございました。

(旧高中退)

略歴

1946年4月	成蹊学園専科3年 転入
1948年4月	成蹊学園高等科理科 進学
1948年12月	米國留学の為に退学
1953年6月	ハーバード大学卒業 (ギリシア語・サン スクリット)
1965年4月	成蹊大学文学部助教 授
1968年	東京大学文学部西洋 古典学科助教
1974年4月	東京大学文学部西洋 古典学科教授
1991年5月	東京大学名誉教授
1992年4月	東北芸術工科大学学 長(98年3月)
1992年12月	日本学士院会員
2002年2月	日本学士院第一部 長(現在)

私の戦争体験 『零戦空戦記』

ひじかたとしお
土方敏夫

1947年10月14日
成蹊高等学校（於 桃杏を
平成委員会ヨリ）の
は催会キレの
本文同窓会（ユモ）で行な
日開会トモ抄録した

皆さん、こんばんは。土方敏夫でございます。

早いもので私が三十九年間、教壇に立たせていただいた成蹊をリタイア後、二十年の歳月がたちました。退職したのは一九八五年、私が六十二歳のときのことでしたが、こうして今、皆さん一人一人のお顔に接し、大変懐かしい思いがいたします。

私は退職した後、外務省の仕事に携わり、二年前に八十歳で辞めて天下晴れての浪人となりました。成蹊での教師生活や、外務省の仕事を通じ悔いのない人生でしたが、ただ一つ、私には



やり残した仕事がありました。

実は私が成蹊に奉職する前の学生時代、海軍第十三期飛行予備学生として学徒出陣した過去があります。その十三期の予備学生のことを詳しく記した記録は、それまで皆無と言っていいほどありませんでした。当初、私はその記録を出版するなど毛頭考えてはおらず、ただ後世に記録として残しておきたいという気持ちが、大変強くありました。

外務省を辞めて浪人となるやまずまずその思いが募り、史実に基づき、できるだけ冷静な気持ちで当時を振り返ってみようと思いついて筆を取り始めたのは、浪人となって三カ月ほどたったころのことでした。それがたまたま昨年八月に『零戦空戦記・ある十三期予備学生の太平洋戦争』と題して光人社から出版されました。今日はこの本を基に、私の戦争体験記として皆さんにお話したいと思います。

海軍飛行予備学生募集に五万人

戦局が傾いてきた昭和十八年、戦闘機の搭乗員の数も少なくなってきたため全国の大学、高専の学生を飛行機の指揮官として募集することになりました。私たち十三期の海軍飛行予備学生はそのときに応募した学生たちですが、応募人数はなんと五万人にも上り、そのうち試験で受かったのが五千人ですから、十倍の高い競争率でした。いかにその時分の学徒たちが真剣だったか、分かる気がします。太平洋戦争はこの後二年で終わるわけですが、この十三期予備学生の同期は、「俺の一生はこの二年間が全力投球だった。後はお釣りの人生だ」というのが口癖で、この二年間に自分の持っている全精力を爆発させた毎日でした。

以下、幾つかエピソードを主にお話したいと思いますが、第一に優等生は駄目だということです。飛行機の操縦には旋回計というのがあります。計器の真ん中にある鉛の玉は、飛行機を操縦中ピタッと計器に吸いついたように止まっていけないといけない。優等生はこの模範的な操縦を忠実に守るのですが、その優等生の操縦士が実戦ですぐ敵機に落とされてしまう。というのも、飛行機というのは機首の向

いた方向に真っ直ぐに飛んでいると飛行経路を読まれて、弾を後ろから浴びせられますと必ず命中する。ところが機体を滑らせながら飛ぶと、弾はそれる。戦場での飛行機の操縦というのは下手な操縦で滑らせたほうがいいわけです。これが実戦では随分役に立ちました。

戦場では訓練で習った技術というのはあまり使わなかった。大きな水平スローロールを撃ちながら、飛行機を滑り通しに滑らせて、好機を逃さず敵機に向かっていく。実戦で使った飛行技術と訓練で使った飛行技術とは、全然違っていました。

訓練の「応用」が実戦では肝要

必要なのは普段の訓練の「応用」ということです。学校教育でもそうだと思います。学校で習っていることがそのまま社会で役立つのではなくて、基礎をしっかり身に付けたものが社会に出たときに、どうやって学問をうまく生かすか、そこが問題ではないかという気がします。

軍隊というところは部下と指揮官とで成り立つわけですが、指揮官が部下を思いやるのは、単に優しい言葉をかけてやることではない。私は練

習航空隊を卒業して、教官をしばらくやっていました。海軍では、その教官の親玉は分隊長といえます。その分隊長を補佐する役目を分隊長というわけですが、私が分隊長役をしていた昭和二十年の三月、今の北朝鮮の元山航空隊にいたときのことです。特攻機が出撃する際に、一人の下士官が駆けてきて、「僕の時計が壊れてしまった、誰か時計持っている人はいませんか」と言ってきました。

そのとき私は、大事にしていた時計を首にかけていました。これは零戦の備品として付いていたスイス製の非常に正確な時計でした。自分の私物ではないので首から外そうかどうかたぬらぬらがあったのですが、そのとき分隊長は、無造作に自分の時計を外してその特攻隊員に与えたのです。それを見てとっさの決断の早さに、「ああ、これが本当に部下を思いやる指揮官の気持ちだな」と教えられました。

「仏の分隊長」と呼ばれた

海軍は下士官と士官とがはっきり分かれています、いわゆる予科練で練習生を教育するのは、下士官の教員が全部受け持ち、士官の私たちがそこに口を挟むことはしにくい。ところが、下士

官の教員の中には練習生をバツターと称してぶん殴ったり、こん棒でたたいたりすることがありました。そういうことはやめると言いたいのですが、士官が口出しするところではない。そこで、バツターで殴る時間になると、私は練習生のデツキへ遊びに行くわけです。「おい、どうだ、元氣か」などと話しかけると、分隊長の前ではさすがの下士官もバツターはできない。それが練習生たちに伝わたらしく、私のことを「仏の分隊長」と呼ぶようになりました。

私が所属していました「戦闘303飛行隊」には、皆さんご存じかもしれませんが、「天下の浪人・虎徹」といわれた岩本徹三少尉や、谷水飛曹長という撃墜王がいました。私などはただ階級が上だというだけでまったくの初心者でしたが、そういうベテランに随分助けられ、戦場を生き延びてきた。人間と人間との絆はものすごく強いものです。その絆というのは信頼関係です。人間的な信頼関係で強く結ばれることは、戦場ではものすごく大事なことでとだと実感した次第です。

よく「戦争へ行つて空中戦のときはどんなだった？」と聞かれるんですけども、敵機を見るまでは全然怖くな

いのですが、いざ空中戦となると無我夢中、反射神経で飛び回っていました。当時は、時計と航空図と計算尺で計算して帰還するわけです。部下は編隊を組んでいますから、航法が満足にできていない。

沖縄島の西方六千メートル上空で左旋回で待っているといつて、空戦から離脱してから、そこで一人で部下を拾って回るときが一番怖かった。燃料の残量も気になるし、いつ敵の編隊が現れるかもしれない。しかし、一機でも二機でも連れて帰らなければやはり指揮官としての責任が問われます。大言壮語せず、目立たないけど黙々と自分の責任を果たすタイプの人が、強い戦闘機乗りだなということを目の当たりにしてきました。

けんかに型はない

それから、けんかに型はないということ。空中戦は型があつてやるのではない。普段私たちが練習航空隊で練習していたのは、ちょうど剣道でいうと一対一でやっているようなものです。剣道で野試合というのがあり、両側に一列に並んでワーツとたたき合いをする。一対一では強い三段とか四段も野試合では、後ろからバツサリ切ら

れてしまつたりするのです。

話は変わりますが、鹿児島島の鴨池という飛行場が私たち戦闘三〇三飛行隊の基地でした。当時、空襲が激しいので民家に分宿していました。一日の空中戦が終わり、ライフジャケットを抱えて、杉林中尉と二人であぜ道を歩いていったときのことです。幼稚園ぐらいの女の子を連れ、くわを肩にした一人のおばあさんとすれ違ったことがありました。

「ご苦労さんですね」と声をかけて、「兵隊さんもご苦労さんですね」とすれ違ったときに私は、杉林に「おい、杉林、俺はなあ、あのおばあさんと女の子のために死ぬのだったら本望だ」と、そのときに感じたままを言ったんです。そしたら杉林も「俺も全くとおまえと同じことを思っていた。あのおばあさんと幼い女の子のためには命を捨てても平気だ」と。

いわゆる国とか、天皇陛下とかは一つの象徴であつて、具体的には愛する人のためとか、おばあさんとか、かわいい子供とか、この緑多い国土とか、そのためになら命を捨てても惜しくないというのが、当時の若者の考え方だったと思います。それから三日後に杉林はグラマンに空中戦で撃墜されて戦

死するわけですからけれども、私はときどき靖国神社に行って「おい、杉林、おまえ本望だろうな」と話しかけたりしています。

特攻隊出さない隊長の信念

私が戦闘機に乗っていたというとき「特攻隊でしよう」と言われるのですが、特攻隊と戦闘機隊とは全然違います。戦闘機は、空中戦をやつて敵を落として帰つてこなければいけない。特攻隊は爆弾を積んで行つてそのまま自爆するわけです。私も元山航空隊の教官をやつていて、三回特攻隊に志願しました。だが自分で志願しながら、正直言つて特攻隊で死ぬのは嫌だと思つておりました。空中戦で自分が撃たれて火を噴くのは、自分の技量が未熟で相手のほうがうまいわけだから、戦闘機乗りとしては本望なんだけれども、特攻隊は初めから爆弾を抱いて行くわけです。これだけは心の中で嫌だと思つていました。

ところが、私のおりました戦闘三〇三飛行隊は岡嶋清熊という少佐が飛行隊長だったわけですから、その岡嶋少佐は「俺の隊からは絶対特攻は出さない。あくまで敵をたたき落として帰つてきて、二度、三度戦うのが戦闘

機隊の本望だ」と言つて、上層部から「おまえは国賊」と言われながらも、最後まで特攻隊を出さなかった。たまたまその飛行隊長の下にいましたから私は三回志願したにもかかわらず外され、特攻とは縁がなくて済みました。国賊と言われても、最後まで自分の主張を曲げずに特攻隊を出さなかった海軍少佐もいたということです。

海軍には士官室というのがあります。

士官室というのは、中尉、大尉くらいまでで、やつとこさ少尉になったばかりの若い連中は、士官次室へ集まるんです。その士官次室のときに鍛えられる。こうしてはいけない、ああしなさいと「次室士官心得」というのがありました。これは実社会に出てから随分役に立ちました。皆さんの中で部下をお持ちの方は、次室士官心得というのを一遍お目通しになると、参考になることが非常に多いと思います。

その中で私が一番心に残っているのは、「不関旗を揚げるな」ということです。艦隊行動をやっているときに一隻でも変な操作をすると、衝突する恐れが出る。そこで機関が故障したとか、舵が故障したというときには、スルスルと不関旗を揚げ、「我、舵故障、隊列を離れる」といって、訓練から外へ

出てしまうわけです。士官次室では「不関旗を揚げるな」というのが一つのモットーでした。これは私の人生には非常に役に立った言葉でした。次室士官の中にはふて腐れていたのが随分いましたけれど、集団の中で一人ふて腐れてチームワークを無視することはやめよう、どんなことがあっても不関旗は揚げないということが、海軍で習つて一番プラスになったことでした。

素人の女性に手を出すな

海軍では、酒と女の問題に関して「ブラックを買え、ホワイトには手を出すな」という鉄則があります。クロウト（女人）だからブラック、シロウト（素人）だからホワイト、こう言っていたわけです。海軍では、素人さんに手を出して問題を起すと同期生につまはじきにされる。お金を出して遊ぶのはいくら遊んでも誰も文句は言わない。そういう遊び方をきちんと指導してくれたというのも、海軍のいいところだったと思います。

私たちは戦後、『雲流るる果てに』という同期の遺稿集を出しました。戦死した友達の遺稿を全部集めました。その前に、左翼系の人たちが出した『きけわだつみのこえ』という遺稿集

がありますが、非常に偏っていて、戦争は嫌だ、俺は嫌だと言つて死んでいったという学徒の遺稿ばかりを集めたものでした。私たちの同期は随分周りで死にましたが、「俺たちがやらなくて誰がやるか」という気持ちでみんな戦つたのです。それを、戦争は嫌だという遺稿集ばかり残すのは、同期生たちに対して、生き残った者としての責任が果たせないではないかと、すべての同期生の遺稿を集めて一冊の本にしたわけです。

平和を望む悲痛な叫び

その『雲流るる果てに』の遺稿集の中に、鹿屋の特攻隊の基地で出撃した同期の連中の川柳が残っております。その中の一首、私が今でも頭に残っているのは、特攻で死ぬ直前に書いた川柳です。

「ジャズ恋し 早く平和がくればよい」。この短い川柳の中に、彼らの血の出るような叫びが私には聞こえるような気がします。

渡邊兵力先輩を偲んで

旧制高校理科甲八回卒の渡邊兵力先輩が、九月六日に九一歳で逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私は兵力さんより四八歳も年少ですが、山岳部と日本山岳会の後輩として、長年公私に亘りお世話になりました。

私が成蹊中学校で山岳部の門を叩いたとき、兵力さんは日本登山界の重鎮として、まさに天上界の存在でしたが、そういう先輩をクラブの誰もが親しみと尊敬を込めて『兵力（ひょうりき）さん』と、ファーストネームで呼ぶことが出来る素晴らしい環境の中で、私も山の世界に魅入られ、のめり込んでいきました。

兵力さんは、秩父宮殿下の御用掛として宮家に仕えていらつしたお父上に連れられ、十歳の折に富士山を登ったことがきっかけで登山を始めたそうです。幼少時にはしばしば殿下とスキーや登山を共にされました。

旧制高校在学中の昭和七年、セガンティーニの絵に憧れた旅行部の仲間と、自分たちの山登りを実践する精神修養の場としての山小屋を持ちたいという一念で、学園と岩崎男爵家にかけて合つて資金

の提供を受け、谷川岳に今なお健在な虹芝寮を建設しました。

晩年、講演などの機会では必ず中村春二先生の『心の草をとる』という成蹊教育について触れられていました。小学生だった兵力少年が通学の途上、中村先生のご自宅の前を通りかかると、先生はいつも庭の草むしりをされていたそうです。ある日、庭には既に雑草らしきものが一片もないことを不思議に思い、『草なんてもうないのに、先生は何故草むしりをされているのですか』と尋ねると、中村先生は『心の草をとっているんだよ』という言葉返されたそうです。

『小学生の頃の先生の言葉が年老いた今でも心と身体に染み付いているとは、なんと悔しいことだ』と兵力さんは笑顔で語っておられました。豪雪地帯の厳しい自然環境の中で、常駐管理人のいない虹芝寮が、そこを訪れる利用者の手によつてのみ七〇年以上維持されてきたのは、まさに中村先生の言う『心の草をとるお掃除哲学』によるものだと常々おっしゃっていました。そして、物言わぬ虹芝寮の前には、いつしか立派な小道が出来たのです。

兵力さんの登山界における輝かしい足跡としては、昭和八年の谷川岳一の倉沢奥壁冬季初登攀を始め、昭和十年国後島爺々（ちゃちゃ）岳初登頂、昭和三十一年第一次南極観測隊参加、昭和三十八年東京大学山岳部バルトロカンリ峰登山隊長（初登頂）、昭和五五年日本山岳会チヨモランマ登山隊総隊長（北壁より初登頂・北東稜より第二登）などが挙げられましょう。また昭和五四年より四年間、（社）日本山岳会で副会長の重責を果たされました。

また仕事においては、先の大戦中に北京大学で教鞭をとられた後、（財）日本農業研究所から農林省農業総合研究所に勤務され、退官後は日本大学農獣医学部の教授を務める傍ら、成蹊大学でも非常勤講師として教鞭をとられました。

今、私の手元には兵力さんから生形見として頂戴した、愛用のパイプが二つあります。登山家のダンディズムを語る上で欠かせないこのパイプを、私は兵力さんへの敬意と愛情と共に、いつまでも大切にしていきたいと思つています。

兵力さん、数多くのご指導を賜り本当に有り難うございました。私もこれから先の人生、老境に入ろうと、先輩の教えを心と身体に染

み付けておきたいと思つています。

熊崎和宏（高・55年）



随想

成蹊会誌用箋

私の池袋での学校生活

ながしま はなき
長島 花樹

一九三二年四月―三四年三月、私は池袋の成蹊学園小学校に通った。当時の池袋駅西口は、駅前通りのぬかるみを馬力が往来していた。学園発足当時、周辺は農家ばかりだったので、実務学校生が、手刷りの新聞を作り、各戸に配って歩いたと聞く。

現在の芸術劇場あたりには豊島師範



(現学芸大)があり、その隣りに広大な学園の敷地があった。今のメトロポリタンホテル辺りは、中学校の校舎、その横に大きな池、池の東南端に渾々と湧き出す泉があり、これが「池袋」という地名の由来とか。

小学校はもう少し東南、正門を潜るとすぐ左側にあつた。クラス編成は一学年男子三〇人、女子一五人(女子は複式授業で、一、二年合同授業。母の話では入試の倍率は四、五倍だったとか。

私が入る直前までは『わ組』といって、優秀な生徒だけを集めて(一年―

六年)一学級にして一人の先生が担当する制度があつた由。

入学して嬉しかったのは、担任の吉村先生が、生徒の名前を、家庭で呼ばれているまま「ちゃん」づけで呼んで下さつたこと。私は「はなちゃん」と呼ばれて、先生にお父さんのような親しみを感した。

凝念

朝礼は凝念から始まる。板の間の講堂で、パンツ一枚で十五分位正座した。先生方が列の間を巡つて来られ、首を振つたり、体をゆすつたり落ちつかない生徒には「気合」を入れられた。拳で「やつ」という掛声もろとも、下腹をがつんと衝かれるので、ひっくり返る生徒もいる。冬の朝など体ががくがく震えた。それから「心力歌」を一章高らかに唱和した。

この講堂の最後部には、殆ど毎日、二、三人、時には十五人位の見学者(地方の学校の先生方が多かった)がこの珍しい光景を見ていらつした。中学生は真夏に綿入れ凝念というのがあつて、兄達は綿入れの着物を学校に持つて行つてた。勿論先生方も一緒に汗を流したあと、池に飛びこんで汗を流して、爽快だったと語つていた。



毎日が遠足

鍛練に明け暮れたように読みとられるかもしれないが、自然に親しみ毎日が遠足のような楽しい気分でも過ごした。小さな畑を一人一人頂いて野菜や花を育てたり、毎日午後は原っぱで、クロバーの花を摘んで首飾りにしたり、雨の日は講堂で、校長(小瀬)先生のお話や映画会があつたり、三時半にはおやつを食べて下校した。

中村先生は遊び友達

園長先生は偉い先生だったらしいが、昼休み毎日のように私達と遊んで下さ



つた。次々と集団遊戯を教えて下さって、私達を楽しませて下さったり、先生御自身もほんとうに楽しそうだった。後にペスタロッチの伝記を読んで、孤児達と遊ぶ姿が、中村先生のあの時の姿と重なって、「あゝ先生は真の教育者だったんだ」という感動に胸の高鳴るのを覚えた。

私は九十才まで健康に過ごさせて頂いているのも、心身共に鍛えて頂いたからと思え、成蹊と中村先生に感謝する。池袋時代の生き証人として拙い文を書かせて頂きました。

(女・7年)

理化館の焦げ茶のタイル

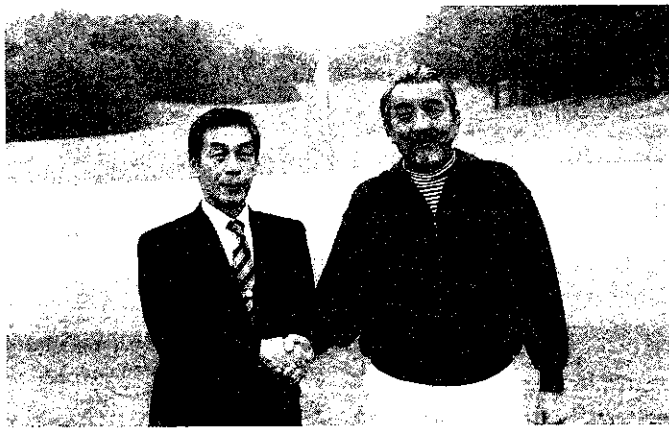
かない ひろお
金井 弘夫

2005年5月15日の旧制高校創立80周年記念行事のとき、取り壊しになるという理化館の見納めをするつもりだったのだが、すでに跡形もなかった。そこで、大分以前に見に行った理化館の思い出を、記憶をたどって書いてみる。そのときは、ある実験をするために訪ねたのだ。

生物研究会の部室は二階の中央西側にあつた。新緑の頃窓から外を見ていたら、外壁のタイルの色や表面の感じが、マッチの擦り板によく似ていることに気づいた。物好きにも軸木でこすってみたら、なんと発火したのである。50年も昔のことである。今になるとあれは夢だったのか？ それを確かめようというのだ。

その部屋はなにか教材の置き場のよう、鍵がかかっていた。近隣の部屋にも人けがない。入れてもらえても部屋が残っているわけではないので、あきらめて一階に下りた。廊下の南端には裏へ抜けるドアがあり、工作教室への渡り廊下が続いていたのだが、ロックされていた。北端の階段下の暗室は健在だった。ここは私の古戦場である。こみち祭で発光バクテリアの単独展示をやったところだ。何で発光バクテリアなのかというと、生気にも学校近くの古本屋で買った「微生物の採集と培養」という小さな本のセイで、そこにはイカから発光バクテリアを分離する方法と、純粋培養基の処方載っていた。この本の著者は中村浩という人なのだが、中学から転入の私はどうにか、それがどういう人物なのか、何年も気づかなかつた。それがわかつたのは、大学へ入ってからである。中村氏とはいわば同業で、普通なら「中村先生」と言わねばならないところだが、高校でも大学でもスレ違いで、顔を合わせずに終わった。部室の剣製標本棚の引き出しには、マージャンパイの大型のようなきまざまな大きさの木のブロックがたくさんあり、その一面には模様を彫った金属板が張りつけられていた。これもあとで気がついたのだが、それらは凸版の原版だった。彫つてあつたのは模様ではなく、さまざまな植物や微生物の図だったのだ。当時は複写機というものがなかったから、教材のプリントは謄写版の原紙に手書きで

図を写すのが常道だった。中村先生は原書から印刷製版の手法でこの原版を作り、手動の活版印刷機で教材のプリントを作ろうとしていたのだと思う。薬品を買うだけの予算はない。当時は蒸気滅菌器(要するに御飯蒸し)を、トタン板をハンダ付けして自作した時代である。生物職員室で分けてもらうのは、なんだか自尊心が許さない。イカから吊れるくらいだからイカが好きなのだろうと、スルメの煮出し汁を作った。最適濃度などはわかりつこないから、味をみて強からず弱からずの濃さにしてフラスコに入れ、そこへ吊り上げたバクテリアを落としこんだ。翌日、暗室に入ると真っ暗である。固形培地のコロニーは明るく光っているが、フラスコは光らない。目が慣れてきても、液面がかすかに光っているのが見えるだけだった。失敗とばかり片づけるつもりでフラスコを動かしたら、突然液全体が「バァーツ」という感じで光りはじめ、室内が照らされた。当てずっぽに作ったスルメの培養液は成功だったのだ。いまの子は「感動しました」という単語を、受験作文技術としてやたらに使うが、こういう時にだけ使うためにとっておいた方がよい。こみち祭では、おそろおそ



左より 筆者、橋本圭司氏

場45年の伝統に支えられ、安定した経営を維持しております。

しかしながら、近い将来を見通した場合、少子化による総人口の減少やレジャーの多様化による若年層のゴルフ離れ、そして、シニア層のゴルフからの引退等によるゴルフアー人口の減少が大きな問題として存在すると考えられます。したがって、ジュニアゴルフアーの育成とシニア層のゴルフ離れを防止することが急務と考えております。「中高年の健康増進や体力維持には最適で誰にでも参加可能なスポーツ」としてのゴルフを、より身近なレジャー

の一つとして多くの方々に楽しんでいただけるよう業界人の一人として努力していかねばと思う毎日が続いております。

ゴルフ界全体のことはここまでとして、当クラブにおける成蹊人の活躍の一端をご紹介致します。成蹊出身の方々のご職業は、医師・歯科医師・税理士・会社経営者・企業の管理職・主婦など極めて多彩であり、かつ、ゴルフにも熱心な方々ばかりです。因みに、45回のクラブ選手権の歴代優勝者14名中、2名（坂梨公彦氏・橋本圭司氏（旧姓松本））が成蹊出身の方です。特に、橋本圭司氏は本年度を含め合計8回のクラブチャンピオンを獲得され、当クラブの代表選手として「関東倶楽部対抗競技」にも出場し、大活躍されております。また、会員の西川泰氏が幹事をなされている「体育会バレーボール部OB」の方々によるゴルフコンペ「櫻会」も年々定期的に当クラブで開催して頂いております。この会には、私と同期も参加しており、ゴルフ場で懐かしい顔合わせをしております。

何はともあれ、成蹊出身者の方々は本業にも趣味にも優れた才能を発揮され、ゆとりある人生を過ごされている

方が多いのには驚かされます。成蹊の自由な校風と小学校から大学までの一貫教育の重要性を再認識させられることが多々あり、私もその一員として相應しい人間性を備えられるよう見習わねばと考えております。

余談になりますが、東京都ゴルフ場支配人会は18名の支配人で構成されておりますが、その内3名が成蹊出身者であった時がありました。卒業生の数から考えますと、本場に高い割合を占めていたことになりました。同窓とは本場に良いもので、様々な情報交換やゴルフ場の枠を越えた協力等が出来ました。

最後に、私も団塊世代の一員として、適度な運動としてのゴルフを愛し、「健康で精神的に豊かな老後をおくれるよう」、今から準備をしておこうかな等と考えております。

職業を離れてゴルフプレーが心から楽しめる日を心待ちにしています。八王子カントリークラブ（経・47年）



表紙絵の言葉

晩秋の虹芝寮（版画・墨彩色）

夜行列車から降り立った土合駅はまだ闇の中でした。友と連れ立って新道を歩き出すと夜が明け始め、一面の紅葉です。そして、武能岳の新雪のピークに朝の光がさした時、その天をつく鋭さに驚かされました。

寮についた頃には、もう日も上り、新雪の堅炭岩と紅葉の中の虹芝寮は思わず息をのむ美しさでした。その時の印象を思い出して版画にしてみました。寮は昭和五三年に改修されましたが、この版画は私が最もよく通った昭和三〇年代前半の寮とその辺りの風景をイメージして作ってみました。

成蹊のキャンパスは卒業以来大きく変わってしまいました。あの懐かしい理化館も生まれ変わりつつあり、私の在学中の建物は本館、トラスコン等、僅かになってしまいました。その中にある虹芝寮はほぼ昔のままの姿で芝倉沢出合に健在です。生物館、ワンダーフォーゲル部、そして多くの方々との数々の思い出のあるこの寮が、いつまでも存続していく事を心より願っております。

高木 裕（政経・36年）

原宿竹下通りを馬で行く

石館 基

ちょうど六十年前、終戦の翌年、私は疎開先の秋田湯沢中学（旧制）から成蹊高校（旧制）の尋常科に舞い戻った。食料不足の東京の生活は、成長期に親元を離れていた少年にとって実に厳しいものであった。二人の姉と共に、母の着物を持って、東北の農家を訪ね、米を仕入れた。上野駅で一斉取り締りに会って逃げ回った時の悲惨な光景はまだ私の脳裏に焼きついている。

中学時代の私は、成蹊の「馬術部」に憧れを持っていた。同僚の大久保睦夫君や稲田浩一君の乗馬姿が羨ましかった。馬に乗るには、拍車付きの皮製の長靴（ブーツ）が必要である。私はそのブーツが欲しかった。当時大学教授をしていた親父に懇願したが、それは初めから通る話ではない。泣く泣くゴムの長靴に拍車を縛り付けて満足するほかなかった。きつと馬もそんな私に同情してくれたのであろう。やがて私で

も、多少の障害物を飛び越えるだけの技術を身につけることが出来た。

さて、当時の同級に中沢君がいた。彼の父親は原宿で開業医をしておられたのだが、患者の往診に馬を使っていると言うではないか。早速無理を承知で、中沢君にその交渉を依頼した。なぜなら何事も！。遂に、ある日曜日、大先生からの許しが出た。成蹊帽にあご紐をかけ、蛇腹の制服に鞭をとる姿は実に格好がいい。自然と背筋が伸びる。靴はゴム長靴なのだが、それは気にしない。私はさつそうと原宿竹下通りに沿ってヒズメを響かせた。戦争に敗れた悲しい思いはいつしか消え、道行く人々を見下ろしながら、何とも言えぬ優越感に浸っていた。しかし、原宿のガード下に差し掛かった時、突然頭の上を電車が通過した。愛馬は仁王立ちになり、猛烈な勢いで走り出した。私は必死で馬の首にしがみつき、「ドードー」と手綱を引いたのだが、少年の力では絞り切れるものではない。それからどのくらい走ったのであろうか。私は九死に一生を得た。親に内緒であることはよいとしても、もし、そこで落馬していたら今の私はなかったのである。



馬術部を諦めた私は、後に剣道部に入った。教育大付属中学との試合で、五人目の中将（赤胴、大将は黒胴）の役を果たした。当時の剣道部には、柏村氏、佐鳥氏などの

強敵がいた。寒稽古では、雪の中、図書館脇の松林を裸足で駆け回り、「ちゃんばらゴッコ」に興じた。体の都合で、一年休学した私は、新制高校に行き、バスケット部で、岩永源作先生の息子さんと杉浦氏などに指導を受けた。

小学校の思い出に戻ろう。私の両親は、キリスト教ではあったが、仏教を土台とする浅野校長の一貫教育に共鳴し、子供ら成蹊小学校に送った。上の姉（順子）は滑川組、下の姉（恵子）は斉藤組。私は吉田虎彦（吉虎）組であった。年子の三人姉弟は、いつも手をつなぎながら高円寺から吉祥寺まで通ったものである。私はかなりの悪童であった。二年生の頃であったが、クラスで一番小柄であった安田さんと一番大きい私とが掃除当番に当たった。教室に残って、机の上に小さな椅子をあげ、床を掃除する。安田さんは机の上の雑巾がけをやった。腹がすいてたまらない。彼女に伺いをたてると、五銭だけなら持っていると言う。バス通りの左角にある佐々木屋の並びに小さな菓子屋があった。交渉して何とかモナカ一個を買った。当然、校則では許されていないので、食べながら歩くわけにも行かない。私は通りかかったトラックの運ちゃんに頼んで、運転台に乗り込み、駅まで送ってもらった。二人並んで食べた半分はモナカの味は最高であった。その後、東京女子大を出て、立派な奥様となられたであろう彼女は、まだそのことを覚えていてくれるであろうか。吉祥寺の町は狭かった。実は、ある父兄が我々の行動を自撃し

ていたのである。お陰で、翌日、吉虎から大目玉を頂戴してしまった。私は勉強よりもスポーツが好きだった。小学校では報命神社前の相撲大会で優勝したこともある。野球は吉虎から、「野球の神様」の号をもらった。野球がうまいわけではない。ただ、一塁手として、いつも拝むような姿で球を受け取る癖があったからである。同級の小林君は「野球の仏様」と呼ばれていた。彼も背が高いので教室では後の方の席に並んでいたのだが、二人とも時々「オモラシ」をするという同じ悩みを持っていったの思い出す。

体の大きい私には腕力があつた。ある時、すぐ上の姉が、下駄箱の前で同級の福田（恒雄）氏にいじめられ、泣いていた。私は、ランドセルをぶん投げて、「なぜ俺の姉を泣かせた」と福田氏に襲いかかった。その福田氏は後にニユートキーヨーで偉い人になつていく。

成蹊時代の思い出は私の誇りでもある。小学校の「吉虎」からは「個性の大切さ」を学んだ。「悪い子ほど将来が楽しみである」という。途中、一年休学した時の担任「香取先生」からは「何事もきちんと」という言葉を頂いた。「玄関口の靴の並べ方」によってその家庭が分かる。と言うのだ。七十五歳を迎えた私は、未だにそれを実行している。そして、子供や孫にその「成蹊精神」を言い残し、伝えて行きたいと願っている。

化学物質安全性評価コンサルタント・医学博士（高・26年）

成蹊の歌を歌おう

久我太郎

一、白線の寮歌

成蹊に旧制（七年制）高校が開校したのは大正14年（1925）。私塾成蹊園開校から19年後のことであった。創立者中村春二先生御逝去、浅野校長着任池袋から吉祥寺への移転の時期と重なり学園史上一つの節目を越したのであった。

私共が尋常科に進学したのは昭和11年その頃学内では白線問題なるものがあった。偶々浅野校長から土田校長に交替の時期と重なり、白線、マント、朴歯の下駄、全寮、寮歌の所謂ナンバースクール並の高校らしくなることの可否喧喧囂囂の論はその頃の校友会誌、級会誌に見ることが出来るが戦時下の外圧も加わり、土田校長の独特且強固な信念から並の高校らしさからもかけはなれた成蹊園以来の伝統からもはなれた形の変革の中で、白線と全寮制明正学寮がスタートすることになった。

それ迄成蹊には中村先生の時々の「集会の歌」等が歌われ、心力歌（大正2年）校歌（昭和2年）を加え旧制高校発足後毎年開催された記念祭の歌、成蹊音頭、作業の歌、運動部歌、紅芝寮の歌と数多くの歌が小学生から13年700余名によく知られていた。白線と共に明正学寮寄

贈歌が年々作られたが、第一回寮生霜山徳爾（旧高13文）作「膚を濡らす」が広く歌われた。明正学寮は戦時中維持困難となった。

ナンバースクールの所謂寮歌は東大、京大を頂点とするヒエラルキーを代表するものとして高校生以外にも広く世に歌われたが、とりわけ毎年交互に東京、京都で開催された運動部のインターハイ競技の前夜祭に各校の寮歌、部歌が披露され氣勢を挙げるのが恒例であった。成蹊で例えば陸上競技部は校歌部歌を披露し、競技当日優勝種目にも感激をこめて校歌部歌を歌った記憶がある。ナンバースクール特有の大鼓乱打、朴歯乱舞マント姿の醉声怒号とは趣を異にしたものであった。

二、ナツメロ寮歌とその終焉

敗戦後米軍占領下の学制改革により新大学を頂点として六、三、三制が発足し旧制高校はその地位を失なった。成蹊は従来の小、中、高13年体制から新制大学、高、中、小の16年体制に移行した中で伝統継受は可能であったが、官政財学界の多くの長老はナンバースクールOBであって旧高寮歌を忘し難しの念は募るばかり

であった。

昭和36年（1961）旧制高校以外にも範囲を駆け21校の寮歌祭はこうして日比谷公会堂に於て開催され、成蹊は第5回昭和40年10月23日の日比谷公会堂からであった。成蹊会の催しの例に洩れず、寮歌祭参加のこと、理化館屋上でのリハールサルは或日谷岡先輩の突然の御架電による下令され成蹊クラブでのリハールサルも加え、OB、OG各位に現役小学生迄加わり、当日は40校の一として参加した。演目も成蹊らしく入場舞台に整列後打鐘一声、心力歌第一章「天高うして」から「山河横はる」迄の発声が私の役割り、ふつうの高校蚤カラ寮歌とは一味も二味も違った出だしに満堂シーンと静まりかえる中でOB、OG、現役小学生以上迄の心力歌となえ終って打鐘一声、校歌に移り、退場行進には戸田豊鐵（旧高22文）作虹芝寮歌の歌「山の友によせて」が歌われた。第6回以降「膚を濡らす」も歌われたが他校のように今はなき母校を偲ぶ「激」は付け加えられなかった。個人的なことでは恐縮だが、如水会からも口がかかり予科出身ではないのに旗振り迄仰せつかり忙しいばかりだったが、回数を重ねるうち成蹊もふつうの旧制高校並の演出となり母校らしくないと言いたい止み難く、何時しか寮歌祭に足が向かなくなってしまう。寮歌祭は今もナツメロ的経過を重ねるうち最も若い旧高卒業生も古稀の齢に達し第40回昨年10月

7日を以て終焉を迎えた。言ってみれば寮歌祭は20世紀と共に終わった次第でスタート時点から組込まれた自己崩壊システムが作動したものと見ることが出来る。

三、成蹊の歌を歌おう

明けて21世紀第一教育改革、国際競争力快復が声高に語られている。国立大学経営は独立行政法人化により競争原理の導入を目指し私立学園にあつては建学の初心再認識が必要だと言われている。成蹊園以来94年この程「成蹊歌集」①（¥1,000）も編まれた。「心力歌」②（¥200）と共に成蹊クラブで手に入るのこの成蹊会各位も是非御入手の上、その時々を歌って頂くことも母校に思いを馳せ発展を祈る一助になるのではあるまいか。中村先生御命日の「枯林忌」の集会にスポーツセンターで先人の御恩と御厚誼を偲び「追悼歌」を歌うようになっていく。

その内新しい歌も加えられよう。ふつうの高校寮歌は消えゆくとも成蹊の歌はこうして歌い継がれることを願ひ、御名前は挙げなかつたが歌の輪に加わって頂いたOB、OG各位のお顔を思い出し御礼券々拙文を御高覧に供し貴意を得度い。

世紀超えて又も酌まむと挙げ益名残りとなりし友多き春（2001年3月彼岸稿）

（旧高・17年）

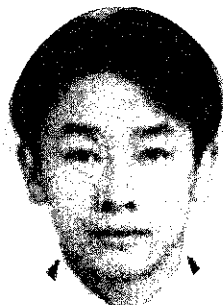
～私の推める本～

『伝わる・揺さぶる！文章を書く』

山田ズーニー著 (PHP新書660円)

たか はし ただ たか
高橋 忠孝 横河電機 (工・平17年)

山田ズーニーが書いた「伝わる・揺さぶる！文章を書く」を学生時代のエピソードを含めて紹介したいと思います。私にとってこの本は、文章の書き方のノウハウを教えてくれただけでなく、自分の頭で考えるきっかけを与えてくれた印象深い本です。



大学3年の冬、就職活動が始まろうとしていました。履歴書や面接の準備のために、ノウハウ本を買いそろえて自己分析を行い、自己PRや志望動機を考えました。しかし、いくら書こうとしても 思いを文章にすることができず、時間ばかりたっていきます。自分をアピールした経験がなかったので途方に暮れていたのです。

そんな時、山田ズーニーの本がヒントを与えてくれました。「目指すゴールを確認し、問いをたて結論・理由・具体例という型にしたがって書き進めよ。」私には望む結果への意識が足りず、考えることへの覚悟が無かったのです。しかも文章を書いた経験が乏しい。そこで、型に従って、時間をかけて文書を練る練習が必要だと気づきました。

丁度その頃、配属される研究室(*)が決まり担当教授であった佐々木成朗先生に、書いた文章の添削をして頂きました。先生の寛容な人柄とは裏腹に、表現に対しては厳しく、何度書いてもOKを出してもらえませんでした。駄目出しを何度も喰らって文章を練り直す過程で、考え抜く粘り強さが身につきました。結果的に

早い時期に第一志望の企業から内定を得て卒業研究に取り組むことができました。

卒業研究でも佐々木先生の影響は大きく、先生の物理への熱い情熱に揺さぶられて、ナノテクノロジーの研究に夢中になりました。年中無休、研究室にこもって実験しては、先生と夜中まで議論し続けました。学会でのポスター発表、愛知教育大学との共同研究と密度の濃い1年のなかで、自分で仮説を立てて実験を行いストーリーを考えて人に伝える喜びや難しさを経験することができました。最先端の研究のトップにいる佐々木先生と議論することが出来たのは大きな自信にもなりました。

このように『伝わる・揺さぶる！文章を書く』が私に与えてくれたのは、単に就職の内定だけではなく、恵まれた環境でよき師・先輩・同期に出会い、研究に熱中するチャンスであったと言っても過言ではありません。この姿勢は今の私の社会生活に大きく生きているのです。

*理工学部(旧工学部) ナノテクノロジー研究室

●ここに謹んで哀悼の意を表します●

物故会員

(平成17年5月1日〜平成17年11月8日迄にご連絡のあった方を掲載いたしました。)
ご逝去の年月日が不詳の方については、お名前だけを列挙いたしました。

佐藤 幸夫(特別賞)平成15年3月31日	山本和歌子(文) 9)平成16年11月18日	沢田実知子(文) 4)平成17年8月4日
松村 誠一(特別賞)平成16年10月30日	高梨 秀義(政経16)平成16年11月26日	窪田 隆(旧高13)平成17年8月8日
清川 よし(特別賞)平成17年5月22日	植野 寿介(政経14)平成16年12月1日	恩地 展子(女) 26)平成17年8月20日
一杉 重征(高) 10)平成17年11月18日	古屋隆一郎(高) 26)平成16年12月2日	井戸垣正俊(旧高13)平成17年8月21日
牧野 雪子(女) 6)平成17年12月29日	奈良 英功(文) 4)平成16年12月19日	渡辺 兵力(旧高8)平成17年9月6日
景山 勝利(高) 7)平成18年2月29日	加藤 知良(法) 24)平成17年1月5日	守安 功(旧高12)平成17年9月15日
馬場 秀雄(政経9)平成10年11月28日	塩谷 祥隆(高) 39)平成17年1月13日	小平 伝也(高) 7)平成17年9月27日
黒田 古雄(小) 11)平成12年2月18日	三宅 晃(政経5)平成17年1月18日	大内 芳郎(小) 10)平成17年10月11日
石井 謙介(文) 5)平成12年10月30日	山本 留美(経) 8)平成17年1月18日	中村 洋(工) 22)平成17年10月13日
荒川 順三(法) 4)平成13年7月24日	佐橋 篤児(政経17)平成17年2月7日	長沢 光一(旧高21)平成17年10月19日
島原 琢(高) 39)平成14年3月31日	松原 英郎(政経9)平成17年2月14日	水谷 政静(旧高9)平成17年11月2日
多 久延(政経18)平成15年3月17日	長尾 和幸(法) 3)平成17年2月26日	戸倉 康明(高) 7)
関口 憲一(旧高12)平成15年4月15日	小池謙一郎(文) 2)平成17年3月11日	赤木 一郎(高) 4)
土屋 康子(法) 12)平成15年8月5日	小暮 文雄(旧高24)平成17年3月31日	国枝 和子(女) 7)
薬袋美穂子(文) 8)平成15年9月13日	梅原 興幸(政経3)平成17年3月31日	茂木国三郎(高) 16)
川上 孝昭(旧高4)平成15年9月29日	古谷 章一(旧高7)平成17年4月17日	中村 雄洋(政経9)
柏木 聞吉(旧高18)平成16年3月10日	鷹見雄一郎(経) 3)平成17年5月6日	宇野 友康(政経18)
黒崎 真経 1)平成16年4月20日	大倉 淳平(旧高18)平成17年5月11日	坂田 正樹(政経18)
宮下 剛彦(文) 12)平成16年4月24日	中村 崇(旧高6)平成17年5月15日	鈴木 明(政経18)
永井 勝彦(政経11)平成16年6月1日	山下 熙(旧高10)平成17年5月16日	滝沢 和雄(政経18)
羽崎 寿彦(文) 1)平成16年6月22日	高松 俊夫(政経18)平成17年5月30日	浜中 英男(政経18)
寺尾 清(旧高23)平成16年7月22日	高世 光弘(文) 3)平成17年5月31日	近藤 修康(経) 8)
長谷川 賢(旧高19)平成16年8月2日	駒田 和夫(政経1)平成17年6月10日	桑原 武之(工) 20)
戸谷 信寛(工) 34)平成16年10月23日	後藤 英一(旧高23)平成17年6月12日	清家 真理(文) 10)
秋山 重子(女) 28)平成16年10月27日	河内辰次郎(旧高21)平成17年7月7日	八木 良幸(文) 21)
		三島 直樹(文) 23)

秋の成蹊



大学 アトリオ



秋の風景 本館前庭

学校・年次会

のひびく

小学校同窓会

四月三日成蹊校祭当日、北一
号館一〇二教室で春の小学校同
窓会が開催された。小学校同窓
会は同窓会委員を各卒業年次か
ら選出し充実すると共に委員以
外の卒業生にも参加の機会を作
ろうと初めて企画したものだ。

岡崎校長にご出席いただき多
面にわたりご説明をいただいた。
二十八人四学級制スタート直前
であり応募状況や教室対策をは
じめ参加者の質問に答えるかた
ちで夏の学校での赤フン廃止ま
で話題に花が咲いた。
参加者は約三〇名。広報不足
もあったが、校内を歩く人にも
声をかけて初めてにしてはなん
とか様になった。その後、校内

見学の案内もお願いし小さな椅
子にすわってみたり。

来春の成蹊校祭でも開催を計
画している。どなたでもぜひ顔
を見せていただいで懐かしい小
学校時代を思い出す機会にして
いきたい。

相川一成(小・27年)

山形学級クラス会

成蹊小学校昭和27年4月に入
学した山形為次先生のクラス会
を4月9日に吉祥寺第一ホテル
で久しぶりに行いました。クラ
スは45人でしたが、23人が出席
しました。今年はこの日、桜が
満開でした。高等学校、大学の
同窓会は時々集まっていますが、
小学校はしばらく集まっていな
いという声があり、20年ぶり位

に開催しました。

山形先生は定年後21年経過し
たそうで、学習指導も今年から
は行っておらず、奥様とお孫さ
んの相手をしながら、自由な時
間を楽しんでおられるそうです。
われわれも今年還暦を迎え、先
生は2廻り上の84才になられま
す。定年からの21年は大変早か
ったそうで、気がついたら80才
になってますよと注意されまし
た。

皆に話をしたいと、きちんと
した姿勢で、①健康に注意する
こと、(先生はゴルフですが)
②男性は奥さんを大事にすること
と③女性はご主人を立てること
と、メリハリのある大きい声で



話をされました。また小学校時
代のアルバムと文集やみんなの
絵、学級通信をきちんと編纂さ
れた資料を持参されたので、そ
れを見ながら、昔の思い出に話
が咲きました。

出席者の近況報告は、定年の
こと、結婚しない子供の話、孫
の話でした。

先生は自宅が吉祥寺ですので、
徒歩で会場まで来られ、帰りも
家までお送りすると言ったので
すが、荷物は届けて欲しいと言
われ、またしつかりした足取り
で徒歩でお帰りになりました。
1時間早く来て、吉祥寺の町
を散策した人、成蹊の桜並木を
鑑賞した人もいました。

佐藤洋史(小・33年)

星の子会

さる4月23日に、14名の星の
子参加を得て、今年度星の子会
(昭和31年卒6年南組星野学級)
を開催致しました。

星野慶治先生は、1年前より
お顔の色は艶やかでお身体も引



き締まり、その若返り振りに一
回驚いたのですが、適正な食事
と適度な飲酒へ奥様監視の目が
行き届いているのと、毎日1時
間の散歩を欠かさない等ご本人
も健康管理にご留意されている
成果のようです。

先生のご挨拶のあと、一人ひ
とりが、中央のマイク前に立ち
3分間スピーチで近況を報告し
ました。還暦を超えると人生
様々で、話している表情や内容
と小学生時代の姿がダブって、
笑いやため息やら、同感した
り驚いたり、楽しい2時間が
アツと言う間に過ぎてゆきまし
た。

最後に、先生へ、星の子会か

らの傘寿と金婚式のお祝いとして、スペイン陶器「リアドロ」の花束を抱いて微笑む乙女の立ち像が手渡されました。

土屋明道(小・31年)

成蹊高校I組同窓会 ゴルフコンペ

我々は昭和22年生まれ(23年)の成蹊高校卒業(41年卒)の同窓生です。団塊の世代でも最も人数の多い学年で9クラスも在り、中でもI組と言う成蹊高校始まって以来最初で最後のクラスです。5月14日、このI組第5回ゴルフコンペを千葉県八千代ゴルフクラブで行いました。

さすがに定年間近かの忙しい時期?である為かプロパー参加者は横手先生を含め東淳一・飯田憲一・石沢康孝・岡田和子(笠松)・小沢光男・佐藤喜行・四條雅樹・浪江恭平・平井勉・松永いく子(相川)・渡辺厚夫の12名。其れに積極的に参加希望の同学年の有志下組小林英俊君と日組佐堂正宏君、横手先生

のお嬢様水本桂子さん岡紀子さん(お二人共成蹊OB)が参加され総勢16名の立派なコンペとなりました。

当日は天気にも恵まれ、風も無く、申し分ないコンディションでしたが、朝の渋滞に遭った第一、二組が何とか組み換えて間に合うと言う状態で始まりました。

今年デビューのテニス部松永(旧姓相川)さんが普通初参加で萎縮するところ持ち前の強心臓で最初にナイスショット……お陰で後に続く男の連中は大きくコースを外していました。

横手先生は2、3年前より本格的に始められましたが、研究熱心に加えテニスで培った運動神経からかロブショットを試みたりで寄せの感覚はさすが、喜寿を過ぎたとは思えない上達振りでも早くも120をしっかりと切ったスコアでした。(同伴者の観察によるとかなり負けず嫌いなところが有り、この性格の人は今後更に伸びる)とのことでした。

新ペリアでの優勝は有志参加の日組佐堂君(少しの遠慮もなく優勝をさらっていきました)、ベスグロは佐藤君でした。

I組は現役時代から校内大会陸上競技大会と直ぐ纏まって9クラス中最も燃えるクラスでした。

9月4日の同学年9クラス対抗戦、通称「第6回全蹊オープン」での参加をしつかり奮い合つて和やかに解散しました。

渡辺厚夫(高・41年)

高等学校(旧制) 創立八十周年記念 祝賀同窓会

平成十七年五月十五日。旧制成蹊高等学校創立八十周年記念祝賀同窓会が、午前十一時三十分から成蹊大学一〇号館一二階ホールで行なわれた。

八十年という年月は人生においても一つの節目である。ましてや学制改革により昭和二十五年に消滅という悲運にあつた母校を懐かしむ思いは薄らぐ事はない。

会は同窓会幹事長の久保盛唯さんの司会により始まり、成蹊大学管弦楽団の校歌その他の演奏で盛り上り、同窓会長西村洋さんの会開催経緯等の説明があ



つた。その後来賓として学園理事長代理谷正紀、成蹊会会長瀧秀彦、友誼校代表武蔵高校同窓会長菊井維正各氏の祝辞があり同窓会側より謝辞があつた。

引続いて祝賀会に移れば(出席者、同窓生二五九名、来賓学園友誼校二名、計一八五名)一同に会し、同窓会長西村洋さんの挨拶の後、本年九十六歳の御高齢の清水護先生の凍とした乾杯の御挨拶に感銘、その後は思い思い旧交を暖める交流が会場一杯に広がった。会場には旧恩師清水護・岩崎英二郎先生方と旧生徒の再会があり、又石渡實(七回)柴田承二・貞森俊一(八回)氏等の大先輩の方々の顔も見えた。

会の後半、友誼校八校(一



高・学習院・武蔵・東京校・成城・浪速・甲南・府立の各高等学校による寮歌が壇上で歌われ私達の回顧の思いは更に深くなった。卒業生の年次も昭和三年から二十四年に亘りその間、平和・戦時等変化のある世相の下で学んだわけだが、在校期間の長短に拘らず在校時代の懐古には共通の思いがある。それを確認できたのがこの会であつた。最後の校歌高唱の後も去りがたい人々が多かつたことであろう。創立六十周年では回顧録の出版と記念碑建立、七十五周年では歌集の配布があつた。そして今回は記念誌の刊行がこの会の開催と同時に進められた。その記念誌の中には青春の忘れえぬ一日、戦死した友への追憶等が

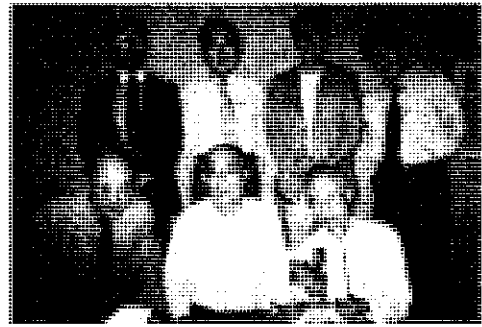
盛られており追憶の念は胸を打つものがある。今回の会開催と記念誌の刊行等当事者の御苦労に謝すると共に旧高時代の思い出を今後も語りついでゆく卒業生諸兄の健在も期待したい。

徳永重元（旧高・15年）

萩の会

平成十七年六月四日、我々成蹊大政経学部卒十八回萩沢ゼミの十回目のゼミ会を吉祥寺第一ホテルにて行いました。

今回は特別な会となりました。御既承の通り先生はこの四月三十日、八十才でお亡くなりになりました。我々四十四年卒のゼミでは先生を囲んで東京周辺にて旅行等を催し、この数年は先生の体調等から吉祥寺周辺にて行ってきました。四十四年の卒業以来三十六年毎年十名前後の参加者があり先生のお話を聞く事を楽しみにしてまいりました。六月四日は先生御夫妻を囲み愉快にやろうと計画してました。



先生の奥様からはぜひ今後も続けてほしいとのお話を頂き我々一同も全員続けていく事を確認しました。

先生の御冥福を祈り又萩沢ゼミの関係者の御連絡をお待ちしています。

松水信俊（政経・44年）

奥住先生お別れ会 ——想い出とともに

恩師奥住先生が、平成十七年三月十五日に亡くなられました。享年八十四才。

晩年、八ヶ岳の麓に居を移され、数々の病魔と戦い、一時は

大変お元気だったのですが、本当に残念でなりません。

さて、先生との出会いは、昭和二十六年、先生が三十才頃だと思えます。当時は、日米安保条約が調印されたものの、戦後の傷跡は、まだ癒えていませんでした。とにかく、常に腹がへっていた毎日でした。

奥住先生は先生というより、兄貴といった存在で、時として生徒が授業中騒ぐと、大きな声でおこられました。あの体格から絞りでる声は、生徒全員飛びあがらんばかりに効果満点でした。やがて我々も一廉の社会人になり、高度成長の波に呑み込まれていきましたが、たまたま開催されたクラス会で、ガヤガヤと先生の話を聞かない我々を一喝されました。「シズカニ、ヒトノハナシヲキケ」

また、授業中いきなり白墨が飛んできたものです。球すじ、スピードとも並外れた正確さで、目的の生徒に確実に命中させました。

六月七日奥住先生とのお別れ会が、東京で開催され、遺族の方々を初め、先生が担任された五回、八回、十二回卒業生がク



ラスを越えて総数五十八名参集しました。席上、追悼のあいさつが寄せられました。いずれの話の中にも、奥住先生の教育イズムが、一人一人にDNAとして、彫り込まれておりました。昨今、教育の荒廃が、社会問題になっておりますが、私達は幸いにも成蹊の園で、奥住先生のような本場の指導者・教育者に恵まれ、しかも永い学校生活の絆で結ばれた、何にもかえがたい数多くの友人がいる幸せをこの年になって、しみじみと味

っております。

奥住先生は、スポーツマンでした。特にバスケットは、ずば抜けていました。強靱な体力と並外れた運動神経、中でもジャンプシュートではずばぬけて高くジャンプし、シュートしました。当時、同年度の籠球部員は男女合わせて十二名、学年の約五パーセントにあたる数字になります。当然のことですが、奥住先生を部長として、トラスコンで青春のエネルギーを発散させました。

奥住先生は、昭和五十九年、成蹊を退職されましたが、その際籠球部員が退職記念として暖簾をお贈りしました。奥住先生は、この暖簾を殊のほか気に入られ、八ヶ岳のお宅の書斎の机の前の壁に掛け、日夜目にしておられたそうです。その暖簾には、高校籠球部OB、歌人の佐々木幸綱君（昭和三十二年卒）が、次のように言葉を書きしるしております。

青春はトラスコンにあり

先生のジャンプシュートを忘れ
ざるべし。

奥住先生本当にありがとうございます。
安らかに眠りください。

関根優光 (高・29年)

昭和36年卒

成蹊高校3年C組

同窓会

私たちは卒業して44年が経過
しました。昨年7月同期生の栗
田・谷君の両名が成蹊学園の要
職に就任しそのお祝いの会を有
楽町ニュートーキョーで開催し
ました。そのときC組独自のク
ラス会を開催しようと言うこと
で1年が経過してしまいました。
今年7月9日神田にある成蹊関
係ご用達のお店「シャン ドウ
ソレイユ」に集まりました。

我々同クラスでは西明孝雄
君・川合量天君・内藤俊夫君の3
名が既に召されています。また
佐々木敏子さん・柴田彰三君の
2名が外国在住です。張明君・
栗崎昭三君の2名が住所不明で
す。現在連絡が取れる36名中20

名の参加中には卒業以来はじ
めて顔を見せた方もいました。
会の開始とともに気分は即高

校時代に逆戻りし、当日昔の卒
業アルバム・有志所有の秘蔵写
真等から15分の思い出ビデオを
制作し放映しました。そこには
恩師大内一彦先生の登場もあ
り皆さん大いに盛り上がりま
した。

昭和36年卒は来年高考卒業45
周年を迎えます。5年ごとの会
も予定されていますので、クラ
スとしてはその翌年平成19年に
同窓会を開催することを決め幹
事も決めました。幹事を決めて
おくと次回がすこく楽しくなり
ます。3時間の会もあつという
間に過ぎ、なごりは尽きなかつ
たのですが……皆さんの今後の
健康を祈り……
再会を約束して散会しました。
佐伯 紘 (高・36年)

桃江会

(入江ゼミOB会)

夏のむし暑さも一休み……平
成十七年七月九日(土)、入江



ゼミナールの親睦会(桃江会)
が渋谷の中華料理店で開かれま
した。

この会は入江啓四郎先生より
国際法・国際政治を学んだ昭和
三十三年より三十九年卒業まで
の会員で構成されており、先生
は他界されて既に四半世紀をす
ぎておりますが、友情の和は息
長く続いております。

当日は都内・近郊より、又海
外在住から帰国されしばかりぶ
りの方まで十六名が集まりまし
た。丸田氏(S三十六年卒)の
司会で、富澤氏(S三十六年
卒)のユーモラスなあいさつ、
乾杯の音頭を皮切りに、北京料

昭和18年 尋常科入学同期会

最後に、また会いましょう!!
を公言葉に散会となりました。
生島 尚 (政経・39年)

7月22日、西新宿のセンチュ
リーハイアット東京(宮城野の
間)でこの同期会が開催された。
東組担任だった故加藤藤吉先
生(エーコン)の手記によれば
入学時の生徒数は3クラス111人



だったが終戦を挟んだ4年後の
尋常科修了(卒業)者は4人の
途中転入者を加えても96人で、
19人の減となっている。これは
留年に加えて、疎開後消息を絶
つた者が少なくないためである。
第1回は1997年で42人の
出席があつたが、3年間隔で開
いた2回、3回は参加者の減少
傾向がみられた。これは総人口
の減少によるもので、3年では
間隔があきすぎる、と今年は1
年くり上げての開催となつた。

危機管理第一人者佐々淳行君
の乾杯とその前段の挨拶に幕を

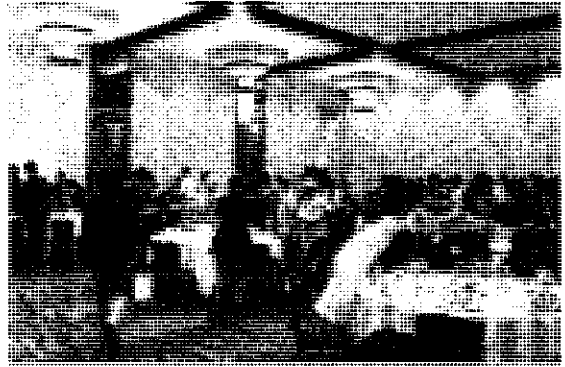
あけ、過去3回出席できず今回が初参加となった横原稔君（三菱商事）のスピーチで会を閉じるまでの間、集まった23人は大いに歓談・懇談して旧交をあたため、今後は毎年1回開催することに意見一致をみた。

何とこの翌日、首都圏は震度4.5の強烈地震に見舞われ、鉄道はほとんどストップ。帰宅の足を奪われる所だった。1日の差で難を免れたこのツキを今後永く続けたいもの。なお次回は06年5月18日（木）に決定。

幹事 東組 宮崎 俊吉
西組 岩崎洋一郎
南組 赤石 定次
赤石定次（旧高・25年）

高校卒業20周年

昭和60年に成蹊高等学校を卒業した第36期の「卒業20周年記念同窓会」が去る7月23日、東京・永田町のキャピトル東急ホテルで開催され、180名を超える旧友たちが一同に会する大イベントとなった。



当日は来賓として成蹊会から瀧秀彦会長、碓本勲二副会長と齋藤悠常務理事、学園からは加藤節事務理事と吉崎純二副校長のご臨席を賜った。またかつての担任である山中宏樹、近藤正二郎、黒木清の各先生方にもご出席頂き、そのお元気なお姿に感動するとともに、懐かしさが込み上げてきた。

一連のオープニングセレモニーが一段落して、司会の丸川珠代さん（TV朝日アナウンサー）の口から「それではご歓談を」との声が発せられると、旧友たちは男女を問わず、まるで童心に戻ったかのように無我夢中でおしゃべりに興じていた。

おかげで会場は大いに盛り上がり、予定していた2時間はあっという間に過ぎてしまった。私たち幹事一同、ほっと肩を撫で下ろした。

愛する学び舎から巣立って20年、私たちは思い思いの道を歩み、社会に貢献するべくそれぞれの世界で活動している。結果、かつての学生時代のように頻繁に顔を合わせる機会は減ってしまったが、だからこそ今回、仲間たちとともに同窓会を開催することによって、友人という存在の大きさをより深く実感することができた。

ご多忙の中にも拘らず、お集まり下さったご来賓、恩師の方々、そして旧友たちに対し、改めて心から感謝を申し上げたい。

大井康裕（高・60年）

第6回 '66全蹊オープン

1966年（昭和41年）、高等学校卒業同窓生によるゴルフコンペ、第6回'66全蹊オープン

ンが、2005年9月4日（日）、西武園ゴルフコースで開催されました。当日は、台風の影響による雨の予報に反し、熱中症を心配せねばならぬほどの好天気になりました。参加者39名で、皆すっかり昔の表情に戻り、楽しく和やかに無事ホールアウト致しました。成績は個人優勝丹波信三さん（D組）、三喜子さんのご主人様、クラス優勝はクラス最多参加者13名の威力と特典を發揮したI組となりました。表彰式では校内競技大会を思い出すものがあり、大変懐かしく思いました。



昨年喜寿を迎えられた元I組担任の横手先生もご参加され、75歳でテニスからゴルフに転向された割には大変な研究、練習熱心さで腕を上げられ若々しくプレーされました。ゴルフ歴だけは長い人やビギナーの参加もあり実力の差は有りましたが他の組の人と回る楽しさがあり、みんな和気あいあいと一日を楽しみました。

次回の第7回は、私たちI組が幹事です。グランドシニアの横手先生には負けないように来年にむけ息切れないように精進あるのみと思っております。成績はともかくこんなに大勢の参加者が集まる事はめつたに無いことなのでいつまでも継続していければと思っておりますが、更により多くの同級生の方の参加は大いに歓迎いたします。ご希望の方は左記のクラス幹事迄ご連絡お待ちしております。

A B C代表幹事 貞弘 浩一
K.sadahiro@mostcorp.com
A組幹事 佐藤 隆
sato@scc.co.jp
B組幹事 岡本 秀一
sh-okamoto@hitachihoc.com
C組幹事 大橋 研一
ohashi@vistec.co.jp

DEF代表幹事 小林 英俊
kobac@ng.einet.ne.jp

D組幹事：鈴木 亨

toru@suzuki-komuten.co.jp

E組幹事：星 幸男

star3713@msj.biglobe.ne.jp

F組幹事：河辺 良

ryokobe@crest.ocn.ne.jp

GHI代表幹事 佐堂 正宏

masahiro.sadou@sonylife.co.jp

co.jp

G組幹事：畑田 正樹 m-hat

ada@kokusaioffice.co.jp

H組幹事：水谷 一郎

kyvr10037@nifty.ne.jp

I組幹事：東 淳一

jazuma@LSH.co.jp

岡田和子(高・41年)

経済学部

昭和48年卒業

「旧1F」の集い

かつて史上最強の語学クラスが存在していました。それは昭和44年に誕生した経済学部の1年F組(通称「旧1F」)。飛田先生が担任、構成員は猛者揃い。残念乍ら、女性には無縁の男性集団。昭和25年頃の生れで、お



世辞にもお坊ちゃんとは呼び難い、溢れる強烈な個性が絶妙に調和された集団。毎晩、吉祥寺の飲み屋を絨毯爆撃、偶に深夜の井の頭公園の池で泳ぎ、常に雄叫びを上げる野獣達!その構成員も昭和48年の卒業を機に概ね改心して社会人となりました。

今年9月、卒業以来32年振りに11名が集合、那須塩原―日光方面の一泊二日の旅行で久々に雄叫びを上げた次第です。12月3日(土)には15名で吉祥寺にて忘年会を開催予定。今後も呑み会を計画、一人でも多く旧交を温めたく、この記事を読み、ハツとお気付きの「旧1F」の

貴方!今直ぐ連絡を待って下さい!
(連絡先:米倉・成蹊学園
TEL:0422-371-396
8)

米倉豊比古(経・48年)

昭和49年度卒

成蹊中学

3Bクラス会

去る九月二十五日(日)、有楽町ニュートキョービル「桃杏楼」におきまして、昭和四十九年度(昭和五十年三月)卒の

成蹊中学三年B組クラス会を開催しました。今回は卒業三十周年にあたる事に加えて、我々の

担任教諭であられた吉田昭彦先生が来年三月にご定年を迎えられるという事のお祝い(?)も

兼ねた企画で、総勢二十三名(男子十一名、女子十二名)が集まる盛会となりました。

三十年ぶりに再会するメンバーも多かったにも関わらず、すぐに昔の賑やかだった教室の雰囲気に戻り、先生にご持参頂いた当時のアルバム写真を囲みながらお互いの近況を報告し合う事となりました。二世が現在、



成蹊中学でお世話になっている者も多く、子供同士が成蹊で机を並べているなんて報告に皆が喜びました。

吉田先生は頗るお元気で、いまでも好きなテニスや音楽を楽しまれているそうで、来年以降も当面はフルタイムで成蹊中高に残られるという事に全員納得したのであります。

四十代半ばとなり、家庭や職場において人を育む事の大切さや難しさを感じている中で、在学当時の吉田先生はじめ成蹊の先生方の熱意あるご指導に改めて感謝しつつ、当時と変わらぬ

旧友との再会を大いに楽しんだ一日でありました。

谷口道洋(中・50年)

高校卒業40周年

平成十七年十月一日に高校第

十六回(昭和四十年)卒業生の卒業四十周年記念合同同窓会が成蹊大学十号館で開催されました。A組からG組まで七クラス、

総勢約三二〇名の学年ですが、当日午後四時には約一三〇名の同窓生が集まりました。残念ながら既に他界している仲間が三

〇数名いることを考えると出席率は約四五%で、遷厝を目前に懐かしい顔が揃い楽しい再会の時を過ごすことが出来ました。

同窓会は一次会を六時迄、引き続き同じ会場で二次会を八時過ぎ迄、合計約四時間行われましたが、一次会の司会を寺澤

二次会の司会を野田真君が務めました。冒頭、物故者の名前をクラス毎に読み上げて黙禱を捧げ、幹事を代表して野村敏朗君

による開会の挨拶に続き、来賓

としてご出席の高校の谷校長、

成蹊会の瀧会長から祝辞と近況のご報告を頂戴した後、中島知

先生の乾杯の音頭により会が始まると、あつという間に四〇年前にタイムスリップ。張り出された当時の卒業写真の前や其処此処のテーブルの周りで歓声が響き、少年少女に戻り『やっぱり成蹊』という雰囲気。ご出席下さった中島先生や平田博則先生を囲み和やかな雰囲気でした。全員での集合写真は多すぎて断念し、クラス毎の記念写真を写した後に幹事の大場和子さんの中締めで一次会を無事終了しました。

二次会に移ると、野村君達のバンド演奏をバックにしてテーブル毎に同級生が集まり自然とクラス会に移っていました。何かの人が近況報告を行ない、そして十年後の五〇周年での再会を約して散会。三次会はクラスやグループに分かれて吉祥寺周辺の飲み屋で深夜まで続きました。非常に盛り上がった合同同窓会となりました。

この同窓会の席上、小学校の同窓会もやろうという話があり、その後の幹事会で来年二月四日(土)の五時から成蹊

で行なうことが決まりました。

小学校から成蹊で育った同期の皆様、カレンダーにチェックをお願いいたします。

ご出席下さった皆様、有難うございました。また二ヶ月に亘って準備に加わって下さった幹事の皆様、本当にご苦労様でした。

寺澤廣一(高・40年)

伊東良延先生の傘寿を祝う会

10月8日(土)午後 成蹊小学校で伊東良延先生の薫陶を受けた全クラス(40、46、49、55、61、67、69、75回卒の13クラス)の卒業生が、秋の気配漂いはじめた成蹊学園キャンパス内大学10号館12階ホールにて一堂に会し、「伊東良延先生の傘寿を祝う会」を開催しました。各期から数名ずつ総勢25名の幹事団で春より計画を練り、当日は参加人数175名(その他、祝い品のみの参加者87名)と、極めて盛大な祝賀の宴を催すこと



ができました。

伊東学級最古参40回の卒業生は、昭和25年1年生で青年24才の伊東先生が担任でした。そして、75回生は平成3年、先生65才の卒業生です。年齢差でほぼ35才と親子以上の間柄になりますが、宴は、開会の辞、代表幹事挨拶、乾杯、歓談、各期代表者祝辞、ピアノ演奏、伊東先生ご挨拶、祝い品&花束贈呈、総務担当幹事挨拶、卒業期毎の記

念撮影、閉会の辞 伊東

先生ご夫妻お見送りと滞りなく進み、和気藹々の雰囲気のうち、瞬く間に予定の2時間半が経過しました。相愛わらずお若い奥様奈々子様にもご臨席を賜り、伊東先生もことのほか上機嫌のご様子であられました。各期卒業生のスピーチから、伊東先生の40年間一貫した小学生教育のご姿勢と成蹊学園の教育方針の素晴らしさを再確認することができ、人格形成に重要な小学生時代を成蹊小学校に学べたこと、さらに伊東先生が担任をされたクラスに在籍できたことにあらためて喜びを噛み締めることができました。

尚、伊東先生には、本年9月19日をおもちまして80才になりました。先生は、現在三鷹市シルバー人材センター学習班で補習教室指導員、また同センター関連誌の編集者および同センター生涯学習教室設立メンバーとして、いまだお元気に伊東先生らしいご活躍を続けておられます。

中島真人(小・31年)

小学校卒業40周年

去る十月十五日、昭和四十一年卒業生(第五十回)の、卒業四十周年記念同窓会が、吉祥寺第一ホテルで開かれました。

六年間南組の担任をして下さった亀村五郎先生、低学年の時に園芸を教えて下さった田植豊実先生をお招きし、お言葉を頂



戴しました。担任としてお世話になりました清水晴男先生、堀松郁三先生、徳永吉晴先生は残念なことに鬼籍に入られております。田植先生は、自然観察の指導等にご活躍で、あまり空いている日がない、とお元氣いっぱいでした。また、亀村先生の「君達は今五十二才だけれど、七十二才になるまで二十年もあるのだから、外国語もマスターできるし、何だってできるよ。」というお話には力づけられました。

五十才を越えて、時々人生に疲れを感じる(?)こともある私達の目を覚まし、励まして下さるお二人は、いつまでも私達の敬愛する「先生」だと感じました。

その後食事をしながら、童心に返つての歓談となりました。同級になったことのない人同士でも会話が困ることはなく、時間がいくらあつても足りないようでした。

後半、小学生の時の写真が何枚もスクリーンに映し出されました。なつかしい制服を着て、屈託なく大きな口をあけて笑っている姿等に照れたり、「昔はかわいかった!」と感心したり、

大いに盛り上がりました。祖母になりたてははやほやの人もいて、私達もそろそろ「いぶし銀」の域なのでしょう。か、でも「気だけは若く」皆で校歌を歌い、再会を期しておひらきとなりました。

石川孝子(小・41年)

高校卒業30周年

十月二十二日(土)午後四時から吉祥寺第一ホテル天平の間において、高校二十六回卒業三十周年記念同窓会が開かれました。加藤成蹊学園専務理事、

瀧成蹊会会長、両角成蹊高校教頭、大場成蹊高等学校同窓会副会長といった方々をはじめ、当時、担任していた荒井、大塚、山中、長谷川諸先生ご列席のもと、同窓生約百八十名が出席する盛大な会となりました。

学年全体の会としては十年ぶりの集まりでしたが、前回同様その年月の流れも、現在それが背負っている責任も肩書き

も消え、一気に三十年前に戻つたような関係になれるのは成蹊人ならではのでしょう。一次会で二時間、二次会で一時間半、近況や思い出話に華を咲かせた後、三次会では三十年ぶりに再結成となつた当時のバンド二組によるライブで大いに盛り上がりました。ふだんは五十を間近に控えたオジサン・オバサンも、この日ばかりは楽しい時間を終わらせたくなく、中には夜が明けから帰宅した人もいたようです。

十年前同様、この会をきっかけに交流を再開させた人もいろいろ、それによりそれぞれの今後の日々がより充実したものと



になれば、一年近くかけて準備をしてきた幹事のひとりとしてこれ以上うれしいことはありません。五年後か十年後にまたこのような機会が得られることを心から願うしいです。

諸見里光(高・50年)

大学卒業20周年

平成17年10月29日(土)成蹊大学10号館ホールにて、大学卒業20周年を記念して、同窓会を開催いたしました。

学校からは、加藤専務理事殿の開会挨拶、栗田学長殿の乾杯、成蹊会からは、瀧会長、齋藤常務理事にご出席を賜りました。

20年同窓会は初めての開催ということもあり、試行錯誤のところが多く、特に出席者の確保が懸念されましたが、140名のご出席を賜ることが出来ました。代表幹事としては、心細い方でも気楽に出席して、初対面でも新たな出会いが生まれるような和やかな場を作りたいと思いましたが、初めての開催とい

うこともあり、同窓会の認知度が低く、それを補うためのキャンペーンに工夫と努力が足りなかったのが大きな反省点であります。

しかし、20年振りに再会できました。特に女性は、大学時代のまま、皆さん美しく、過ぎ去った歳月をまったく感じさせませんでした。まるで、1985年製作の映画「バックトゥーザフューチャー」のように、1985年の未来に戻つたようでした。

代表幹事開会の辞として以下のご挨拶をさせて頂きました。
①卒業年の1985年は、特別な年である。(新潮新書「1985年」吉崎達彦著引用)
②2005年と1985年との類似点を紹介

③成蹊大学の良さについて
われわれ卒業後の当初は未曾有の景気でしたが、最初だけで20年間のほとんどは、バブルの清算で仕事でも家庭でもきつい時代だったのでないでしょうか?しかし、2005年は、阪神優勝、愛地球博とつくば、構造改革等1985年との類似点が多い。(日経新聞記事引用)だとすれば、これから相当景気



て、社会に出てから運よく成蹊大卒の方々の良いご縁に恵まれました。小さい学校だけれども面倒見の良い先輩の多い素晴らしい学校です。その美風がこういった同窓会をおして広がって行けば素晴らしいことだと思います。

また、10年後の卒業30周年記念でお会いできることを楽しみにしております。

三重野裕路 (経・60年)

大学卒業10周年

平成17年11月5日(土)。快晴。この日、成蹊大学卒業10周年記念同窓会が開催された。これは文字通り大学を卒業して10年目に当たる人たちの、学部を超えた同窓会である。しかもこの10周年は、ホームカミングとして学園が全面的にバックアップしてくれるという初の試みでもあった。一応各学部から2名程度の幹事が選出され(私もその一人)だが、ほとんどの準備を成蹊会におんぶにだっこで当

日を迎えた。

そんな何もしていない幹事でも、やはり当日は不安なもので事前に申し込んでくれていた人たちは果たして来てくれるのか、楽しい時間を過ごしてくれるのだろうか、盛り上がるのだろうか、出足が遅く、やきもきしながら開会を待った。

が、蓋を開けてみればそんな心配は杞憂だったようだ。開会を迎える頃には凡そ130名程度の人数が集まり、学園専務理事や成蹊会会長の挨拶、同窓会役員紹介、学園広報課長の学園近況紹介などの会次第の後、

学長による乾杯。そこからは豪華な料理と美酒を前に、同窓会と呼ぶにふさわしく懐かしい顔



たちとおおいに盛り上がった。

会場には小さな子どもたちの姿もあり、同窓の「父」「母」となった姿を見るのも、この10年の歳月を感じ、感慨迫るものがあった。

キャンパスも随分様変わりをしていて。我々がいた頃の建物がなくなり、新しい建物が増えている。母校のこういった変容は一抹の寂しさ呼び起こされるが、それでも久しぶりの母校で、仲間と出会える機会を得たことは貴重な経験だったといえよう。

このような会が機縁となって、卒業生たちの輪が広がって深まることは、成蹊の発展にもつながっていくことだろう。今後ますますの活気をもつて、開催され続けていくことを祈りたい。

藤田尚子 (文・平7年)



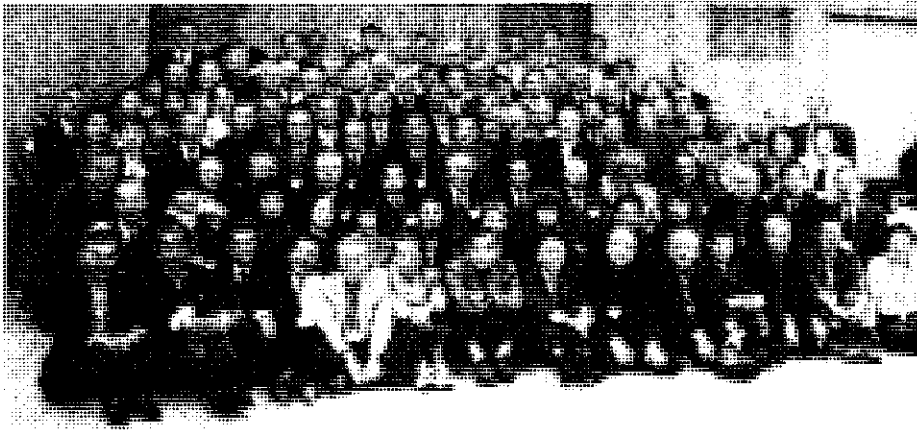
たつみ会

(S28小卒・S31中卒・S34高卒)

05年6月17日(ニートーキョー12階「さがみ」)に15名ほどの野郎が集まり長くあたたためていた小中高の学年クラス会の打合わせが始まりました。開催日は11月の土日。場所は大学10号館12階ホール。小中高でお世話になった先生全員をお招きする。クラス別に女性を含めた幹事を決め、会場設定・会員への案内・名簿作製・写真・二次会・音楽・司会・当日の役割・会計等々。おおまかの役割が決定。ほとんどの会員はS15年16年生まれの為、名称を「辰巳会」と命名。大枠はその日に決まり担当ごとに今後の行動を起こす。

メイリングリストによって幹事の連帯感を強め双方の連絡をとる。この手法が大成功でした。予定参加者 105名

さて、11月6日。待ちに待った当日。天気はまずまず。池田幹事長・大河内・笹原・米山幹事は12時前に到着。他の幹事も



12時半には全員集合。三木・香椎の指示で手分けして会場整備。二次会のバンドも到着。恩師の先生方もぞくぞくとお出ましになられ、香椎が苦勞した高級料理がテーブルの上にこれでもかと並ぶ。宮本が生けた可愛い花がきわだつ。

で開演。児玉の挨拶の後来賓の成蹊会瀧秀彦会長の挨拶乾杯でスタート。中学以来、高校以来、大学卒業後始めてなんて声が響き渡る。成蹊会からお借りした首から下げるラスターをチラチラ見ながらお前か。貴女だったんだ。司会の話なんか耳に入らない。久振りにお目に掛かる小学校の担任、中学の担任。あの時は迷惑を掛けました。専科の先生、ヤンチャな私どもをかばってくれました。あの時の先生は大きく見えた。歳の差を感じた。今日はあの時ほど差を感じない。先生方が若いんだな。話が弾む。頃合で写真撮影。始めに全員のショット。他校進学組・A・B・C・D・Eと横川カメラマンも八方からの声を制止し無事終了。

さて、二次会。写真撮影の間に料理もガラッと模様替え。ティーパーティー様式のケーキ・フルーツ等々。盛沢山、富田、三木、友情出演の方々によるバンド演奏も入り、平野のフルート、太田の

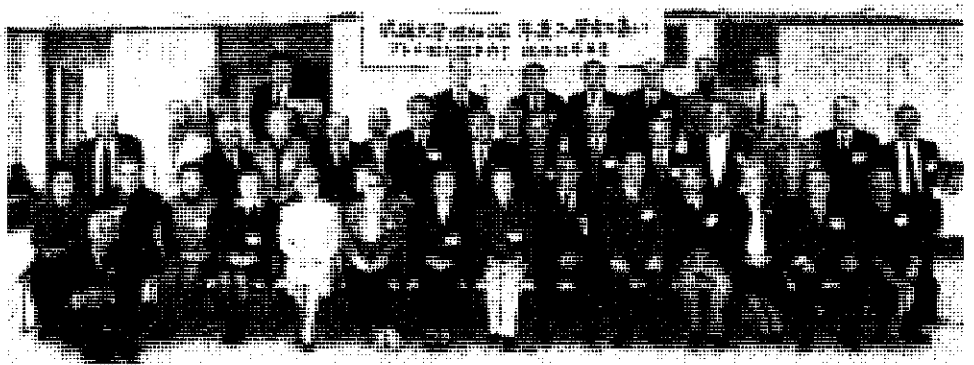
歌。聞く方も、話す方も、食べる方もお忙し。50年前に戻ってはしゃぎまわりました。アツと言ふ間の3時間。楽しい一時でした。

会を開くにあたり、成蹊会の細かなアドバイス、お手伝いして頂いた高橋事務局長、この場をかりてお礼申し上げます。出席頂いた先生はもちろんのこと、瀧会長、そして同級生。(幹事の皆様) お陰様で楽しい会が出来ました。成蹊会に寄付、会の繰越金も出て会計担当の旨地も大喜びです。皆様、本当にありがとうございました。今回都合で出席されなかった方々も是非次回5年後の「たつみ会」でお目に掛かりましょう。お元気で

お過ごし下さい。
松村 坦(高・34年)

卒業50周年 昭和26年入学 プレメ・政経

旧理化館・跡地に建ち始めた大学情報図書館の建設現場を横に見ながら、定刻頃には同期生達も10号館ホールに揃った。杖



(篠原周平、中村喜典、下川汪尚)を聞いたたり、更に、成蹊グッツ(加藤聰)の宣伝ノ購入ノ寄付に興じていた。いつもの様に案内状は市瀬隆に、名簿は藤原尚に、写真は平井博が担当した。

開宴に先立ち我々の【卒業50周年】にも多忙にも拘わらずご出席して戴けた、学園・加藤専務理事、大学・栗田学長、成蹊会・瀧会長より、それぞれ、お話を承るといふ貴重な機会を得た。

今回の会費の一部を創立100周年事業に寄付する件も予想を上回る結果になったとの発表等があり、名残尽きないパーティーを散会した。

平井 博(政経・30年)

の替わりと称する奥様帯同・愛妻家も増えた。

名札(石井洋吉、大松和子) 受付(市川徹、岩崎健三) 成蹊学園フレンドシップ・コンサート入場券(藤巻京子、佐藤利知子、谷村恵英)を受け取って、入学当時の成蹊大学新聞の説明



体育会・文化会・OB会 趣味のこぞい

写蹊会写真展

回の横浜に次いで東京の旧市内を撮影するツアーを企画しましたが、この成果は作品数とバラエティーに富む被写体が物語っておりました。

肝心の開花の遅れが来園の方々の足並みに影響すると心配され、果ては「花咲か爺の招聘……？」となるか懸念されましたが、蓋を開けて見れば主催者の発表では6,000名を上回る方々が来園され、史料館に入館された方は大凡390名、其の内331名が写真展を鑑賞されましたが、これは例年平均199名を大幅に上回るものでした。今年も出展を約束された奥住先生のご逝去に接し、お預かりした原画を拡大し急遽遺作展示コーナーを設置しました。

写蹊会では作品作成の促進と懇親を目的に、日帰り撮影会を実施しており、写真展を控え前

一方展示作品に関わる内容は39名(例年平均33名)の方が91点(例年平均69点)の作品を出展され、総て写蹊会発足以来のデータを上回るものとなり、それだけに回廊は參觀者が絶えず、秀作の前は渋滞が発生するほどでした。

ここ数年の傾向として、風景・静物に関わる作品が増える傍ら人物や動物が減少気味でしたが、今回は人物が22点・動物7点と増加の兆しが何われ、出展作品のバランスも改善されております。この様にややもすればマンネリ化しがちな傾向を、撮影会や成蹊桜祭の写真展出展を機に打破前進できましたことは、偏に例年より大幅に増加した作品展示の為に史料館2階口



ビーの壁面全面、懸垂掲示及び卓上展示等に全面的なご協力を下さった学園広報課のご厚情と写真展を閲覧され激励して下さいた各位、写真展開催に当りお骨折り頂いた大学写真部学生諸君、秀作を出展された会員各位のお力添えあればこそと心から感謝申し上げます。

【4月3日(日)実施】

写蹊会世話人一同

成蹊ラグークラブ 桜祭り



快晴の平成17年4月29日「みどりの日」、成蹊ラグークラブ



成蹊オーバー30 対学習院オーバー30 のゲームから

恒例の「桜祭り」が、新緑の映える学園グラウンドで行われた。当日は、大型連休の初日とあって、小・中学・大学チームの選手、OB、先生、家族など、200名ほどが集まり、交流、旧交を温める催しとなった。

今回も父母会のご好意によるビール、焼きとりなどの模擬店もあり、賑やかな集りとなり、グラウンドで展開されるプレーに熱い声援がおくられた。

当日は、オーバー40OB対中学生チーム、成蹊オーバー30OB対学習院OB、オール成蹊OB対大学現役チームの3ゲームが行われた。いずれもシーズン当初にも拘らず、熱気の入っ



たプレーが展開された。

正午には一同でメモリアル前に集まり、物故者を偲んで黙とう、続いて、ラグークラブ高島信之会長(旧高20回)、成蹊会国府寺敬二常務理事(政経11回)、ご遺族の方々より献花が行われた。

高島会長よりシーズンに向かつて選手への激励の挨拶があったあと、昨年のシーズンに活躍した優秀選手へ「キャップ」の贈呈、更に今シーズンの活躍が期待される新入部員の紹介、各チーム新キャプテンの決意表明があった。

参加者一同がグラウンドに集まり、大学チーム山口晋平主将(経4年)のリードで部歌を合唱し、盛会のうちに終了した。

原 一郎(政経・28年)

清和会 ハイキング

5月25日新緑の高水三山への山行を行なった。1月の三浦半島大楠山に続く本年2回目のハイキングである。前回が思いのほかハードであったこともあり、参加者は杖を買い揃える等装備の充実が目立った。まずは塩谷リーダーの下、青梅線軍畑駅にぎやかにスタートした。

山頂にある寺院や古社、更にはアップダウン、急坂と変化に富むコースを確実にこなし全員無事三山を踏破した。

最後の締は古例の反省会を沢井駅前小澤酒造澤乃井園で行なった。小澤順一郎社長（経済第8回卒）のご配慮による蔵元生酒に全員大感激、「四季折々このコースを楽しんで」の声も上る大満足の山行となった。

高増欣史（政経・41年）

蹊氣会 （けいきかい） 合氣道部OB会

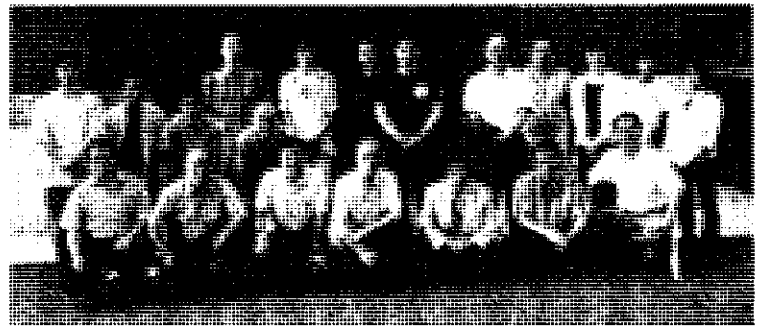
去る平成一七年六月二五日（土）大学構内にて、第七回合氣道部OB会総会が開催されました。席上、初代主将の高橋誠氏のご提案により、合氣道部OB会の呼称が決定しました。

大宇宙、天地のエネルギーを称して私達は「氣」と呼びます。

この宇宙天地にくまなく存在している氣はプラス（積極）の氣です。それは微生物として誕生以来の人類の進化とその英知を結集しての文化の発展等によってあきらかです。そのプラスの「氣」を自分自身の心身に合致させて行動する時に自覚されるのが、「心の力」なのです。

そして、合氣道は「氣に合うるの道」と書きます。すなわち天地の氣と一体となった時にこそ、人は思いもよらない力（心の力）を発揮する、これが合氣道の教えです。

合氣道の教えとは、人を投げたり押さえたりする事だけが目



的ではなく、宇宙の真理である和の心を知り、稽古を通じて自分自身を磨き、人類の進化と向上、世界平和に貢献する事なのです。

今後、合氣道部OB会は、「蹊氣会」をその呼称として益々発展して参りたいと考えておりますので、学園関係者の皆様の暖かいご理解を心からお願ひ申し上げます。

服部真久（経・58年）

ヨット部OB会

7月2日(土)、3日(日)の二日間琵琶湖に於いて、2005年第15回全日本A級ディンギー選手権大会が開催された。

我が蹊帆クラブ（成蹊大学体育会ヨット部OB会）A93号艇（佐山・貞弘組）が出場47艇中、見事3位に入賞した。

第4回大会から参加した蹊帆クラブは、これまで優勝3回（史上最多）、3位2回・4位2回・6位3回と、運営当番校となった2000年の八景島大会を除くすべての大会で入賞を果たしてきたが、今大会でも全日本3位となり、実力の高さをまともや全国に知らしめるどころとなった。

我が蹊帆クラブは、今大会には従来の93号艇、1003号艇に加え、イタリアから輸入したばかりのダブルボトムグラスファイバー製1004号艇を投入した。93号艇と1003号艇は優勝を狙って実力者を投入し、

一方、沈をしても安全な1004号艇は長くヨットから遠ざかっているOBにも気楽に参加してもらい、ヨットを楽しんで頂く、という基本的な考えであった。

参加選手は、本橋一彦（33年卒・OB会長）、森紀二（37年）、佐山和義（42年・監督）、丹羽秀夫（43年）、貞弘浩二（45年・主将）、長友康夫（46年）、小町敏則（46年）、湯浅悦郎（46年）、田頭信博（47年）の10名の精鋭が琵琶湖に集結した。10名の選手で3艇（スキップ・クルー合計6名）出場であるから、全レースフル出場の佐山・貞弘選手をはじめとし、全員参加の体力的にも相当ハードな大会であった。

レースは2日間とも時折雨が降り、強風の吹く悪コンディションの中、初日3レース、2日目3レースの計6レースが行なわれた。

93号艇は第1レース4位、第2レース6位と、まずまずの滑し出しを見たが、第3レースにミスと不運が重なり、予想外の31位となった。初日を終わって93号艇は計41点、47艇中14位と大きく出遅れてしまった。替わ

つて大健闘したのがイタリア輸入艇1004号艇で、初日の3レースで計36点で9位に食い込んできた。

その夜のミーティングでは、『93号艇はもとより、1004号艇にも上位入賞を狙わせるべき』との意見も出た程であり、このことは成蹊チーム全体の実力の高さ、底力の強さを証明するエピソードでもある。

結局2日目の途中経過で良い成績の艇を、他の艇が援護するチームプレーで挽回を回ることを基本戦略とした。この作戦が功を奏したのが最終第6レースで、上マーク11位と出遅れた93号艇に対して、僅かに先行していた1003号艇と1004号艇が3位入賞を争っていた九州大艇、関学艇などを徹底マーク



し、93号艇を先行させることに成功した。4位フィニッシュできた1003号艇(長友・小町)は93号艇(貞弘・佐山)に先をゆずり、自身は5位でフィニッシュした。

この結果93号艇は7艇を抜いて4位でフィニッシュ。2日間のトータルで64点となり、1位立命館、2位立教に続いて総合第3位となった。総合4位となった九大艇の65点とは、僅か1点差というきわどさであり、今回の全日本3位は、まさにチーム全員のチームワークによる3位入賞であった。

ちなみに6位までの入賞校は次の通りである。
1位立命館(得点21)、2位立教(61)、3位成蹊(64)、4位九州大(65)、5位関西大(72)、6位同志社(76)。

田頭信博(経・47年)

旧高OB ラグーマンの集い

梅雨模様の平成17年7月16日、東京霞ヶ関ビルの霞会館におい

て、旧制高校OBラグー(成城成蹊、学習院)30名ほどが集いをもった。

昭和58年に新宿中村屋において第1回を行ったこの集いは、太平洋戦争中より行われたインターハイ(旧高ラグビー選手権)に出場活躍したメンバーを中心とした集りである。

成蹊からは高島信之ラガークラブ会長(旧高20回)をはじめ9名が参加した。幹事校が学習院とあって同校OBの松岡志郎氏の挨拶のあと、一同で乾杯、交流懇談の場となった。話題は会場で配布された昭和21年5月に行われた関東高校のトーナメント大会で成蹊が学習院、一高成城チームを制覇し、優勝したメンバーリストを見ながらの懐古談。又、最近の母校チームの戦力予想などに至る。

成城OB田崎邦男氏から終戦の年に行われた成蹊とのゲームの様、成蹊の幹事役である宮田隆氏(旧高23回)よりこの催しの経緯などを含めての挨拶と続いた。

恒例の各校チーム夫々の部歌を披露する場となり、今回は、学習院OBの渡邊忠三郎氏のピアノ伴奏付きで行われた。成蹊



きとなった。

原 一郎(旧高・28年)

写蹊会総会

「敬老の日は晴天に恵まれる」と言う前向き思考のジンクスを信じ、好評だった10号館12階ホールを早めに予約しましたが、敬老の日9月19日は麗らかな日とに恵まれ、定刻午後1時には昨年を上回る36名の会員各位が来訪され、第6回写蹊会総会は恙無く開会の運びとなりました。友田氏の司会、竹内さんの解説により議事は滞り無く進行、年間2回企画された撮影会の成果が桜祭写真展の質的向上を具現化させたこと等、資料に基づき行事報告があり、今後の行動計画につきご提案とアンケートに依るご意見収集が為され、会運営の方向性が確認された後、日本報道写真連盟ほか多くの写真団体の要職を務め、写真誌上でも著名な城靖治氏(写蹊会会員)による特別講演「おもしろ写真史の話」を伺いました。



1822年フランスでJ.N.ニエプスが画像を止める技術の開発以来、J.M.ダゲールの銀版写真術完成を経て、思考錯誤を繰返シネガ・ポジの時代に至る写真術の変遷、1900年ロールフィルムの出現により飛躍的進歩とグローバルな大衆化を遂げ今日それに代わろうとするデジカメは、新聞社が旗手となり1998年長野冬季オリンピックで報道写真のデジタル化が徹底

されたことが普及促進に拍車をかけ、果ては携帯電話に組み込まれる迄に浸透し今日に至るわけですが、城氏の持参された数々の貴重な写真機材を表現しながらの迫力溢れるお話に接し、我々が手にする何の変哲も無いカメラとその作品が、170数年の歴史を経て成功と挫折を重ね完成された尊い産物であることが改めて確認され、写真に対する愛着が更に深まりました。

歴史を紐解けば、焼き増が出来なかつた銀盤写真の時代は一枚しか無い卒業写真を学校が保管し、見たい場合は学校に出向き閲覧し、巷では写真を撮ると命を吸い取られたり心の中を読まれてしまう等の奇説が囁かれ、古典写真の登場人物が申し合わせた様に強張った仏頂顔をしてゐる訳は、乾板やフィルムの感光度が低く露出時間を必要とする故、その間微動すらも許されずステッキ等で身体を支え、一番動きやすい頭部を固定する専用器具を写真家は常に具備していた程で、当然笑い顔の写真は皆無に等しく、集中力散漫な子供の撮影は写真家泣かせと云われました。当時一枚の写真を完成させるには技術と経験、時間

重く嵩張る機材を必要とし、出張写真家は暗室付き馬車で活動しており、TVでお馴染みの「家無き子ペリーヌ」が病弱な写真家の母親と馬車で移動しながら強く生き抜くフランスの童話は、写真発祥の地に相応しいものと云えるでしょう。

お話の余韻が醒めぬまま懇親会となり、歓談の中で講演内容に関する掘り下げた質問や会運営に役立つ建設的なご提案を頂き盛会の内に定刻を迎えました。これからも楽しい雰囲気の中で優れた作品造りが出来るよう推進運営して行く所存であります。

写実会世話人一同

ギター ソサエティー OB/OG会

9月24日、あいにくの天気の中、恒例のギターソサエティー(ギタソ)OB/OG会を、大宮10号館12階ホールで開催しました。昨年は創部40周年ということで盛大でしたが、今年もOB/OG約30名、現役員約20

名と、やや少ないながらも盛会となりました。

会は、恒例により、コンサート、OB/OG会定期総会、懇親会というプログラムで行われ、コンサートでは、現役とOB/OG合同で、現役2名を含む10組の独奏・重奏が披露されました。毎年のこの会を目標にギターの練習をしているOB/OGの演奏にはほのぼのとした雰囲気が漂う一方、日頃からギターを弾いているという方の演奏では、皆が息を飲むようなものもあり、充実したものとなりました。

続いてのOB/OG会定期総会では、通常の議案の他、現役の活動状況報告や、ギタソ全体としての課題などについて活発な意見交換がなされました。その際、現役の部長から、創部以来演奏会時に舞台上に掲揚している部旗が古くなっており修繕又は新規購入を検討している旨の発言があり、それについてはOB/OG会として可能な限り支援することとなりました。懇親会では、世代間さらには世代を超えた交流が活発になされ大いに盛り上がりました。来年度の会で演奏デビューを



宣言したOB/OGもあり、早くも来年を楽しみになりました。この会誌をご覧になっているギタソOBの方、特に昭和60年度年代以降卒業の方の出席が少なくやや寂しくなっていますので、来年はぜひご出席ください。
高瀬正弘(経・63年)

自動車部 17年度OB会総会

当日の朝方は雨模様だったが、総会開始の昼には、会場の第二学生食堂の三階も涼しい秋の気配に変わり一年振りの顔が集まってきた。緑の下の力持ち役の現役員は『会場への案内』



出ておりました。成道先生は、日本の税務研究の第一人者であり、先生のご講演が聴けるのは成蹊会計人会ならではと思います。

その後、総会が滞りなく終了し、懇親会へと進んでいきました。冒頭、松葉先生から「組織はなぜ腐るのか」カネボウ事件を題材にされたすばらしいスピーチがあり、筆者も感動してしまいました。ぜひ、成蹊会計人のみならず卒業生みんなに聞いていただいていたと感じました。懇親会では、メンバー全員の近況報告等があり、和やかな会と

なりました。お互いの苦勞話に花が咲きました。おもしろいですよ。毎年、11月上旬に総会を行っておりますので職業会計人



地域のつどい

となられている方、是非、ご連絡ください。
白土英成(経・56年)

オーストラリア クイーンズランド 成蹊会

第20回QLD成蹊会を2005年8月20日(土) 12時にゴールドコースト市内のHoliday Inn(旧ANAホテル)向かい側にあるゴールドコーストシャークスフィン中華料理店(飲茶)で半年振りに開催いたしました。

ドコースト・日本両方の生活を楽しんでおられる中橋和夫さん(S35高校)ご夫妻、中橋さんと高校時代の友人で同じくリタイアメントの杉浦重勇さん(S39政経)の奥様、ご主人は少し前に一時帰国されました。Juniko Van Dorenさん(旧姓高橋淳子)S54文学部英米文学科)そしてお友達も参加していただきました。ここ数回、日本往復などの都合で欠席だった織田健さん(S37政経)が久しぶりに出席されました。



専攻)のお二人が忙しい勉強の最中に州都ブリスベンから駆けつけてくれました。舛谷さんが日本で成蹊会誌を読んで連絡をくださいました。また当地に在住のオーストラリア人の元成蹊留學生にも声を掛けてくれましたが出席できませんでした。「普段は学生同士の付き合いばかりで今度の学園大先輩とのお話はいつもと違って楽しかった」と言っていたきました。今年一杯、グリフィス大学で勉強を続けることとす。前回、当会についてお知らせした交換留學生(1992-1993の1年間)のMr. Chris Ryall

(州立ベルビュー小学校の日本語先生)は今年4月から名古屋在住との連絡をいただきました。例年8月の当会に日本から特別参加される加藤章雄さん(S41工)ご夫妻は開催日の1週間前に帰国されました。ゴールドコーストに数年前からご夫妻でリタイアの生活を楽しんでおられ、度々、出席いただいた島村尚さん(S32高校卒)はこちらを整理されて6月に日本(札幌)に帰国されました。成蹊会事務局から送っていた旧制高等学校創立八十年記念誌「我ら讀えんその名成蹊」を参加者全員で興味深く回覧させていただきました。学園での近況、昔話など話題はつきませんでした。2012年の創立100周年に向けて今後益々の学園の発展を祈念してお開きとなりました。

なお当会では学園(小中高校大学)の卒業生に限らず広くご家族、友人の参加も歓迎しておりますのでご連絡下さい。ゴールドコーストの冬(日本の夏)は最低気温が10度以下になることが少ないのですがさらに暖冬の凌ぎやすい季節でした。皆様もゴールドコーストに来られる

ときにはご遠慮なくご一報下さい。

e-mail:

samishijima@hotmail.com

Tei/Fax:

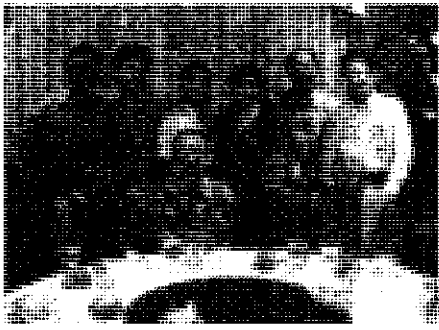
07-555717808

Mobile: 0418763717

西嶋 勇(政経・40年)

ハワイ成蹊会

このたび、ハワイ成蹊会を発足いたしました。ご連絡が遅くなりましたが、今1月19日に、新年会兼発足をホノルル市内のレストランにて開催いたしました。当日は卒業生9名(ハワ



イ在住者7名、ハワイ訪問者2名)が出席し、成蹊の話で盛り上がりしました。今後も毎年、新年会を中心に交友を深めて行きたいと考えております。ハワイ在住の卒業生の方はこちらなのですが、ハワイ訪問中の方も是非御連絡下さい。

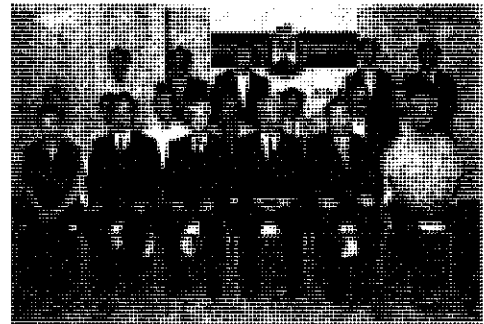
望月一男(法・54年)

宮城成蹊会

8月26日平成17年度宮城成蹊会総会および懇親会をプラザ軒にて開催いたしました。昨年まで年末に開催をしておりましたが、昨年の総会にてご承認をいただいた初めての夏の総会を仙台でも老舗のレストランにて開催いたしました。当日は成蹊会本部より齋藤悠常務理事、高橋章建事務局長をご来賓にお迎えし、小田島司郎会長をはじめ会員18名の出席をいただきました。

はじめに小田島司郎会長よりご挨拶をいただきました。永井周司会員(戸田建設)のお取り

計らいで実現しました山形成蹊会との交流のひとつとして、前週に開催された山形成蹊会の模様や、会長の人事などにつきましてお話をいただきました。山形成蹊会とは隣県ですので今後とも交流を盛んにできたらよいと考えております。



齋藤悠常務理事から学園近況報告、学園事業に対するお話などをいただきました。また、高橋章建事務局長が持参いただいた学園内の現在の風景の写真を拝見しながら、学園の移り変わりに驚き、思い出話に大いに盛り上がりました。最後に成蹊学園校歌を合唱しお開きとなりました。

最後にお願いです。前回は会報をご覧いただいた方々よりた

くさんのお問い合わせをいただきました。今年もこの会報をご覧の宮城在住の同窓生の皆様からのご連絡をお待ちしております。

ソニー生命保険 村田昌三

メール: syouzou-murata

@sonylife.co.jp

電話:

022-296-5301

村田昌三(法・52年)

新潟成蹊会

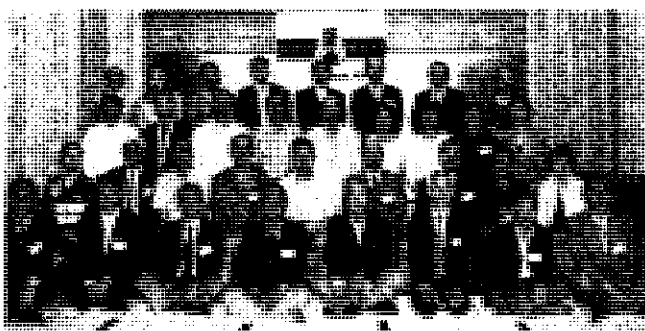
七月十日(日)、梅雨の合間の快晴、今年も恒例となりました年一回の新潟成蹊会を開催致しました。

場所は、これも毎年恒例、市内でも指折りの老舗割烹『行形亭』(平成二年経済学部卒、行形和滋さんが代表を務める)で、三十六名の参加を得、盛況に執り行われました。又、今回も七名のご同伴者が出席され、会に花を添えて頂きました。

さて冒頭に有沢栄一会長(昭和三十二年政治経済学部卒)か

ら開会のご挨拶があり、その後、ご来賓の社団法人成蹊会会長、瀧秀彦様より昨年の中越地震が発生した際の、ご丁寧なるお見舞、学園近況等のご挨拶を頂戴し、その後会員各位による自己紹介が行われ、懇親の部に移りました。

この会の一番の売物は、行形亭さんの見事なお庭、お座敷として丹精込めた四季の料理です。厳選された食材による見た目も見事な伝統料理の数々、そして地元新潟の銘酒を堪能することが出来、今年も大盛況となりました。



私が今回も感じた事は、人間ある程度の年齢になりますと、会社の状況、子供の教育問題、健康管理、親の病気とか、話題が決まってくるように思われたことです。

さて楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は全員で懐かしい校歌を斉唱し、中締めとなりました。

ご多忙の所、わざわざ東京からお越し下さいました瀧会長に感謝申し上げ、来年もより多くの方々が、元気な姿でご参集下さいますようお願い申し上げます。取り急ぎ新潟成蹊会の報告とさせていただきます。

浜田忠博 (経・52年)

山形成蹊会

「山形成蹊会」はお陰様をもちまして今年6回目の開催を迎え、去る8月21日に山形市内ホテルにて総会、懇親会を実施終了いたしました。

今年も成蹊会より齋藤悠常務理事、高橋章建事務局長、成蹊

学園より伊藤昌弘報課長の皆様にもご来県いただき、そして隣県宮城成蹊会から今後は東北各県との際を広げるべく、小田島司郎宮城成蹊会会長様のご出席をいただきました。

皆様ご多忙の中にも時間を割いていただき厚くお礼申しあげます。

成蹊会本部からは毎回学園広報資料などご準備いただいておりますが、特に今年には学園の桜風景の映像や現在と昔の校舎の写真会場でご披露できる機会を設けることができました。

出席者全員を何十年？前の青春時代へタイムスリップさせていただいたようです。

春の学園入学時のあの懐かしさ、そして新鮮な思いを心に描いたに違いありません。

総会では本山彌山形成蹊会会長の挨拶、議事進行と滞りなく終了、懇親会となりました。出席者全員から近況、思い出などのスピーチいただき盛り上げていただきました。

山形は「酒どころ」といわれていますが、当会には造酒屋さんご主人が3人いらつしやいます。高橋義郎さん(昭和43年政治経済学部・川西町・中沖酒造

店) 加藤有慶さん(昭和63年法学部・鶴岡市・富士酒造) 大沼寿洋さん(平成7年工学部・寒河江市・千代寿とらや酒造) おいしい酒をつくられている成蹊会OBの方々です。

数多いといわれている山形県内の造酒屋さんの中に3人もいらつしやいます。山形よいとこ自慢の山形成蹊会です。

地元のおいしい酒を飲み交わしながら、そして伊藤寿一さん(昭和50年経済学部・軽音楽アンサンブルクラブOB)のテナーサクソ演奏を聴きながら、酒と音楽と語らいの楽しい時間を過ごすことができました。

開催を重ねるごとに山形成蹊会を盛り上げていきたいと、鈴



木事務局長(株式会社でん六社長)を中心に試行錯誤をしております。今後とも全国各県の成蹊会の皆様のご指導、ご教示方よろしくお願い申し上げます。

安藤正博 (経・48年)

千葉支部総会

千葉支部第54回総会並びに講演会・懇親会を盛大に開催！演壇に成蹊会旗を掲出！

平成17年7月2日(土)、千葉市中央・千葉商工会議所14階・第2ホールで第54回総会(別称・七夕の集い)が、学園より加藤節専務理事、本部より瀧秀彦会長・齋藤悠常務理事(新任)・高橋章建事務局長を迎え、根岸孝彰氏(元成蹊会常務理事/政経10回)にもご参加をいただき、総勢66名(内、初参加者8名)の出席を得て盛会裡に開催された。

定刻午後3時 司会・鈴木茂樹幹事(文1回)により開会宣言。初めに初代支部長・故香月

秀雄先生並びに元成蹊会会長・谷岡喜久蔵先生(平成16年12月7日ご逝去)を偲び慰霊黙禱の後、安田敬一支部長、安田教育振興会理事長/政経2回)より来賓・出席者一人ひとりに対して懇切なる謝辞が述べられ、続いて団体として千葉支部より成蹊学園創立100周年記念事業募金寄付目録を加藤専務理事に贈呈。

次に、加藤専務理事・瀧会長より、それぞれの立場から祝意の籠った謝辞並びに変革する学園の動向や成蹊会の新役員人事を含めた現況と会員把握の方向性についての考え方、100周年記念事業募金活動の意義と一層の協力を懇請された。

今回の総会のもう一つの核は、津田英彦先生(千葉市医師会前会長/ゆき葉県医師会代議員)千葉市教育委員他、順天堂大学医学部卒業/成蹊会千葉支部副支部長/高5回)の講演。演題は「呆けずに長生き」と題して、自然体でポジティブに生きること、よく歩くことの大切さなどを約40分にわたり多くの事例を示され、大変ユニークなお話とこれからのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)に関する示



峻に富んだ講演であった。(講演要旨別掲)

続いて、園田信行幹事(日本大連会事務局長/政経4回)による「辛亥革命記念碑(千葉大学医学部本館前庭の一隅に1912年11月9日建立になる自然石の碑)」についての歴史講話(約10分)があった。この碑は、まぎれもなく中国最後の朝廷・清朝が倒される1911年の戦いに赤十字隊を組織して馳せ参じた、千葉医学専門学校中国留学生の記念語録であり、日中友好の歴史的意義は深く、時宜を得た講話であった。

の記念集大写真の撮影。
 続く第3部・懇親会は、同じル9階「レストラン・ピープル」にて、満藤庸也幹事(経7回)の司会で進行。深澤勝彦副支部長(政経7回)の開会の言葉に続いて、当日の大先輩・落合和雄先生(旧高13回)の温情あふれる音頭にて、安田支部長寄贈のシャンパンで乾杯。会場の各テーブルには華麗な生け花(中部智子・T.Mフローラ代表/文14回による飾付け)、豊富な料理・飲物が並び、歓談・交流に花が咲いた。
 加えて、当日初参加の各位による自己紹介など、司会の巧みなりードにより多くの出席者の声を聞くことができた。また、今回は嶋村欣一顧問(前支部長/旧高18回)がご夫人同伴で元氣な姿を見せて下さったこと、榎部文字氏(文10回)がご主人同伴で参加されたこと、劉亜斌先生(医博、里村洋一先生弟子)の夫人・馬寧女士が出席されたことなど嬉しいことが重なり、頗る楽しい懇親会となった。

閉会の言葉を予定していた小出善三郎相談役(前市原市長/政経2回)は所用にて途中退出

されたが、当日用意された銘酒は小出夫人の実家の「梅一輪」で感慨深げであった。
 午後7時定刻、鈴木茂樹幹事(文1回)と久我太郎先輩(旧高16回)のリードで校歌斉唱、大塚克彦幹事(政経17回)の先導で、千葉開府879年の伝統ある千葉締め「シャンシャンシャン」。シャンシャンシャンシャン。

尚、今回の盛会は、学園・本部のご協力、会員各位並びに若い世代の積極的な参加。柏端博



幹事(政経13回)・北井良彦幹事(政経13回)をはじめとして、会議を重ねた役員各位のチームプレーによるものであること。兵藤清幹事(法12回)や積極的に手伝ってくれた丸山忠男氏(政経11回)など煩雑な受付業務に忙殺されたこと。更に、成蹊ネクターイ6本も完売したことを付記して深甚なる謝意を表したい。
 ☆七夕や懐かしき人皆大に
 秀洋

酒井四平(政経・28年)

埼玉成蹊会

9月15日川口駅前の中華料理店「江南春」に於いて「第2回埼玉成蹊会」が行われました。成蹊会からも瀧会長、齋藤常務理事にご出席頂いての総勢20名の盛会でありました。

今回の成蹊会は昨年8月に57歳の若さで世界界された埼玉成蹊会の創設にあたっての最大の功労者である大熊武右衛門君(S45卒)のご冥福をお祈りする意味もあり、開会直後全員による

黙禱が行われました。

冒頭、瀧会長からの成蹊学園の近況およびクラブ活動における現役諸君の活躍などの報告を頂戴したのち、佐藤彰吾先輩のご発声による乾杯で開宴となりました。

しばしば歓談の後、一人1分半という約束で全員に自己紹介して頂きましたが、皆さんのご協力により予定をたった30分超えただけで無事終了しました。

最後に校歌斉唱となりましたが、幹事の手違いでなぜかお配りした歌詞は1番と2番。

いつもであれば「1番、3番元氣よく!」となるはずの校歌が成蹊としては世にも珍しい「1番、2番元氣よく!」となりました。(たまには2番もいいモンでしょう)おまけに最後の写真撮影も露光不足で失敗。皆さん失礼しました。

埼玉成蹊会は今回で2回目ですが、前出の故大熊武右衛門君が川口在住、在勤の成蹊卒業生を数名集めて最初に会合を開いたのが1995年ではや10年。その後1997年に正式に川口成蹊会として発足し、5回の会合を重ねた後2003年に埼玉成蹊会に昇格して現在に至って

います。

現在の埼玉成蹊会登録者数は約80名。埼玉県には在住者だけで約5000名の成蹊卒業生が居られ(成蹊会調べ)、在勤者も含めれば相当な数になるはず。今後ともますますこの会を発展させるためにも皆様のご参加をお待ちしております。

ご参加ご希望の方は下記まで電話またはE-Mailでご連絡下さい。登録用紙をお送りいたします。

ドタバタのなかで幹事の不手際(容赦下さい)。

埼玉成蹊会事務局 水谷一郎
株式会社ハチケン
〒334-0013

埼玉県鴻ヶ谷市南5-3-11
TEL (048) 281-3615

FAX (048) 281-7287
ic.mizutani@hachiken.com

水谷一郎(工・45年)

渋谷成蹊会

7月9日18時より第36回渋谷成蹊会「青山ダイヤモンドホー

ル」で開催致しました。

成蹊会より瀧会長と新任の齋藤常務理事及び学園からと、新入会員8名を迎え60名の参加者が有りました。

乾杯のご発声は参会者中の最長老にお願いしておりますが、今回は昭和27年大学第1回卒の赤石先輩にお願いしました。校歌に関するお話をして頂きましたが、私達が集会の度に歌っております校歌がある時期、神道



を奉ずる校長から仏教の歌とい

う事で禁止に成っていたと言う事を伺い驚きました。

ご挨拶は何時も初参加の方だけに懇談の時間を長く取るようにしております。初参加の方々も直ぐ会話の輪に溶け込めるのも、けやきの並木道とレンガの本館という風景の中で学園生活を過ごした共通の想い出があるからだと思えます。

閉会に先立恒例の校歌は神奈川県会議員の藤間君(政経S54年)と大井君(法学H1)の二人の県会議員に日頃街頭演説で鍛えた喉でリードしてもらい、何時もの様に1番2番3番を高唱し一次会は終了、二次会はそれぞれのグループ毎に雨の青山に散って行きました。

今回で2度目ですが、会費の内から一人1千円ずつ「成蹊学園創立100周年記念事業」に寄付する事とし合計6万円を寄付させて頂きました。

来年2月10日(木)に第37回の会を開催致します。新たに参加ご希望の方は野口君(FAX 03-5301-5282)までご連絡下さい。

平成卒の方々の参加が増えて来ました、若い方々の参加を歓迎

迎致します。

池原正夫(政経・36年)

長野成蹊会

学園卒業生で長野県在住者を対象に、年1回開催されている

長野成蹊会が本年17回目を迎え東信(上田市、東御市、佐久市、軽井沢町etc)地区が担当で次記の通り開催されました。

・実施日: H17年11月6日(日) PM12:30~3:00

・実施場所: 上田市東急イン、国際クリスタルホール

当日が、祝事、行楽、地域行事等と重なった為、出席者が23名と常時に比若干少数で残念でしたが、飯田、伊那からのご参席もありました。又、成蹊会からは、齋藤常務理事のご臨席を頂きました。

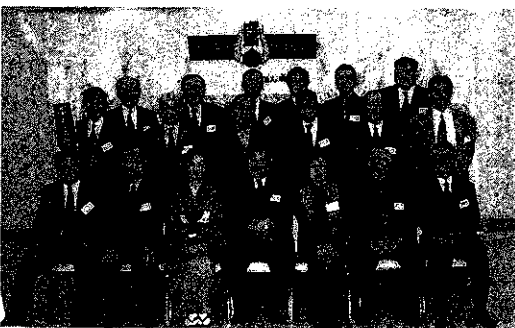
若林正俊(高S28年卒) 長野成蹊会会長、高木桂二(プレメS32年卒) 東信代表幹事よりのご挨拶に始まり、齋藤常務理事より、学園の近況、これからの行

事予定、学園近辺の写真の回覧

等があり、会場のムードは全員各々の在成蹊時代のそれになりました。諏訪の宮坂公美さん(文S59年卒)より贈呈戴いた銘酒を江波戸靖二大先輩(旧高S24年卒)の首頭で元氣な乾杯が成され、1:00PM会食時間に入りました。

次いで参加者一人一人の近況及び学園時代の想い出等のスピーチが続ぎ、和氣調議のうち、アツと云う間の2時間が経過致しました。

最後に西村俊則さん(政経S39年卒)、山口清史さん(経S47年卒)がソングリーダーとなり校歌の大合唱をして閉会となりました。



地元上田の武田幸一さん(工業化学S50年卒)から、武田さんが経営されている、長野県でも、最老舗である武田味噌醸造(株)製の名品を御土産に戴き次回諏訪での再会を約して、3:10PM解散致しました。

武重寺昌(工・平14)

岡山成蹊会

夏本番の七月二三日、家族旅行も兼ね平成一七年度岡山成蹊会総会を九家族・十八名と本部長高橋事務局長をお招きし、瀬戸内海に浮かぶ直島で開催しました。直島はベネッセ(旧福武書店)が六五万坪の広大な土地を所有し、ここに現代アートとホテルを融合した「ベネッセハウス」と、昨年オープンした「地中美術館」が有ります。建物は共に建築家「安藤忠雄」氏の設計で見事に島と調和しています。

まず「地中美術館」でクロード・モネの五枚の「睡蓮」等を鑑賞し、「シーサイドパーク」



に場所を移し、高橋事務局長より学園の近況をお伺いし、総会の後、冷たいビールとパーベキューを満喫しました。午後のひとは各家族思い思いに屋外アートの点検する海岸を散策したり、「ベネッセハウス」に足を運んだりして、瀬戸内海の小島ならではのゆつくりとした時間をすごしました。

成蹊会の皆様も機会があれば是非一度、美しい瀬戸内海の小島、直島にお運び下さい。

松田洋一(法・56年)

中国支部総会・ 広島成蹊会

平成17年9月3日(土)午後5時30分から、広島駅前福屋11Fパンケトルーム「クレイエ」にて開催いたしました。山口より3名・岡山より4名・広島は23名の参加を得ました。

(社)成蹊会高橋章建事務局長から成蹊学園の現状報告に続き、奥田広島成蹊会会長・尾崎岡山成蹊会会長・上田山口成蹊会会長から各地区の状況報告をいただき、同窓会への参加者が少なく、理事の数を増やし参加人数を多くするなど、各種手法を取り入れての運営報告でした。

(社)成蹊会中国支部総会において、鷹谷会長が病氣療養されておられるため、矢野岳議長代理により次の件が決議されました。鷹谷会長が辞任され、新会長として奥田広島成蹊会会長が就任。成蹊学園100周年事業について中国支部として五万円寄付する。引き続き広島成蹊

会の総会では、奥田会長の支部長就任により、三宅広島成蹊会会長が承認され、今後新幹事選考することになりました。広島県知事藤田雄山顧問の乾杯の音頭で、懇親会が始まり、広島勤務で旧友と久しぶりに会えた会員、学生時代の思い出話など、一人一人がマイクで話をして、和気藹々と定刻を40分も延長し終了致しました。今後とも一人でも多くの会員の参加を期待します。

三宅敏文(経・47年)

九州支部総会

初秋の10月15日18時半より平成17年九州支部総会を宮崎市のレストランらんぶ亭で開催しました。(らんぶ亭・宮崎成蹊会事務局 昭和40年政経14回卒業藤澤輝征氏経営)

九州支部は2000年に創立50周年を迎え、九州各県の地域成蹊会専用旗の記念作成を機に、2001年以降、従来の開催地の福岡市と九州各県を交互とす



ることにいたしました。本年は宮崎県開催で本部より齋藤常務理事のご出席を賜り、宮崎という地域にも係わらず20名を超える参加者が有りました。

常務理事よりの最近の学園紹介で総会が始まりましたが、従来と異なり場所が先輩経営のレストランということで、美味しい料理、旨い麦酒、そして九州支部恒例の会員各自の興味深い? 自己紹介で例年ない盛会となりました。続く二次会では殆どの参加者がホテル泊ということも手伝い、マイクを持つ手にも力が入り会員相互の親睦が宮崎の夜が更けると比例して深まったように思いました。

最後になりましたが、今回は

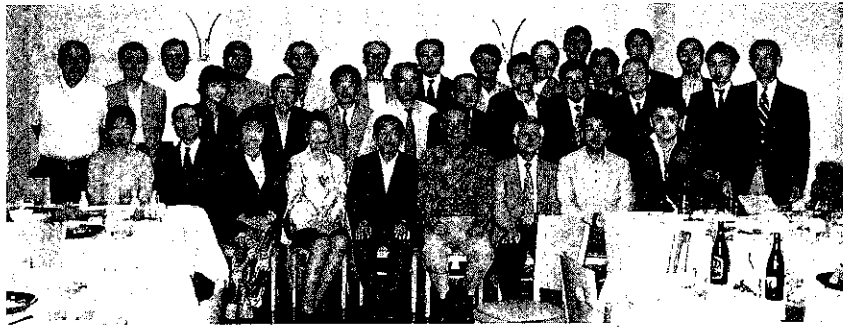
18年10月に福岡市開催を予定しております。現下株価上昇ほどに生活実感が伴わない声を聴きますが、総会へ参加することで商売の機会を得ることもありませんが、ストレス社会真つ只中であって、会員諸氏との武蔵野成蹊の想い出話により、精神的に力をもらい元気になることの方が多きようです。是非一度ご参加下さいますようお願い致します。

安永啓一(工・51年)

佐賀成蹊会

去る5月28日(土)佐賀では恒例の4大学コンペ(武蔵は不参加)が天山CCにて開催されました。参加者17名で絶好の天気にも恵まれ、初夏の陽射しを浴びながら和気藹々とプレーを楽しみました。

夜は佐賀駅前のワシントンホテルにて総会。成蹊会からは今回最後となる国府寺常務理事をお招きし、また福岡からは事務局の安永啓一さん、高山和彦さ



んが参加され場を盛り上げていただきました。また、今回は佐賀成蹊会始まつて以来の女性松本倫子さんが参加、今後の会運営に希望を持った次第です。

事務局からは今年の福岡成蹊会ヒアパーティ(8/6開催)の予定や九州支部総会の案内などがあり、最後に10月の佐賀市の市町村合併で立候補予定者の

江頭弘美さんが篤く気持ちを語られました。同窓の方々も各界でご活躍されていますが、ここ佐賀でも政治の分野でぜひ当選されてご活躍を期待したいものです。

国府寺常務理事は今回をもって退任されることですが、10月には九州支部総会が予定されており、会長以下幹部の方が九州に来られるとのことです。この機会に各地の成蹊会の活動の紹介や意見交換を行い、今後の地方成蹊会のあり方などを探っていきたいと思っております。

最後になりましたが国府寺常務理事の長い間のご苦勞に感謝いたしますとともに、今後も健康には十分留意されご活躍されますよう心より祈念いたします。

永倉理一郎(経・55年)

**「同窓のつどい」に
ご寄稿ください**

五百字(写真付の場合)
八百字(写真無しの場合)
締切 いつでも結構です。

予 告

■ 第八十三回枯林忌追悼会

とき 平成18年2月18日(土)
ところ

1 墓参(12時30分)

中村春二先生墓地

(巢鴨染井墓地一種イ九号二側)

2 追悼会(13時)

三菱スポーツセンター

かいひ 2,000円(昼食代)

さんか 申し込みはがきで成蹊会へ

■ 大学卒業10周年記念同窓会

平成8年卒業

(工) 31回 文 28回 経・法 27回

平成18年3月4日(土)

(於) 成蹊大学10号館12階

■ 大学卒業三十周年記念同窓会

(工) 11回 文 8回 経・法 7回

平成18年5月20日(土)

(於) 三菱開東閣

第20回 信州寮歌祭

第20回を迎える記念すべき信州寮歌

祭が平成17年6月11日(土) 正午より午後4時まで、ヒマラヤ杉の老樹に囲まれ、往時の面影を色濃く残す旧制松本高等学校講堂で、参加校29校・総人員230名余を集めて開かれた。梅雨の時期だが、今年は天が老齢の参加者を労ってか好天に恵まれた。そして、開会のセレモニーの中で、実行委員長より、参加者の高齢化が進む中で、現在



の勢いを慮って25回まで継続することが宣言されたことは印象的であった。

成蹊高校からは常連者に、久しぶりの野本・山本(亨)両氏、はじめての

瀧成蹊会会長の参加があり、更に寮歌愛好会から橋爪・植木両女史の応援があつて参加校中5番目となる総勢11名の華やかな寮歌祭を楽しむことができた。そして、11番目に登壇し、今年も観衆に好評を得ている「土の育くむ」で始まる校歌を1番から3番までを全員で斉唱し、会場からも多くの唱和をえることができた。このような表舞台を背後から支えていただいたのは、本年から信州白線会の副委員長を委嘱され当日乾杯の音頭を取られた谷喬(21回理甲)さんに負うところが多い。改めて深甚なる謝意を表したい。

来年の第21回は平成18年6月10日(土)を予定している。奇しくも、当学園で長年月に亘り教鞭をとられた

「上条信山(周一)先生の生誕100周年」に当たるので、遺作の多くが寄贈されている松本美術館では特別展を企画している。信州寮歌祭と合わせて松本に来られることをお勧めする。

井川舜喬(政経・29年)

第37回 埼玉寮歌祭

埼玉白線会(会長・湯川清弘氏・富

山高校卒・元新潟県警本部長)主催の第37回埼玉寮歌祭は前夜の梅雨前線による豪雨が止んだ平成17年7月10日(日)、さいたま市大宮区の氷川神社参道に近い「清水園」で開催された。

成蹊からは、昨年から野本一夫兄(旧高19回理甲)が実行委員を勤め、今年も埼玉白線会のシンボルの縁広の麦藁帽子を被って世話役をされた。

今年初めて参加申込を郵便振替による参加費前納制としたこともあつてか、参加者は前回より約百名少なかったが、それでも、地元浦和を始め39校の約450名が5時間余の寮歌祭を楽



しんだ。

成蹊からの参加も常連の故障の為

昨年より3名減、赤石(旧高25年)・島尾(旧高20年)・野本(旧高20年)・半田(旧高20年)の4名だった。21番として登壇、赤石の発声で校歌1〜3番を高唱したが、成蹊の校歌が今月の白線ムジカの録音歌に含まれているようで、関係友誼校の多数の応援を頂いた。来年は平成18年7月2日(日)に開催の予定である。

島尾和男(旧高・20年)

第39回 横浜寮歌祭

第39回横浜寮歌祭は猛暑の続く8月

21日(日)第一部・第二部あわせて正午より5時20分まで、JR磯子駅近くには聳え立つ横浜プリンスホテル3階主宴会場「桜の間」に38校773名を集めて賑々しく開かれた。参加高グループ別に割り当てられた丸テーブルでは、酒食を楽しみながらのミニ同窓会に加えて、最近では参加者個人が愛好歌として選んだ寮歌を唱和して楽しむ

という光景も見られた。

来年で40回の節目を迎える寮歌祭の母体である横浜白線会内にも高齢の病による事務局長の交代や会場が西武グループであるという変化の波が押し寄せている。一方で、急病のためか当日ドタキャンされる方が例年より多くなり、昨年より参加者が約80人減という不安材料も芽生えている。しかし、本年は例年と変わらない体制を保ちながら盛大な横浜寮歌祭が迎えられたこと



は幸運であった。

こうした状況の中で、成蹊高は18名の参加で、昨年比3名の増員となったことは大変喜ばしいことである。増加の主な要因は新制高出身者の新たな参加である。他の出場校からは「成蹊には継承校があり、しかも同寮会全体として先輩・後輩の絆が長年に亘り固く保たれているという多くの加盟校にはまねのできない校風がある」という羨望の声も聞かれ誇らしく思っている。

さて、正面に設えられた演壇に登った18名は第一部では会場で高い評価を受けている「土の育くむ」で始まる校歌の1番から3番まで斉唱した。演壇の後部には成蹊高有志が先刻に応援に出向いた成城高有志による返礼参加もあり、一方で、会場では多くの方々が校歌を唱和される光景を目の当たりにしてよき伝統を改めて感じさせられた。後半の第2部の演壇では「膚を濡らす」を斉唱して成蹊高にもすばらしい寮歌があることを披露した。

井川舜高（政経・29年）

東海学士会寮歌祭

東海学士会の寮歌祭は2002年の第40回を以て一旦幕を閉じたが、旧制高校に学んだ者の寮歌に対する思い入れはやはり断ちがたいものがあり、2005年8月20日（土）約500名が名古屋市内の国際ホテル大広間に集まり、「復活第1回」と銘打って華々しく、熱っぽく再開された。

当校もこれに呼応して由比健郎（20回理甲）、立松延廣（22回文甲）及び杉田精孝（23回文甲）の旧制高校卒業生3名に新制大学卒業生4名を合わせた7名が登壇し、少人数ながら声高らかに校歌「土の育くむ」と寮歌「膚を濡らす」を歌い上げた。後の懇親の場では、他校の寮歌に酔いながらも、来年も人数を増やして頑張ろうと誓い合った。

由比健郎（旧高・22年）

武蔵野寮歌祭

第15回嘯風武蔵野寮歌祭は成蹊が当番校となつて9月11日に開催された。寮歌祭をこの日に開くことは早くから決まっていたが、直前になつて予期せぬ割り込み発生。歴史に残る8月8日のまさかの解散劇で9月11日は「総選挙」と鉢合せする破目になつてしまった。さらにこの日は吉祥寺の八幡宮の



祭礼とも鉢合せし、駅を出て成蹊へ向かうバスが、おミコシのうしろについてしまい、遅々として進まずというハプニングもあった。

催しには成蹊から19人、うち旧制高校OB13人の参加があり主催校として遜色のない陣容を整え、周到な準備のもとに整然と進行することができたので、ここでは開会にあたって朗読された頌歌をご紹介しておきたい。成蹊人の作では?という印象を受けるが、これは四高OB大杉喜久男氏の創作である。

旧制高校香くして 五十五年の星霜は たまゆらの如過ぎ去りぬ 今武蔵野のまぼろげに 一期一会の秋至る
教学の危機迫るとき「桃李の門」を響する「心力歌」こそ頼もしや 光双手に歌うべし「膚を濡らす時の風」(中略)

井の頭の泉いや 牙えて 蒼穹の色いや 深し 友どち許多集いきて 友垣いよよ固きとき 万葉寮歌二千余の 啐啄の頌 高誦せん
武蔵野に逃げ水走り出で 征きし 戎衣の君の面影が 顕つ

赤石定次(旧高・25年)

第四十五回 日本寮歌祭に寄せて

平成十七年十月十日(祝)正午より、新宿NSビルイベントホールにて参加校五十六校と寮歌愛好会で総員八百四十名が一堂に会し例年にも増して盛大に寮歌祭が開催されました。この中成蹊は山手亨(旧高十六回文乙)以下十六名の参加でした。さて、日本寮歌祭も(一九六一年)開催以来四十五年周年を迎えることとなりましたので、この際寮歌祭の経緯や成蹊の参加等について略述しておきたいと思えます。

一九六一年第一回の寮歌祭が開催された当時呉泰次郎先生が民族音楽としての寮歌を日本に残そうと始められた日本寮歌祭に各旧制高等学校が賛同して参加したと言われています。当時は寮歌集がなかったが、(一九六三年)服部喜久雄氏が五四〇曲を収録し、出版した。その後二年余をかけていろいろ討議の結果二、五六二曲が選定された。日本で最初の寮歌は一高で明治二十五年に作られた『雪ふらばふれ』の寄宿寮歌であった。全寮歌としては明治

三十四年(一九〇一年)の、闇の中なる。で今年には百四年になります。寮歌は各高等学校寮生活の中で戦時中や複雑な社会、環境の中で自由と自治を歌っているのが特徴である。旧制高等学校は北から北海道帝国大学予科、弘前高等学校を始めハルピン高等学院、京城帝国大学予科、旅順工科大学予科、上海東亜同文書院、台北帝国大学予科、台北高等学校等海外の高等学校を加え、鹿児島第七高等学校まで五十六校と女性寮歌愛好会で毎年盛大に寮歌を高唱している。僅か三年の寮生活の中



で結ばれた各校の結束力は大変強固なものである。旧制高等学校寮歌祭が盛大に行われる中で最近発足した旧制中学校の東京校歌祭で歌われる校歌は殆どが戦時色から近代色に改められている。

成蹊高等学校が日本寮歌祭に参加したのは第五回から八回までと第十八回から今日までの三十三回である。第五回当初には日比谷公会堂で小学生から大先輩までが参加した大合唱団であった。その後の参加の詳細については、「日本寮歌祭及び各地寮歌祭の参加史」旧制成蹊高等学校日本寮歌参加史編纂委員会製作(2002・12)を参照されたい。成蹊学園史料館に保管されています。終わりに寮歌にこめられた旧制高等学校教育の源泉を永く継承したいと願う者です。

西村 洋(旧高・20年)

第12回ハッチンズ

日本寮歌祭を始めとする諸寮歌祭への成蹊の参加の世話役として尽力され



た「ハッチン」こと、故長谷川博和兄（旧高・20年）は、後事を同期の寮歌祭仲間（旧高・20年）に託して、平成6年7月6日、食道癌により早世されました。

以来、その仲間が、命日（またはそれに近い日）の午後3時、JR渋谷駅東口バス乗場に集合、都バスで麻布三の橋に到り、圓徳寺境内の墓前に香華を供え、献盃し、校歌を献唱した後、渋谷の旗亭で同君を偲ぶ一刻を過ごす

のが、「ハッチン忌」です。今年の参加者は9名でした。

7回忌からは長谷川兄にフルール慶の後事を託された山田卓彌兄（旧高・21年）も加わりましたが、平成14年10月2日、常連の青木龍太郎兄（旧高・20年）が肺癌のため鬼籍に入られたのは痛恨の極みでした。

近年は庭球部の仲間も加わり、宮崎俊吉兄（旧高・25年）は故人の愛したミュージカル「サウンドオブミュージック」中の「エーデルワイス」のメロディーを墓前に手向けてくれます。

また、事情あつて葬儀に不参だったことが気になっていたという、尋常科以来の同級生・金谷太郎兄も今年は加わり、後日、同君から「長年のかりが返せた思い」との葉書を頂きました。

写真は富井政英兄（旧高・20年）による平成17年7月6日の「ハッチン忌」の墓前での記念撮影です（右から金谷・山田・渋谷・西村・半田・宮崎・島尾・小林・富井）。杜甫の句「白頭搔更短渾欲不勝簪」を想い出しました。

島尾和男（旧高・20年）

大学各種証明書発行についてのお願い

- 2005年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が全面施行されました。これに伴い、成蹊大学では証明書発行に際し、個人情報保護の観点から本人確認の手続きを一部変更しました。本人の来校以外による証明書発行については、従来よりかなり時間がかかる場合がありますので、日程に余裕を持って申請してください。
- ※ 本人確認ができない場合は証明書を発行できません。
- 郵送先は日本国内に限ります。海外在住の方は、国内の代理人に受領していただくことになります。
- 証明書の申請方法については、成蹊大学ホームページをご覧ください。学務部履修課（0422-37-3553）までお問い合わせください。

http://www.seikei.ac.jp/university/gakumu/risyu/sotu_syoumei05.html

江田 隆氏 (高・38年)
 岡本 雅晴氏 (高・38年)
 小西 智之氏 (高・38年)
 篠岡 方長氏 (高・38年)
 菅原 孝氏 (高・38年)
 村上 芳雄氏 (小・32年)
 両角 慶久氏 (高・38年)

文藝春秋 2005年(平成17年) 6月号より



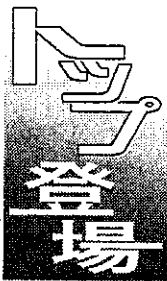
「上野の青い武蔵野の林」... 武蔵野放
 鳥の二重奏。昭和二十二年、中野
 公園の周囲は田舎。林も正に武蔵野の
 趣のままであった。小・中・大、一貫
 教育の中、我々は中・高で太鼓、部
 活に熱中。この頃、武蔵野の林は、都
 民の憩いの場として、また、武蔵野
 での夏の水泳練習の場として、多く
 の人々を魅了した。武蔵野の林は、今
 も多くの人々を魅了している。
 村上芳雄

「上野の青い武蔵野の林」... 武蔵野放
 鳥の二重奏。昭和二十二年、中野
 公園の周囲は田舎。林も正に武蔵野の
 趣のままであった。小・中・大、一貫
 教育の中、我々は中・高で太鼓、部
 活に熱中。この頃、武蔵野の林は、都
 民の憩いの場として、また、武蔵野
 での夏の水泳練習の場として、多く
 の人々を魅了した。武蔵野の林は、今
 も多くの人々を魅了している。
 村上芳雄

御室 健一郎氏 (政経・43年)

静岡新聞 2005年(平成17年) 6月23日付けより

浜松信用金庫(浜松市) 御室 健一郎 理事長
 みむろ けんいちろう



多様化する顧客ニーズ
 に迅速に対応し縦割り
 組織の弊害をなくすた
 め、二十八年ぶりに大
 規模な機構改革を実行し
 た。

誠実、攻めで存在感示す

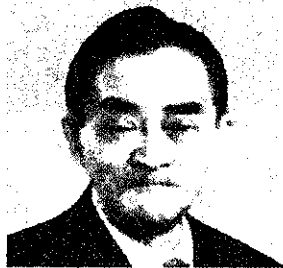
御室体制のキーワード
 は誠実さと攻めの姿勢。
 『いまさら誠実なんて』
 と言われるかもしれない
 が、組織が今一番問われ
 ていること。地域での存
 在感を増すためには攻め
 の姿勢でいきたい」と方
 針を示す。
 リスク管理システムの
 確立や人材育成のための
 積極投資を検討中。投信
 盤じりへりをしっかじや
 り。

や証券、保険などに特化
 した研修教育や外部人材
 登用も新たに行う。
 若手職員の海外研修や
 地域企業への派遣など、
 現場経験を踏ませる新施
 策も構想。「うちの職員
 は頑張っているが顧客へ
 の提案能力が弱い」と課
 題を掲げる。
 「三年くらいかけて基
 礎を固めたい」と、
 毎月必ず「心の古里」
 である北遠の山に入り、
 自分の考えと気持ちを通
 じ、自分自身を刷新して
 いくことを目指している。



【経歴】 浜松西高、成蹊大卒。1968年入庫、高
 林支店長や理事本店営業部長などを経て22日
 に理事長就任。60歳。佐久間町出身。

故 後藤 英一氏 (旧高・25年)



東京大学名誉教授の後藤英一(ごとう・えいち)さんは、コンピュータ開発の黎明(れいめい)期に日本独自の新技術を開発した研究者。一九五四年、コンピュータ

発明家を目指した学者

後藤 英一さん
(東大名誉教授)

を構成する基本的な素子「パラメトロン」を発明。国産メーカーが相次いで実用化し、産学連携の代表例となった。コンピュータはトランジスタが主役となり、パラメトロンは歴史の舞台からいったん消えたが、八〇年代半ばに超電導研究ブームが起きると、後藤さんは超電導素子を使ったパラメトロン開発プロジェクトを立ち

上げ、実用化に意欲を燃やした。後藤さんの部下と

「わしは学者でなく発明家だ」。これが口癖だった。発明家だった叔父に感化され、高校時代から特許を出願。パラメトロン

の発明も二十三歳の時だった。取得した特許は約百件にのぼる。高精度ブラウン管の発明者でもある。研究スタイルは独特。まずひらめきがあり、それを検証しようと専門書や論文を探す。「専門分野でもないのにアイデア

が次々と浮かび、それを装置として実現してみせたい」。後藤さんの部下として研究に取り組んだ筑波大学の佐々木建昭教授は、こう懐かしむ。

日本経済新聞夕刊 2005年(平成17年) 6月24日付けより

秋の風景



秋の風景 トンネル山



秋の風景 中・高竹林

古希から始めたチャリティー演奏会

13年前からピアノ奏者としてチャリティーコンサートを通じてきた土岐壽代さん(84)(港区南青山)が17日、なかのZERO大ホール(中野区中野)で最後のコンサートに臨む。古希を超えて踏み入れたチャリティーの世界。土岐さんは、「これまでお世話になった人たちに恩返しをして、有終の美を飾りたい」と意欲を見せる。

84歳 有終の舞台



コンサートに向けて、練習に追い込みをかける土岐さん

土岐さんがピアノを習い始めたのは、12歳のころ。結婚後も子育てしながら、子供のために童謡の伴奏をしたり、親しい仲間を集めて演奏会を開いたりしてきた。60歳のころに体調を崩してから、一時ピアノから

ピアノ奏者 土岐さん 17日、中野で

遠ざかったが、70歳のころ、知人からコンサートのピアノ奏者の一人として共演を依頼された。

「素人だから、お金を頂くならチャリティーにしよう」との身内のアドバイスを受け入れ、1992年春、初めてコンサートに出演した。これまで毎回、コンサートの後には読売光と愛の事業団に寄付し続けており、総額380万円に上る。

今も週に数回、自宅のピアノで練習を続け、同世代の友人からは、「年々、演奏が上手になっている。自分たちの目標になる」などと励まされる。だが、近年のコンサートでは、半音間違えるなど細かいミスが目立つようになったほか、最近では、翌朝に練習の疲労感が残るようになったり、老いを自覚するようになったという。

しながら、「周囲から『もうよしなさい』と言われる前に、自分で区切りをつけた方がよい」と考え、今回を最後にすることを決めたという。

今回の演奏曲は、これまでと同様、モーツァルトのピアノ協奏曲「戴冠式」と、メンデルスゾーンのピアノ協奏曲第2番の2曲。いずれもオーケストラの伴奏に合わせて披露する。

壽代さんは、「これから、老人ホームなどを慰問してピアノを演奏するなどして、同世代のお年寄りを励ましたい」と話している。午後6時半開演。全席自由で3500円。問い合わせは、日本ニューフィルハーモニー管弦楽団代表の上野さん(☎042・3324・0040)へ。

夫の矩通さん(90)と相談

土岐 壽代氏(女・13年)

読売新聞 2006年(平成17年)10月2日付けより

元日本山岳会副会長
わたなべ ひょうりき
渡邊 兵力さん

日本山岳会チヨモランマ登山隊で隊長を務めた渡邊さん
(1980年3月、チヨモランマ・ベースキャンプで)



90歳を目前にした昨年4月、日本山岳会の講演会で「登山は本人の責任の問題だ。昨今、遭難をリーダーや他の人の責任にするような問題が起きている」と最近の山登りにチクリ、兵力さん健在と思わせたが、もうあの毒舌も聞けなくなってしまう。

生涯を通してのクライマーだった。東京・旧制成蹊高校時代の1933年12月、19歳で学友の高木正孝さんと谷川岳一の倉沢巖冬季初登攀を成し遂げた。

故 渡邊 兵力氏 (旧高・10年)

読売新聞 夕刊

2006年 (平成17年) 11月1日付けより

自由とアルピニズムと

(9月6日、肝臓がんで死去、91歳)

い。同峰の初登頂者となった藤本慶光さん(69)は、そのころも、「登山に対する理論構成がしっかりしていた」という。特に、自由と規律にはつねに、第2キャンプでポーターと隊員のもめ事が起こったとき、第1キャンプの兵力さんから、「人の金で、人の国で、山に登っていることを忘れるな」とのメモが届いたことと忘れない、という。

総隊長の76年の日本山岳会ナンダ・テレビ遠征隊では、健康上の問題で現地に行けなかったが、80年のチヨモランマ登山隊では、登山隊長として参加、チヨモランマ北稜からの登頂と北壁からの世界初登攀をもたらした。昨年の講演会では、ヒマラヤの話のほか、高校時代に仲間と一緒に建設、70年余たって、今なお当時のままの姿を残す谷川・芝倉沢の山小屋、虹芝寮の話に弾んだ。

兵力さんが63歳の時にザイルを組んで谷川の巖壁を登ったという、成蹊大の学生で80年のチヨモランマ登山隊に参加した磯野剛太さん(51)は、「家庭を大切に、奥さんにも尽くした。それでいて、(より厳しさを求める)アルピニズムの感性を持った自由人。幸せな人生を送ったと思います」という。

(東京本社元運動部長 迫田泰敏)

●学園史料館に貴重な手持ち資料のご寄贈を

お手持ちの品(写真、教科書、教材、文集、賞状、各種ユニフォームなど)でご寄贈いただけるものがありましたら、ご連絡をお願いします。写真は複写の後お返しします。書き込みや汚損も歴史を物語る証しです。現存のままでご寄贈いただければと存じます。来る2012年に迎える学園創立100周年に向けて、今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

成蹊学園 学園史料館

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

(電話) 0422-37-3517 (Fax) 0422-37-3704

Eメール: koho@jim.seikei.ac.jp

会員動静

◎ 本会員動静は会員総会（平成17年6月開催）出席状の近況欄にご記入いただいたものです。◎

安達 彰（高42年）防衛庁

十四年振りの連隊勤務です。連隊は今や多様な役割を担い、高・低強度いづれにも対応できるような訓練が続きます。最近司令部勤務が長かった私にとって、第一線連隊の精強さには目を見張ります。私も心・体が普通（歩兵科）に戻りました。

安達 聡（法63年）三菱UFJ証券

近所に引越し、会社が合併しました。

赤石 定次（政経27年）

5月発刊の旧制高校80周年記念誌中の拙文の結びを左記にしたいので、これを加えて214ページを今一度お読みいただければ幸いです。

「戦後ようやく立直りかけた七年制が六三三制という大津波に押し流されてしまったことは何とも残念の一語に尽きる。」

赤星 國夫（旧高13年）

年令相応にくたびれていますがボケ防止のために身体頭を積極的に動かし、心遣いを大切にしよう努力しています。

新居 嗣朗（高28年）日比谷松本樓

皆様御健勝のことと拝察いたします。小生四十年余り勤めた育英奨学委員会の委員および四年に亘る同委員長の職を、今度退任いたしました。長年の御協力に感謝いたすと共に、今後益々の同事業の発展を心より祈り上げる次第です。

井上敬次郎（政経39年）

4月最初の日曜日の桜祭に参加しませんか。合唱経験者の方へ、OBコーラス（OBオーケストラと共演）へのご参加をお勧めします。（一月から月二回の練習）事務局井上までご連絡下さい。

0244-5833-9363

井上 宏一（経45年）エクセル

本年3月に愛犬が亡くなり6月には長男が結婚。いよいよ夫婦二人きりの生活になりました。定年迄あと3年。悠悠自適とはいかないまでも、ノンビリと生活したいと願っています。

井上 烈（旧高16年）

今度旧高校八〇年史発刊に当り、小生にも原稿の機会を与えて下さり感謝

しております。完成品届き校友諸氏の文なつかしく、特に大先輩丹治氏は旅行部の大先輩でありうれしく拝読、後輩諸兄の文も卒業後の事知り「字」を感受。

井上 哲彦（政経32年）三鷹市シルバー人材センター

銃声一発 日中戦争

実は二発だ 八路が撃った

双方の中間点に 分け入って

背中合わせに 銃口向けた

イー・アル・サン・で引き金引いた

ドン銃声一発 弾丸二発

兵士の一人が若き日の劉少奇悪智慧の天才が火を付けた 鉄水

井口 治夫（高57年）名古屋大学

今夏よりフルブライト研究員としてハーバード大学にて一年間研究生活を過ごします。

伊藤 丈夫（政経28年）

相変わらず病と仲良くしながら元気に毎日を送って居ります。最近腰痛で歩行がづらくなり、以前家内とよく出掛けていた低山歩きも出来なくなりました。

飯地 稔 (政経31年)

平成十二年三月をもって退職、現在は、無職

池内 久孝 (経55年) アジア実業開発

「人はどうして旅行に行きたいのだろうか。」近年のインターネットの普及による顧客の旅行者離れや市場トレンドの次から次への変化で苦戦の毎日です。中国ビジネス・翻訳・飲食店経営と多角経営を余儀なくされ頑張っています。

池田 光朗 (政経42年) 農業

今年三月に長野県に転居し、農業の真似ごとを始めました。

池原 正夫 (政経36年) 山武

山武と関連会社で緊急通報システムサービスを主業務とする、安全センター(株)の二社で営業担当顧問として勤務しております。お陰様で元気にしております。

石川 博行 (経53年) 尾瀬・石川会計事務所

今年で五十才になるが、下の娘はまだ小学四年なので、あと、二十年は働くつもりである。頭だけはボケないよ

うにしようと思っているが、体の健康も維持しなければならぬ。

とはいえ、最近運動不足である。

石坂 泰彦 (政経27年) 六興電気

元気にしております。成蹊学園が自由で個性のある人物を育てる学園として発展することを望みます。

石平 剛造 (政経43年) 森六

元気にしております。60才を過ぎても海外統括室長として中国東南アジアイストラエル等に出張して頑張っています。青山のツインビルに居ますのでお寄ください。プライベートでは座間男声合唱団の指揮者として活動をしています。

磯村隆太郎 (文・平7年) 武蔵野女子学院中学校

五月に大学に行き伝統ある大学一号館が解体されてしまったことを知りました。大変驚くとともに残念に思っています。これで美しいレンガ校舎は本館だけとなりましたが、本館だけは今のままの姿で後世に残すことを強く希望致します。

今井 淳 (旧高23年)

五月刊の旧高八十周年記念誌に私も一文を寄せたが先輩後輩諸氏の体験を

拝読し、欠落した記憶を補完した今まで知らなかった事も知り得た。編集委員諸氏の御苦労に感謝。

是非多くの人が読んで成蹊の良き伝統を継いでほしい。

今泉 正夫 (高40年) 日本アドバンス トシステム

四年前から合唱を始めましたが、発声の上達をめざして週一回個人ボイストレーニングを受け、身体を柔軟にするため毎朝テレビ体操を実践しています。小学校時代から体操が苦手だった私には考えられないことです。

岩崎洋一郎 (旧高25年)

日本大学大学院でグローバルビジネス交渉術の講師をやっています。若い人々と交流するのは、刺激的で楽しいものです。

卓球やアクアビックスで身体を動かしています。ジャズ・ヴォーカルもレッスンしています。

鶴飼 正明 (高52年)

ラグビー復活に喜び。一つ一つ成蹊らしい伝統の復活と、人に好かれ、人の嫌がる事を進んで出来る人間形成を期待。成蹊学園の源流に中村春二先生が教えていた駒澤大学(旧・曹洞宗学

問所↓座禪↓疑念)の禅の日本の精神性と三・菱・精神の融合思想がある事をそろそろ認知しても良い時期では?

植原 映子 (文48年) 伊勢崎市立伊勢崎高等学校

故倉石五郎先生の「大学に寄付しなさい」との教えを30年後の今日、ようやく守れたことを嬉しく思います。末の子が高校生になった時、フルタイムで一年契約の高校教師に。5年間で5回転勤し今年伊勢崎高校にお世話になっております。

梅林 正直 (高27年)

北タイ山岳地帯での植樹ボランティア活動も九年目を迎え、一月下旬〜四月下旬、六月下旬〜九月下旬の年二回合計半年は訪タイしております。七月上旬に「七夕植樹祭とナーンの梅の植樹のツアー」を日本から実施しました。

小澤 利男 (旧高24年)

先日、旧制高校八十周年記念式典でけやき並木の奥のチョコレート色の本館を見た時は、大変嬉しく感じました。ヒマラヤ杉も昔のままでした。医者になつて五十年、まだ元気に老年医学の研究と啓発活動に従事しています。

小野清四郎 (旧高24年) 小野内科診療所

このたび、旧高校創立八十周年記念誌にて、諸先輩の寄稿を拝読し、我々一年しか在籍しなかつた者にとつても、中村春三先生の天下に冠たる建学の精神に則り、すばらしい人間教育がなされたことを如実に知る事ができました。感謝。

小野 文三 (政経36年) 著述業

日本カウンセラー協会認定カウンセラー二十八年間務めております。

成蹊学園「心の力」は東洋思想のエッセンス。

深層心理に在り役立っています。

多々良会長は平成三年から現在、皇宮警察本部カウンセラーも拝受しています。

小野寺久穂 (法・平3年) IBC岩手放送

学生時代を思い出しながら、日韓・日中関係など、アジアの問題に注視しています。安定した国際関係が保たれることを願っています。

宇野ゼミのOB会が、生涯学習の環境で研究会を開催しています。できる限り参加したいです。

緒方四十郎 (旧高22年)

去る一日、「遙かなる昭和」を朝日新聞社より刊行し、戦前、戦中、戦後直後の成蹊学園、特に小学校滑川学級の思い出を綴りました。

大幸 年喜 (政経28年)

関西に永住しているので毎年の桜祭とその日のクラス会に出るのが特に楽しみです。

海外旅行を毎年二回位行くの趣味にしていますが学生時代にやったコンサートトラクトブリッジを五十年ぶりに再開しボケ防止にしています。

大関 勝人 (政経35年)

四十四年間勤務した三菱マテリアル・ダイヤソルトを退職致しました。これから先は、湘南海岸に近い海老名市に住んでいますので、大学ヨット部OBとして少しはお役に立ちたいと念願しています。

大谷 久行 (工48年) ビー・オール・アイ

事務所を五年ぶりに移転しました。代々木と新宿の間の便利な所です。飲み屋も多く是非お立ち下さい。また成蹊桜祭は毎年好評で人気イベントにす

っかりになりました。新しいアイデアも頂ければ幸いです。

大成 幸枝 (文51年) (旧姓松下) 大成整形外科クリニック

今年、ゼミの担当教授であつた山口欣次先生が亡くなられた。優しい目差の中に社会に対する厳しい目を持っていらした。私は必死で先生の云わんとすることを探っていた。『真実とは何か』、今も探り続けている。合点。

大橋 祥男 (政経36年)

数社の顧問や大学の臨時講師等をしてしながら、元気にしています。ある大学の知的財産の仕事がこれから手伝う予定で、元氣な間に社会に貢献して行きたいと思つています。

大浜敬之助 (政経31年) みずす恒産

中学のクラスメートの悪童共の何人かが彼岸に旅立つ年令になりましたが、おかげ様で元気で居ります。ゴルフでは十八ホール完走しています(内容は報告の限りではありませんが...)とにかく歩くことを至上命題にして居ります。

大村匡一郎 (旧高13年)

「ニー吉(阪口玄章先生)を偲

ぶ会、人数は減りましたが、各月継続中。宮野、竹内、谷岡未亡人、小倉、落合、小林、藤村夫妻と私共夫婦他愛ない談笑に無頼のしあわせを感じています。

大山 卓治 (経56年) 協同広告

大学卒業から24年、そのほとんどは成蹊から距離をおいた人生でした。二年前から成蹊会広報委員を拝命し、それを契機として経済学部、旧廣野ゼミと次々と同窓会幹事の仕事が増えました。学園の未来のために微力を尽くす所存です。

岡田 正昭 (政経41年) ジェイエムオフィス

(株)ジェイエムオフィスは宮城県のベンチャー支援施設である「21世紀プラザ研究センター」に入居している。3階建の施設環境に恵まれている。63歳になつても夢をもち青春街道まっしぐらに歩いて、いいんじゃない。夢だよ夢。

奥田 淳 (工51年) 三菱重工業

技術開発に携わる職務上、最近都内の大学を、ほうほう訪問します。都心の喧騒に無く、さりとて田園地帯まで遠のかぬ母校のポジションを、あらためて好感する今日このごろです。

奥野 眞敏 (政経39年)

地球環境のポイントオプノリター
ンは、科学者一〇〇人の総意として、
二〇二六年と設定されました。それま
で生きて本当にどうなるか見極めたい
と思っております。

落合 加奈 (文57年) 外務省

ロンドン5年半、マニラ3年の勤務
を終え夏に帰国予定です。次の桜祭に
は、久しぶりに成蹊に行ってみたく
考えています。

香椎健太郎 (政経38年)

十年来膠原病と闘って来た妻が他界
し寂しい生活になりました。元気が出
る様になったら又遊んで下さい。

加藤 清光 (旧高15年) 加藤医院

加藤医院にて医療に従事。狛江韓国
語同好会を通じて韓国柳韓大学と交流。
狛江コーラスガーデン合唱団メンバー
として2005年6月25日韓国富川市
合唱祭に参加。日韓親善に尽して居ま
す。

加藤 聰 (政経31年)

二人合せて百四七才。元気で社交ダ

ンスを楽しんでいます。

加藤善二郎 (政経35年)

札幌へ転居して7年になりました。
相変わらず道内を歩き回っています。気
象のせいでも、標高千メートル前後の山でも高
山植物が見事に咲き乱れています。拙
宅は新札幌です。ご来道の折はお立寄
り下さい。

算 文夫 (旧高15年)

無事に生活をしておりますが、外出
困難で行先に制約を受ける状況です。

金井 徹 (政経33年)

まわりの人達の中で胃を三分の一切
ったとか、ガンで治療中とかいう友人
が増えて来ています。自分も腸のポリ
ープの検査を三年もやっていないので
医者から催促されていますのでそろそ
ろ行かなくてはと思っております。

狩野洋太郎 (旧高17年) アジア貿易サー
ビス

先般出版社から頼まれた「日本の船
五十年史話」を執筆すべく、一ヶ月余の
間努力してみたが、八十才を過ぎた老
人には無理なことをさとり断念しまし
た。やはり人の書いた本を読みながら
クルーズでもしているのが似合です。

河村 浩朗 (法46年) 周防ビル管理

学生の頃から文学に固執し続けて来
た私だが、成果の程は陽の目を見ず結
果を出すに到っていない。そんな私が
文学に目覚めた季節を思う。
梅雨時樹々が雨に煙る景色を飽かず
眺めていた記憶が甦り、何故か懐かし
い。

菅野 建雄 (政経39年)

会誌100号の表紙絵を描かせて頂
きました。好評でホッとしました。定
年後三年強継続勤務しました。完全に
離職して一年半過ぎました。朝、海岸
までウォーキング。食事が美味しいお
陰で元気です。運動はテニス・水泳を
楽しんでいます。

木下 浩 (工49年) エムイーシージ
ステム

昨年中国本土へ派遣していた社員が
交通事故に遭い、現在加害者との交渉
を始めた所です。海外出張は、数多く
経験しましたが、事故の予感も無かつ
た自己の無事に、改めて感謝しており
ます。仕事はハードになりました。

岸 孝 (旧高17年) (旧姓黄金井)

お蔭様にて毎日忙しく過して居りま

す。日本スコットランド協会の記録係
としてビデオ撮影編集等お手伝致して
います。

北里 洋 (高42年) 海洋研究開発機
構

「ちぎゅう」という深海底を深く掘る
ことが出来る船を使って、地球と生命
の歴史をひもとく研究を行っておりま
す。世知辛い世の中にあつて夢を持つ
て仕事ができることをうれしく思つて
おります。

北畠 裕子 (女16年)

自由の裏づけには責任が有り権利の
裏づけには義務が有り益を得るには努
力が必要ですね。今の世の中何か責任
も義理もなく拝金主義になっているの
ではないかしら。良くも悪くもお金と
いうものは怖いものです。年金を戴
ける私、感謝しています。

北見 政雄 (政経39年)

在日外国人に日本語を教えるボラン
ティアに加盟し、毎月一回日本の伝統
文化について教えています。水彩画教
室に通って三年になり、展示会に出品
するようになりました。定年後の人生
を思いっきり楽しんでいます。

久我 大郎 (旧高17年)

一九三三年パリ生れ。一九二六年モネの没年満三歳で八十六歳のモネと手をつないだスケッチ (母久我田鶴子描) はモネ没後パリ、マルモッタン美術館に寄附されたが第二次大戦後名画「印象「日の出」と共に盗難に逢い程なく発見され二〇〇四年徳島、島根、松本巡回、八十一歳にして初見。

久保 恵一 (旧高23年)

年賀欠札をご容赦願います。

外保田雅美 (法56年) 東日本銀行

昨年四月より審査部勤務となりました。当行にも成蹊出身の学生が増え頼もしいかぎりです。

釘宮 徹郎 (旧高24年) 日豊土地建物

昭和19年尋常科入学、20年春にはクラスは二本松へ集団疎開、私は事情あり参加しませんでした。20年秋には授業は再開されましたが、苦難の連続でした。戦後60年を経て、価値観も一八〇度変り、感無量の老後を送っております。

隈部 清一 (政経38年)

定年退職してから5年余。元気で頑張っています。

たまに遊びに来る孫達と付きあつて年齢を忘れていきます。

黒川 和雄 (旧高17年)

毎年、四月の桜祭に参加し、年々施設・内容の充実強化を知り嬉しく思っている。(84才) トラスコンで昭九会 (小卒のクラス会) やVZ会 (高卒後獣医畜産大学へ進学) に出席。去る五月十五日 (日) には、旧高校創立80周年祝に出向き、老兵相集い盛会。成蹊万才!!

黒崎 昭二 (旧高22年)

イツノマニカキジュラコエマシタ。トシナリニアシコシガヨワツテキマシタ。テニスラマダヤツテマスガ、フットワークガワルクナリ、ナサケナイ。ネンパイニナルニシタガイ、セイケイニアイチヤクヲオエマス。

桑田 成美 (経45年)

第二の職場お茶の水杏雲堂病院に勤務し早六年経ちました。先日は今年健診センターに転職した同期の鶴見氏が

訪ねてきました。二人で集まると話題になる健康面のお役に立ちたいと話し、研鑽に勤しんでいます。

桑田 直 (政経40年) 神戸ダイヤモンドテナンス

三月中旬に五年間住んだ西宮市から神戸市内に転居しました。

近くには白鶴美術館、香雪美術館等があり閑静なところです。通算13回目の転居で家内とも今回で引越は最後と意見が一致しました。

小池 五郎 (旧高14年) 二葉栄養専門学校

旧制高80周年誌で、若い方々(といっても70才代)の達文を沢山読ませていただき昭和14年卒業後10年ほどの間の母校の様子を報らされました。新鮮な感じがしたんですけど、改めて新鮮だなんておかしかったかなあ。

小出 康博 (政経37年) 三友商事

4月に二十年住んだ浦安から新しい街海浜幕張に転居しました。部屋から海をはさんで富士山が眺められ景色は最高ですが、自動販売機一つない新しい街にまだとまどっています。

小島 明 (政経30年)

五月十五日旧制成蹊高校創立八十周年記念式典出席。大昔尋常科の頃あこがれの目で眺めていた諸先輩にお逢い出来嬉しい思いでした。席中どちらを向いても大先輩ばかり。歴史と伝統の重さを一入感しました。

小林 弘明 (政経35年)

今年古稀を迎えます。若いつもりで頑張っているも周囲からは老人扱いを受けます。娘四人に孫六人と爺々婆々仲良くやっています。長野成蹊会の事務局をお預りしております。長野県にご転勤の方はご一報を下さい。

小山 倫子 (法54年) (旧姓本田) 小山司法書士事務所

司法制度改革、相次ぐ法改正の荒波に揉まれ乍ら日々の業務に励んでいます。母校の法科大学院は指導教授陣、設備、奨学金制度等いずれも最高水準との評判を聞き及び、第一期生全員の新司法試験合格を願ってやみません。

国府寺敬二 (政経37年)

中村清一ゼミ十一回生の懇親旅行は今井、岩田、遠藤、大竹、塩谷、杉浦山岸の諸兄を含む8名が参加。杉浦兄

のご好意で湯河原の保養所に宿泊。明るく輝く太陽、湯量豊富な温泉、海の幸の美味しさはどれも格別。お互いに昔の地を出して2年ぶりの旧交をあたためました。

紺野 眞一 (経59年) ジブラルタ生命 保険

2月の同期生の結婚式をきっかけにして、3月に篠原ゼミの同期会を行うことができました。幹事をしてくれた石垣君に感謝です。皆さんまた集まりましょう！

後藤 直記 (経53年) 曙ブレーキ工業

6年半におよんだ単身赴任生活に別れを告げ、今年5月から日本橋勤務となり自宅から通っています。久しぶりの通勤ラッシュにヘトヘトになりながらも、家族一緒の生活に満足感を実感している今日この頃です。

後藤 均 (高51年) エゴンセンター インターナショナル

東京創元社から本を出版しました。ぜひ御一読下さい。本名で出しております。

神津 裕 (高27年)

二千年に東急グループを辞し、それまでの日曜作曲家が本業となりました。

ここ数年間、永らくお世話になって来た日本現代音楽協会の理事となり、会計の手伝いをしております。

妻美津子 (高校5回卒) も元氣です。
佐々木 庸 (小39年) 日本聖公会大森 聖アグネス教会

昨年は小学校の同窓生熊谷博子さん(映像ジャーナリスト)、本田(木内)成子さんと第17回東京国際女性映画祭で、中尾健君と坂谷龍二郎君とはライブハウスで共に37年ぶりに再会。小中の同窓生には何の理屈もありませんでした。

佐藤 洋史 (政経43年) 博報堂

昨年吉祥寺に転居しました。父が旧制高等学校に通っていた所です。成蹊に近いので、朝は高等学校生、大学生に会います。四十年以上昔のことが、学生時代のことを思い出します。近くにお越しの時は、お寄り下さい。

佐野 忠司 (政経33年) 佐野社会保険労務士事務所

今年七〇才になるため、第一線の仕事から手を引き社会保険労務士として行政関係のお手伝いをボランティア的にやっています。やはり物忘れや文章の誤りが多くなり、新しいむづかしい仕事は回避しています。それが無難で

す。

齋藤 明美 (文55年) (旧姓星野) 群馬県山田郡大間々町立大間々東小学校

四月に八年ぶりの異動。今年は少数の国語専科として三・四年生十六(十七人と一緒に日本語を楽しみながら学んでいます。末っ子も美大生となり、愛知で一人ぐらしを始めました。合唱、箏、ウオーキング、英語、続けています。

齋藤 君子 (文47年) (旧姓黒川)

十年ほど彩霞会展(成蹊学園OBOGの展覧会)に出展させて頂いています。昨年は三十年ぶりに大学卓球部のOB戦と四大学のOBOG大会にも出させて頂き、成蹊大学の現役やOBOGとのつながりに、喜びを感じました。

齋藤 修造 (高33年)

プールと読書、音楽、テレビでヒソソリと暮らしています。近年、同窓会やOB会が増え、極力出席しています。長山藍子さんの芝居も拝見しています。

斉藤 正和 (法52年)

成蹊会九州支部総会のご案内を受けました。宮崎市で開催されるそうです。ありがとうございます。熊本でも、

随分前ですが、当時の岩田屋伊勢丹で九州支部総会をやりました。盛会でした。何もお手伝いできずにお世話になりました。

酒井 四平 (政経28年) 安田教育振興会

5月の旧制成蹊高校創立80周年記念祝賀会に出席、懐かしい諸先輩・学友に接し感慨無量であった。さて、千葉支部総会も来年55回を迎える。事務局として、その準備に追われている此の頃です。

坂口 哲茂 (法50年)

古希過ぎの光陰速し花は葉に 秀洋
幸いドナーに恵まれ、施術後の経過は順調です。来年中には、社会復帰を果すべく、リハビリに精を出しております。

志関 誠男 (工44年) フジクラコンポ ーネンツ

勤務している社名が合併により新社名(株)フジクラコンポーターズに変更になりました。あわせて同社の常務取締役役に役職が変りました。

清水 和明 (高28年) ステラ・コンサ ルタンツ

今年五月に待望の初孫誕生。二月には二冊目の実務書「マーケッ

トの目で読む英米の金融経済記事」(日興企画)を上梓。海外勤務に行く人や調査、財務担当者の参考書です。その他NPO日本ヴェルディ協会の仕事で多忙です。

篠宮 慶子 (文44年) (旧姓三山)

いつも御世話になりありがとうございます。住所が変更されましたのでよろしく変更お願い致します。ますますの成蹊大学の御発展をお祈りしています。

柴山 雄一 (ラメ30年入) 柴山医院

お世話になった府中カントリークラブのキャプテンとして残り少ない期間ですが、家庭的なクラブになるよう最後の御奉公をしています。今年72才になりますが、エイジシユーターをめざして頑張っています。

城 靖治 (高29年)

日頃成蹊会には大変お世話になっております。当方70才になり仕事が無くなった他は全く変わりありません。今後よろしく御願ひ申し上げます。

白川 雅充 (工50年) (東京環境オペレ
ーション)

本年1月、三菱重工より東京環境オペレーションに休派、新天地で頑張っ

ています。

眞道 泰明 (政経38年) 青善屋

(株)青善屋で仕事をしています。先般、後藤健氏から「成蹊清和会誌」発行の案内をもらいました。〆切迄、まだ時間はありますが、題材に思索しており、それを察したような内容でした。

その心づかいに感謝しました。

鈴木 巖 (法・平1年) カウンセリン
グサビスルム

NPO法人を設立し、精神科等に通院されている方及びその方を支えるご家族の心のケア、不登校・ひきこもりを選んでおられる方の支援を行っております。また今年度からカウンセラ―養成講座を開講する予定であります。

鈴木 讓治 (経49年) 三井物産

昨年5月にインド駐在から戻り、5ヶ月間出身本部に勤務の後、中部支部に転勤となりました。入社後最初の転勤先が名古屋で今回2度目です。万博やら中部国際空港やらで熱気を感じています。営業から一転、管理部門です。

鈴木 勉 (経47年) ワークアクト

中国瀋陽に学校を作り一年が過ぎま

した。まだまだ軌道には乗りませんが、毎月の出張が楽しみです。頂度日本の昭和三十年代と現代が混在しています。二十一世紀の経済の核になることは間違いないことを確信しています。

鈴木 文明 (経55年) 日本損害保険協
会

長年住んでいた東京を離れ、埼玉県に転居しました。損害保険業界は、昨年多くの自然災害により、史上最大の保険金支払となりました。少しは情勢が良くならないかと思う今日この頃です。

住江 次郎 (高28年)

会誌誌上で、恩師清水恒子先生の名前を見て驚きました。中学の時の英語の基礎を楽しく教えて頂きました。時にはクイズで、時には歌で、楽しい思い出が湧いて参りました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

関野 和夫 (旧高25年)

5月15日旧高80周年記念行事に参加した23回文科同窓生17名が行事の後第2学生会堂に集り清水先生(96才で益々お元気)も出席され旧交を温め盛會で再会を約しました。いつもながら赤石君のお世話に感謝しています。

仙波 恒雄 (旧高24年) 同和会千葉病院

ご無沙汰いたしております。平成十六年三月、日本精神科病院協会会長を退任、その後同年十一月三日文化の日「旭日中授章」の叙勲をうけました。精神医療福祉分野における社会福祉功労でした。現在引続き千葉病院院長・現役です。

田口 学 (工54年) 全日本空輸

東日本航空専門学校で二十才前後の学生に飛行機を教えています。学生や教職員の旅行時に一番お得に飛行機に乗るようにお手伝いもしています。みなさんも、買物(EDY)でもマイルをためて無料往復航空券をゲットしましょう。

田子 葉子 (高35年)

お陰様で初孫航太郎も七月で満一才になります。平和な世界の訪れを心から願う様になりました。まず足下から〆〆の思いで、日本精神復興促進運動の一人として、日々を元気に充実して過ごさせて頂いております。

田中慎太郎 (旧高20年)

腰と膝の痛みと同居中。旧高八十周

年祝賀会に欠席し残念。昭和十四年旧高尋常科に入學し卒業まで軍国主義の真つ只中。しかし成蹊の思い出は情操ゆたかに恵まれた日。年を重ね改めて成蹊教育の有難さを感じる今日この頃です。

田中 正紀 (経・平6年) スミデンアイ ネット

早いもので、大学を卒業してからすでに十年余。けれど今年の桜祭で訪れたキャンパスは変わらず、懐かしいままでした。皆さんも変わり行く吉祥寺の街の散歩がてら、訪問してはいかがでしょう。

田宮 貞和 (高28年) 田宮小児科医院

七十才の太台になりましたが、日々、開業医として地域の子供達の健康管理に従っています。

後輩となる小中学生が多勢います。なつかしく思います。

当分仕事を続けて行く予定です。

高木 克昭 (高43年) 住信ビジネスサ

「二〇〇七年大定年問題」とまたしても注目をあびる団塊族です。

親の介護も現実の問題となり、皆様のご苦勞もよく理解できる境遇になっております。そのなかで、楽しい思い

出をいくつ作れるかが、キーです。

高島 元 (政経40年)

昨春秋に嫡孫が誕生しましたので、今年端午の節句に屋敷に鯉のぼりをあげて祝いましたが、高々八間柱に七米の吹き流しと鯉を眺め爺様の道楽であると思つてるところです。

高原 英明 (小36年) 明星大学

成蹊におられた児玉九十先生が作られた明星大学の教員になつて8年近くになりました。明星大学に成蹊の面影はありませんが、明星小中高では凝念を行つていふことで、古い昔のつながりを感じさせます。

高柳 慎一 (経45年) 清水建設

六十歳の定年まで私も後二年となりました。成蹊時代が第一の、会社員時代が第二のとする、いよいよ第三の人生が始まるわけです。その第三の人生を十分に楽しむために準備に追われている昨今です。

竹内 克之 (政経42年) 上海環球金融中心投資

相変わらず中国・上海での世界一の超高層ビル建設・運営に従事していますが、今春から軸足を上海から東京に

移して担当することになりました。又、上海成蹊会は中国人留学経験者を含め59名となり、活発な交流をしています。

武田 伸幸 (法54年) 北陸銀行

3回連続で単身での異動、それも札幌と言うことで、また自宅から遠のいてしまいました。仕事は横に置いて、4月赴任時はまだまだ寒い日が続いていましたがここに来て(6月) やっと夏がやってきました。さつちよんを満喫!

武部 忠夫 (政経34年)

寂寂春將晚
欣欣物自私

春浅き日に尊敬する従兄弟が病没した。彼は旧制成蹊高等学校最後の卒業生の一人である。文武に秀でた彼を私は少年の日にどれ程の憧れをもつて見上げたことか。哀悼の念をもつて先輩を送る。

武村 苞 (政経32年)

三菱製紙の役員を退任し、小会社を経て今は全くフリー趣味その他自分のペースで元気に過しています。最近一眼レフデジカメに凝って作品作りを行っています。先日世田谷美術館の展

覧会にも参加させていただきました。

丹治 尚正 (政経38年)

父、道生(旧高4)が、本年一月末に九十三才の天寿を完うし身罷りました。永年に亘る御交誼に御礼を申し上げます。

力石 浩 (法47年) チカライシアン ドカンパニー

本年五月に三年振り東京に戻つてまいりました。親戚の経営する外食産業を中心としたコンサルタント会社に新たに就職しております。

塚田 正幸 (経47年) 塚田牛乳

在学中デザイン研究部に在籍。部員皆でトランプを2組使い、4人で対戦するキャナスタに熱中しました。現在先輩の理工学部橋本竹夫教授夫妻を中心に東京で年4回キャナスタ大会を行い、その日は皆学生時代に戻っている。

辻 至 (経49年) みずほビジネス サービス

8月に31年勤務したみずほ信託銀行を退職して子会社のみずほビジネスサービスに転出しました。これからも健康に留意し公私共に頑張ります。ロックが大好きでビートルズ、ストーンズ、ツェッペリン、クラブトンを

聴いています。

辻 時生 (政経37年) 三立商事

第二の人生を、六月一日より歩きはじめます。人生の最終コーナーかもしれません。

土屋 晋 (高30年) 桜美林大学

高校卒業五十周年の合同クラス会で成蹊を訪れた。加藤藤吉先生設計ときく理化館がなくなっていた。あの建物の階段は二十四段、偶数で、日本の建物としては極めて稀なものだった。惜しいことをした、と思った。

徳永 重元 (旧高15年) パリノ・サーヴ
エイ

仕事と休養バランスを取りながら現在でも勤めています。旧高八十周年記念誌に平瀬先生の御出自について記事かきましたが誤聞でしたので除きます。老令記憶が不確か、困ったものです。

徳光 健 (工・平1年)

ダウケミカル米国のオートモティブ事業本部に4年おりましたが、本年9月より同事業部ドイツ勤務を命じられました。引き続き、日系自動車会社殿とそのサプライヤー殿への事業開発を担当させて頂きます。

富井 政英 (旧高20年)

昨年十一月に患った帯状疱疹が全快し、ゴルフや海外旅行ができるようになりました。今年は数えて八十才を迎え、記念品をいただいたり、祝賀会があつたりして、感謝しています。

豊田 俊夫 (政経33年) 郁文館学園

昨年暮に古稀を迎へ、そろそろ現役引退と考えて居りますが、現在も週四日勤務で頑張る毎日です。

内藤千與孝 (政経39年)

平成十七年六月三十日を以つて三菱倉庫の関係会社である京浜内外を退職いたしました。四十一年間のサラリーマン生活に終止符をうちました。三菱系の大学と会社にお世話になったことを心より感謝しております。

中島 康裕 (工・平5年) リモート・セ
ンター

この号が出る頃にはすでに開業しているであろう、つくばエクスプレスですが、現在つくば市中心部ではマンションや商業施設の建築・改装ラッシュが続く、便利になる反面、筑波山の見えるところが若干減つてしまつています。

中村かつ美 (文52年) (旧姓野原)

子育てが一段落し、最近親の事や、自分の体の方が気になってきました。気分を変えて、大学のキャンパスに足を運んでみようかと思つています。少し昔に戻りたくなつたのかもしれない。

故長尾 和幸 (法47年) カネヒ海苔

平成十七年二月二十六日、胸部大動脈瘤破裂で急逝しました。その一時間前まで、ほとんど、変わりなかつたのです。六月五日で百カ日がきます。五十五才で、あまりに早過ぎる死でした。お世話になりました。

長岡 一路 (法53年) 慶正寺

午前中は幼稚園児とにぎやかに過ごし、午後は我が寺の草取りに明け暮れしております。

長岡 弘史 (政経30年) ニフコ

現在非常勤勤務。限りなく完全退職に近づいており、今が人生最良の年と感じております。勤務・ゴルフ・卓球の毎日です。遊ぶ機会がありましたらお誘い下さい。

長屋 晃 (旧高24年)

渋谷ロゴスキーでは成蹊会の皆様の永年に亘る変らぬ御支援に更めて御礼申し上げます。日本にとりロシアは遠くて近い国。

これからもロシアへの旅を積重ねてゆきたいが私の人生の支えになります。皆様御多幸を！

永倉理一郎 (経55年) 佐電工

佐賀に戻り一年が経ちました。九州では成蹊会活動が盛んに行なわれています。

皆様九州へ赴任の折は各地成蹊会へぜひ御連絡下さい。

二階堂裕行 (法53年) 日本製粉

成蹊大学を卒業して、はや二十八年まさに光陰矢の如し、感慨深いものがあります。よき師、良き友人達と集うことのできたあの頃が思い出されます。成蹊学園の益々のご発展を心より、お祈り申し上げます。

二瓶新太郎 (政経35年)

二〇〇三年に日本本社、米国法人を定年退職しました。トータルで一五年駐在したNYへ戻り隠居生活を始めま

した。近くのカレッジでシニア聴講生として西洋史を学びながらゴルフ三昧の毎日です。

西川 泰 (政経32年)

とにかく元気で毎日を楽しくすごしています。

大学体育会バレーボール部OBとして、現役諸君の健闘を願っています。

西川 廣 (政経44年)

たかが水、されど水です。去年全国で37万台のアルカリイオン水整水器が販売されました。しかしその内、活性炭素を除去する水を作るのは、わずか8万台だけです。詳しくは、www.shizenchiyu.jpを見て下さい。

西澤 俊彦 (法・平6年) 秦野市役所

結婚し子供が2人となりました。

西村 武士 (法・平12年) インテリジェンス

人材サービス業のキャリアコンサルタントとして、はや4年目を迎えます。諸先輩方が築きあげた丸の中で就業しております。

西山 隆 (法51年) 中越興業

初孫も今年九月末で二才。まさに、

目に入れても痛くないを実感しています。週一度のペースで遊びに来ますが、女房共々終始ニコニコ!! 「子は鏡」から「孫は鏡」になっている今日此頃です。元気で生活している現在に感謝しております。

沼尻 一彦 (文49年) ミュージックバード

今年六月で三十一年勤めた㈱エフエム東京から衛星デジタルラジオ局の㈱ミュージックバードに移りました。PCMデジタルの最高の音質によるクラシックやジャズ等10チャンネルの放送。是非この素晴らしさを体感してみませんか。

根岸 孝彰 (政経36年)

アウトドアもさることながら、柄にもなく、しかし年相応に水墨画や小品盆栽に関心が出てきました。時間をかけて生涯最後の趣味にしたいと思っています。

先達のご教示方向卒宜敷くお願い申し上げます。

野々村耕三 (政経34年)

ワンダーフォーゲル部および法学研究会それぞれOB会には、できる限り参加しています。最近、来日留

学生を支援するボランティアを始めました。

野沢 久和 (工43年) トミタ

昨年停年を迎えましたが新たな気持で新たな道を歩き始める事が出来ました。これも同窓の方々のお陰と心から感謝しております。

野澤 幸弘 (法57年) バコーポレーション

会社は、橋梁談合摘発の捜査の対象ともなり、益々厳しい環境に置かれています。一方、成蹊とは、以前からの法学部同窓会幹事長に加え、本年度より成蹊会総務企画委員を拝命することとなり、関わりが深まっています。

野平 珠美 (経61年) (旧姓大槻)

東京へ戻ってから5年経ち、こちらでの生活にもやっと自分なりに慣れて来たところです。趣味に没頭したり、日々好奇心を忘れないようにして生活しております。樺祭へは未だ行ってないのでゆつくりと出掛けてみたいです。

長谷川 要 (旧高17年) 長谷川技術士事務所

私(工作機械技術専攻)の健康管理

は頭を働かす(考える、文や図をか)他に受診、弓道、水中体操です。今、技術の重要な課題は後進技術者の教育です。私が約六十年前に教つた「桃李不言下自成蹊」の諺が教育の主な糧です。

長谷川正峰 (政経28年) ブランネット・アソシエイツ

お陰様で元気に暮しております。それにしても最近の日本人自体の品質劣化は何とかならないでしょうか?

秦 順一 (フレメ35年入) 国立成育医療センター

本年4月より国立成育医療センター総長に就任いたしました。少子化が深刻化する中、健やかな次世代を育むための医療の推進が国家的課題となっています。皆様の御支援を心からお願ひ申し上げます。

林 巖 (政経31年) 九州ガス

長崎成蹊会副会長を務めています。会長山口君は脾臓手術で長崎大学医学病院入院中。高木和馬、高木義昭も死亡し、巽セミの後輩が先生のもとに旅立ち、寂しいかぎり、孫は成蹊中学校に落第し残念。しかし、若杉君が頑張っている。

林 桂一 (法54年)

昨年3月、約13年駐在した米国からシンガポールに転勤しました。東南アジアは15年ぶりです。

原 一郎 (政経28年)

お陰様で元気に過しております。体力保持のため、トレーニンングセンターに通っております。

菱川 聖一 (政経34年) 二葉

来年には政経第8回卒の多くの同窓生が古希を迎えられると思います。来年の桜祭の折に一人でも多くの皆さまとお会いしたいと思います。私は写像会で写真を展示しているホールに平形君という予定です。

兵藤 濟 (法56年) 日本学生支援機構

現在、新法人において電話相談と年史編集の二つの異なった仕事をしておりますが、どちらも中途半端にならないよう、気を引きしめている今日この頃です。

平田 順一 (高49年) ひらた小児・婦正歯科

埼玉原越谷市で開業してから、早三年半を経過しました。毎朝、杉並から

車で通っていますが、大学勤務時代と違って、なかなか本を読む時間がありません。本好きの小生としては、ちょっと寂しい気がしています。

廣瀬 元夫 (政経28年) 廣瀬ビルディング

いま木炭の良さが見直されて居りますが、私が会長の社団法人全国燃料協会(銀座)では東南アジア諸国への製炭技術指導や国内での木炭の新用途のPR等を行って居ります。

福井 宏己 (政経37年)

万博は拙宅の隣町で開催。成蹊高校の旧友も来場され大変楽しく過しました。上京して再会するのも楽しいですが、当地にお迎えするのは本当に嬉しいものです。

お陰様で元気に過しています。

福原 重雄 (旧高18年)

5月旧制高校80周年のお祝いに成蹊を訪れました。

往時茫々―凝念と心力歌にはじまる毎日、徹夜会・記念祭・夏の学校・乃木祭・運動会・断食会・枯林忌等独特の年間行事を懐かしみ、成蹊教育をうけた誇りを感じる昨今です。

藤田 暉夫 (政経29年)

車でも機械でも七十四年はずたず。馬齢がそれに達しても、時折ブレーキが利かぬ時もある日々です。

中野駅北口数分、一階のキリン秋吉店へ、成蹊の方々ご来客、先輩面してお相手。これが、いいんだなあ。成蹊の話題って。

藤合 寛 (政経41年) 越谷市施設管理公社

今年の能は5月14日に「紅葉狩」を舞いましたが、舞の最後の段で風が吹いて来て扇子が飛ばされそうになったので強く握ったところ扇子が縮んでしまつてかっこの悪いことになりました。来年は頑張ります。

藤村小弥太 (政経34年)

日本に帰国して一年半経ちました。気候や社会にも漸く慣れて来ました。これからはゆつたりとした人生を楽しみます。

藤原美恵子 (文55年) (旧姓小野)

最近活躍している井上荒野さん(作家)「いのうえあれの」は成蹊大学文学部卒業だそうです。インタビューなどで、会誌にご紹介

いただけたら、うれしいです。

船木 宏祐 (高36年) 日光土地

毎日が日曜日になるはずが、保険屋と不動産屋が意外と忙しくなりました。それでも遊び6割を目指し、水泳、社交ダンス、コーラス、旅行、写真に加え最近はテニスを復活させました。沖縄へ行く毎に尚さんにお世話になります。

古河 拓 (政経37年)

退職後一年、いつまでもぶらぶらしては思いつつ日が過ぎて行きます。現在シルバードランテアをしようかと考え中です。まずは元気にやっております。

古澤 眞子 (文44年) (旧姓安達)

私は文学部一回生で学籍番号も一番でした。先日、三十六年ぶりに大学構内を夫と一緒に見学させて頂きました。母校の発展をとて嬉しく思いました。娘は結婚(病院勤務)、息子は現役の大学生です。成蹊の発展を祈っています。

古瀬 萌 (テレメ26年入) 古瀬眼科医

大田准看護学校校長13年が過ちまし

た。ここ三年前より社会人入学を募集し全般的に成績の向上がみられ、高等看護学校への入学も増加しつつあります。島根県眼科医会会長三期6年目に入りました。トンボ返りの上京で中々に会に出られません。

堀尾 驥吉 (政経44年) 農業

今年初めてブルーベリーといちじくを収穫することが出来ました。無農薬有機栽培で「おいしい・美しい・安全な果物」を追求しています。興味ある方はご連絡下さい。お友達価格でお分けます。〇八五二二二二一六八七五

本多 正志 (法・平5年) 群馬県庁

群馬県庁の大坂事務所から県内の中之条行政事務所に戻り、観光物産振興業務を担当しています。今年度上期のNHKドラマ「フアイト」の舞台となった四万温泉や草津温泉などがある地域です。ぜひ、一度お出かけ下さい。

本田 光芳 (テレメ25年入) ヒロセクリニックス

数年来、中近東、中央アジアの世界遺産めぐりに夢中である。ペルセポリス、パルミラ、ペトラ、バールベック、ネムルート、イスファファン、サマルカンド、プハラ、ヒバなどどこも素晴

しかった。危険という忠告を聞かぬ楽しさ

前原 一雅 (政経38年)

半引退生活も4年以上経過、益々元気に楽しい毎日を送っています。成蹊時代の友人達と旅行・会食、海外の友人達との交流、週2・3回のジム通い、未だに続けているスキー、アジア太平洋スカウト機構への奉仕など。ああ忙しい。

曲田 孝之 (政経32年)

西宮市は学園都市大学が多い。大学独自の或は西宮市と共同で、公開講座が開かれています。多い時は週二回通っています。又音楽も盛んでコンサート通いも楽しみです。

牧田友太郎 (政経38年)

成蹊踏高会活動を通して、谷川虹芝寮の維持管理作業等に協力しています。虹芝寮八十周年記念迄まだ大分ありますが元気で頑張つてゆきたいものです。

増田 寧子 (文・平4年) (旧姓浅原)

下の娘が幼稚園に入り、父母の会の役員の仕事に追われ、毎日忙しくしています。

趣味を楽しむ時間もあまりありませんが、充実しています。

松本 晴次 (政経31年)

成蹊を出て半世紀あつと言う間に過ぎてしまいました。百二十才迄長生きしたいですが、どうでしょう。一日でも長生きしたいですね、七十才を過ぎても山登りは現役です。今でも一ヶ月二回は必ず行きます。朝五時に起きて金剛登山、これは日課です。

丸山 治彦 (政経38年) 麦食

本年二月末にて四二年間のサラリーマン生活も終了。会社の方は顧問ということですが非常勤ですので現在は旅行、ゴルフ、庭仕事を中心に骨休め中です。

三浦 幹男 (旧高24年) ケイエムプランニング

引続き海外の鉄道の取材に追われています。ギャラリーのスペースも、ぜひともご利用下さい。何かとサービスさせていたいただきますので。

(トラン・デュ・モンド代表)

三矢 正士 (政経38年)

六月初めに甥の結婚式が東京であり、両親族の紹介で新婦が成蹊大学の出身

と知った。披露宴で、新郎の出身大学の同窓生達で校歌の斉唱があつたのに、新婦のほうのそれがなかったのが残念でした。

三戸部扶美 (高・平1年) (旧姓水谷) 東京女子医科大学病院

海外出張中です。

故水谷 政静 (旧高11年) ハチケン

段々仲間が減つて行くのは淋しき限り。しかし未だ当分会報欄を穢すことを御許し下さい。もうこの会報が出る頃には数えの九十才になります。

水本 桂子 (文57年) (旧姓横手) 日本語教師

歯列矯正を始めました。吉祥寺のアスペン歯科の坂梨院長は偶然にも成蹊小学校亀村学級と中高テニス部の先輩でした。腕が良いうえに安心感もあるので痛みもなく順調です。装置が取れる日を楽しみにしています。元氣です。

宮 博信 (工48年)

平成十六年十二月に広島大学大学院先端物質科学研究科にて学位(工学博士)を受けることが出来ました。少しでも社会の役に立てればと考えています。

村上瑛二郎 (高29年)

最近成蹊の後輩を名乗り、怪しげな勧誘をする電話があります。一種の詐欺手口と思われませんが、非常に不快。名簿が流出しているようなので、諸兄姉、お気をつけを。狙われる老人層の仲間入りをしたかと概嘆する昨今です。

百瀬 卓 (高56年) みずほコーポレート銀行

04年3月、4年半ぶりにロンドンから戻りました。ロンドン成蹊会と会員・元会員の皆様方の益々のご発展・ご多幸をお祈り致します。

守 直之 (工57年) 京葉ガス

けやき祭や桜祭を楽しみにしておりましたが、なかなか家族の予定があわず、足が遠のいていた所、所属していた混声合唱団のOB練習が開かれていたことを知り思わず参加。楽しい時間が過ぎました。また参加したいです。

森重 裕子 (高30年) (旧姓工藤)

転居致しました。二女の家族と同居しております。

専らお炊事婆さんの今日此頃です。

ペランダから眺める千坪程の敷地の樹木に心が癒されております。

穏やかな老後に感謝しております。

矢野 岳 (旧高24年) 勝光山鉱業所

六月に(株)勝光山鉱業所代表取締役会長を辞任しました。二十一年余を役員で過しましたが、今は相談役として勤務しています。父の残してくれた会社ですから、株主の一員としても、今後も内容の充実、水準の向上に努めます。

薬師川麻耶子 (高33年) (旧姓河野) NHK文化センター

第五十回総会も仕事と重なり出席出来ません。先日、TVさいたまの「美女とヤジ馬」という対談番組に出ました。局から送られて来たビデオを見、あまりの老醜にド肝をぬきました。

安岡 實 (政経31年)

昨年11月、永年住んだ船橋市から横浜市へ本拠を移しました。千葉の方にも雑用があり、両方を往来する生活です。新居は閑静な住宅街で、以前より手狭ですが環境の良い所です。近くへお出での節はお立寄りください。

安田 敬一 (政経28年) 安田教育振興会

第50回通常総会を心からお祝い申し

上げます。千葉支部も成蹊の優れた精神を大切に今年も七月二日に総会を開催。全国でも珍しい旧制高校、千葉大医学部と新制の高校、大学まで一体となり母校発展を願いつつ盛大に第54回の歴史を迎えました。

柳井 道天 (高28年) 大学基準協会

この度はずからず日本世論調査協会の会長に選出されました。報道機関など世論調査をする機関と、世論調査に関心を持つ研究者の集う団体です。名誉なことと思っております。精一杯お役に立てるよう努めるつもりです。

山岸 常夫 (政経27年)

旧制高校理乙に入学したのが終戦の昭和二十年なので六十年たったことになる。今にして思い返せば八月十五日の終戦の詔勅の放送以外その年のことが憶い出されないのも年令のせいかな。月日のたつのは早い。

山口 邦治 (経・平14年) 山口電気機械工務所

よさこいが始まりました。

山崎 英也 (旧高20年)

80才を期に5月末で勤めを辞め、生涯現役のプリンターに専念します。

80才代、100mの日本記録を樹立(14秒75)し8月の世界大会の金メダルに挑戦します。

山田 弘二 (政経35年)

五月十五日に開催された旧制成蹊高等学校創立八〇周年記念式典に出席させて頂き大変感激致しました。

当時は小学生であった私は先輩方のマント姿、ヨレヨレの帽子等鮮明に覚えております。先輩諸兄姉のお元気な姿嬉しい限りです。

山田 卓郎 (旧高24年)

七十五才を過ぎ、全ての動作が緩慢になり、ゴルフの飛距離が日毎に落ちていきます。幸い健康に恵れ、大過なく暮しています。

山中 隆 (政経40年) 保険代理店

60才で定年になりAFLACの個人代理店をしています。週に5日間街に出ます。変化が激しいです。大学一年の時の指導教授中村草田男先生ではありませんが、昭和は遠くなりにけりです。健康で、普通の生活を送りたいと思っております。

由比 健郎 (旧高22年)

5月15日、旧制高校創立80周年記念式典に参加の折、史料館も見学しましたが、小生の奇贈した資料や写真が沢山展示してあったので、いささかお役に立っていることが判り、大変うれしく思いました。

横田 一也 (政経41年) 三井住友海上安
心ステーション

六十才の区切りはつきましたが、事故受付のコールセンターで、シニア(世間でいうシルバー)としてお手伝いしながら労働の機会を享受しております。大病もせず体型も年の割にはくずれすることもなく、ぼちぼち生活しています。

吉田 明男 (文・平16年) ダイナム

仕事柄、勤務も休みも不規則ですが、成蹊魂を胸に、頑張っています。地方に来て、やはり東京(特に吉祥寺)はすばらしい町だと実感しています。

吉田 久嗣 (工57年) 三菱マテリアル

厳しい世相ですがセメント製造は何とか生き抜いています。しかし、その中の建築、外装用のセメント製品は未だに苦しく、その対応支援で製品工場

に長期出張しています。

吉田 英男 (法57年) 1 東急コミュニテ

四月一日付で、異動となり管理員の労務管理を行っております。また、勤務地も虎ノ門となりました。皆様、お近くへお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

吉田 康男 (政経32年)

昨年6月肝臓に小さな異物が見つかり取敢えず焼き切ってしまった。其後の検査で癌であることが判明したが超々早期発見であつた為転移の恐れもなく相変らず每晚西荻窪界限で一杯やっております。周囲からあきれられてる。

吉野 剛史 (工・平16年) つるや

ゴルフ用品の販売で、つるや株式会社の子会社馬場前橋店に勤務中です。ショップの販売で毎日多忙にしています。

竜 崇正 (高37年) 千葉県がんセン
ター

千葉県がんセンター長として4月から着任しました。徹底的情報開示をベイスに心温で良質ながん医療を提供していく所存です。趣味は山歩きと山スキーです。本年は待望のスイス、モン

テローザ4600mスキー登山に成功しました。

渡辺 誠介 (旧高20年)

振り返ると平和だった小学校の6年間が最も成蹊らしい教育を受けました。八十才を目前にした級友と今更のよう何という立派な先生方と教育環境に恵まれたのだろうと感謝しております。小学校の先生方どうぞ頑張ってください。

●お願い

同窓会の要は、まず名簿の整備に始まり、名簿の整備に終ります。成蹊会では各学校学部部の周年行事や各種同窓のつどい実施のご報告を戴く都度、又ゼミナールや体育会文化会OB会地域成蹊会等のご協力を得て、住所不明者を少しでも減らすべく努力してまいりました。しかし、未だ二割程度の方々の住所が不明です。

一層充実した名簿と同窓会活動活性化の為に、ご存知の方の住所が漏れておりましたら、本部宛に是非お知らせ戴きたくお願い致します。

本部ではご本人に確認の上、会員データの更新を行います。

●会員名簿取り扱い上のご注意とお願い

成蹊会の会員名簿には個人のプライバシーに関する重要な項目が盛り込まれています。

「会員名簿」の発行を続ける為には、その取り扱いに十分注意し、責任を持って利用されるよう、ご配慮をお願い致します。

特に古い名簿の廃棄処理は、廃品回収に出さずに、細断破棄して戴くか成蹊会宛にご送付ください。

●ご注意

最近「成蹊会」の〇〇と称して、商品取引を勧誘したり、名簿を発行するからと申し込み葉書を送りつけたり、学校・学部部の創立周年祝賀広告を求めるケースが目に見えます。

(社)成蹊会の同窓会業務とは、全く関係ない営業活動ですので、ご注意ください。

成蹊会報告

〔自平成17年5月1日
至平成17年10月31日〕

一、会員総会

■第50回通常総会(17・6・18)

- (1)平成16年度成蹊会事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2)平成16年度財産目録承認の件
- (3)平成17年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (4)成蹊会評議員選任の件

二、会議

■理事会

第58回理事会(17・5・10)

- (1)第50回成蹊会通常総会付議事項審議の件
- (2)成蹊会特別委員会委員選任の件
- (3)成蹊会特別会員(教職員)推薦の件

第59回理事会(17・6・18)

- (1)成蹊会会長選任の件
- (2)成蹊会常務理事選任の件

第60回理事会(17・7・21)

- (1)成蹊会副会長互選(含む代行順位の決定)の件
- (2)成蹊会特別委員会委員(補充)選任の件
- (3)国府寺敬二前理事(常勤)の退任に伴う慰労金贈呈の件
- (4)成蹊会設立70周年記念企画の件
- (5)ハワイ成蹊会の設立について

第61回理事会(17・10・21)

- (1)平成17年度中間決算報告
- (2)特別委員会等の活動状況報告

■評議員会

第59回成蹊会評議員会(17・5・9)

- (1)平成16年度成蹊会事業報告及び収支決算・剰余金処分案の件
- (2)平成17年度財産目録承認の件
- (3)平成17年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (4)成蹊会評議員選任の件

第60回成蹊会評議員会(17・6・18)

- (1)成蹊会理事選任の件
- (2)成蹊会監事選任の件

第61回評議員会(17・10・21)

- (1)平成17年度中間決算報告
- (2)特別委員会活動状況報告

■特別委員会等

成蹊クラブ委員会(17・5・12)

育英奨学委員会(17・5・16)

学術・教育助成委員会(17・5・16)

スポーツ振興委員会(17・5・24)

成蹊桜祭委員会(17・5・19/10・5)

総務企画委員会(17・5・26/7・6/9・8)

広報委員会(17・7・25)

成蹊会70周年委員会(17・9・27)

■同窓会委員会

高校(旧制)同窓会委員会(17・9・16)

工学部同窓会委員会(17・9・28)

高校(新制)同窓会委員会(17・10・14)

文学部同窓会委員会(17・10・14)

■支部・地域成蹊会

ハワイ成蹊会(17・1・19)

遠州成蹊会(17・6・18)

愛媛成蹊会(17・6・25)

千葉支部総会(17・7・2)

渋谷成蹊会(17・7・9)

新潟成蹊会(17・7・10)

山形成蹊会(17・8・21)

岡山成蹊会(17・7・23)

埼玉成蹊会(17・9・15)

長崎成蹊会(17・8・27)

阪・奈・和成蹊会(17・9・10)

九州支部総会(17・10・15)

三、人事

■会長・副会長・常務理事・事務局長(第60回理事会)

会長 長瀧 秀彦(政経9)

副会長 吉野 雅晴 (政経8) 上原 明 (高11) 高山 知也 (文8)
常務理事 齋藤 悠 (政経17) 事務局長 高橋 章建 (法16)

■理事・監事 (第60回評議員会)
理事 (30名)

相川 一成 (政経11) 岩壁真澄 (経5) 岩田矢弓 (工2)
上原 明 (高11) 大谷久行 (工8) 小川孝一 (経2)
高山知也 (文8) 香川成史 (経2) 貴島健治 (政経12)
城戸毅 (高5) 齋藤光行 (工4) 齋藤悠 (政経17)
澤井明子 (文7) 島田喜久 (女17) 多羅尾智子 (法8)
高井昌史 (法1) 高橋龍一 (法6) 瀧秀彦 (政経9)
竹内克之 (政経16) 立花昌雄 (高6) 丹治誠 (高3)
寺澤廣一 (高16) 中西秀郎 (政経6) 永井勝巳 (経6)
西川廣 (政経18) 西村 洋 (旧高19) 野村敏朗 (政経18)
毛利任宏 (法11) 高井道夫 (高4) 吉野雅晴 (政経8)
監事 (3名)

■評議員 (第50回通常総会)
評議員83名

井原一雄 (高7) 森 紀二 (政経11) 山中良平 (政経6)
安達 功 (工28) 阿部陽子 (文26) 青木清子 (医歯11)
赤石益輝 (経16) 新居嗣朗 (高4) 井上敬次郎 (政経13)
井川舜喬 (政経3) 井田博通 (高28) 飯田又右衛門 (政経15)
碓本勘二 (政経10) 石川 尚 (法14) 石垣順史 (工19)
石坂泰彦 (政経1) 磯部 茂 (医歯6) 板橋啓子 (文5)
岩岡正哲 (経23) 岩崎英二郎 (旧高15) 上田祥士 (高23)
臼井年胤 (政経5) 瓜生芳久 (工8) 小原正弘 (旧高5)
小尾幹男 (工3) 尾日向多津子 (文6) 相賀昌宏 (法4)
大場和子 (政経18) 大山卓治 (経12) 岡田 健 (工2)
加藤哲夫 (経6) 河盛好昭 (旧高20) 貫洞哲夫 (旧高22)
岸 暁 (旧高23) 久保盛唯 (旧高24) 桑野誠司 (法21)
小石原耕作 (法6) 国府寺敬一 (政経11) 河野克彦 (文3)
近藤和夫 (旧高21) 近藤廣雅 (政経13) 佐治邦彦 (工2)

清水和久 (経24) 清水智仁 (経18) 塩田暢毅 (経6)
篠原周平 (政経4) 柴田直子 (文8) 島尾和男 (旧高19)
島田寿正 (工11) 霜札次郎 (医歯8) 須佐真明 (高23)
鈴木茂之 (法8) 鈴木慎太郎 (工27) 瀬沼宏章 (工12)
太刀川瑠璃子 (小24) 高橋 靖 (政経6) 高橋章建 (法16)
高橋道哉 (工11) 高橋 稔 (工14) 千代延町子 (文8)
戸塚 新 (政経1) 永井素夫 (高23) 西原春夫 (旧高21)
根岸孝彰 (政経10) 根岸孝昌 (政経16) 野澤幸弘 (法13)
長谷川健治 (高14) 原田恵美子 (経9) 平本勉 (法4)
藤本信一 (法5) 別所聰平 (政経17) 前田周一郎 (法7)
松田直子 (文9) 榎原 稔 (旧高23) 丸居里枝 (文7)
満藤庸也 (経7) 三重野裕路 (経16) 水原亜矢子 (文16)
安田靖子 (文20) 山崎大樹 (経16) 山田俊明 (法22)
山根祥利 (政経15) 山本龍二 (医歯1) 米倉豊比古 (経4)
和田美代子 (女23) 渡辺京子 (医歯6)

■特別委員会委員 (第158・159回理事会)

◎印委員長○印刷委員長

総務企画委員会8名

◎香川成史 (経2) 白土英成 (経12) 多羅尾智子 (法8)
土居千紗 (経11) 野澤幸弘 (法13) 布川純子 (文9)
○毛利任宏 (法11) 山本亨介 (政経3)

財務委員会10名

石本祐司 (政経12) 岩堀和彦 (政経8) 梅田泰雄 (政経5)
小宮英明 (経5) 塩沢公朗 (経4) 関野和夫 (旧高23)
高橋 靖 (政経6) ◎丹治 誠 (高3) 堀田健介 (高8)
榎田元生 (高14)
育英奨学委員会9名

石郷岡猛 (工1) 太田克彦 (高24) 国府寺敬一 (政経11)
後藤 健 (政経12) 竹内カヨ子 (政経14) ◎立花昌雄 (高6)
馬杉則彦 (高9) 東垣内英哉 (政経13) 芳村起代子 (高9)
学術・教育助成委員会8名

阿部恭久(法 14) 岩井奉信(高 20) 小川信明(高 11)
 城戸 毅(高 5) ○黒川 洸(高 11) 高山知也(文 8)

土谷宣子(政経14) 寺澤 盾(高 28)
 成蹊クラブ委員会 9名

赤星有一(法 4) 有馬清種(法 4) 菅野建雄(政経13)
 ○貴島健治(政経12) 小林 誠(高 12) 鈴木 豊(政経18)

長山藍子(小 38) 森 一憲(経 21)
 スポーツ振興委員会 11名

小田部裕(経 3) 園部留子(文 1) 高野俊彦(政経13)
 力石 浩(法 3) 千葉英治(経 17) 丹羽秀夫(政経18)

○西川 廣(政経18) 松平正樹(政経18) 松本卓也(経 25)
 水谷一郎(工 5) ○横澤規佐良(経 4)

広報委員会 10名
 ○上田祥士(高 23) 相賀昌宏(法 4) 大山卓治(経 12)

香椎健太郎(政経12) 吉川英作(法 13) 菊地陽子(法 1)
 佐方節子(法 1) 須佐真明(高 23) ○高井昌史(法 1)

原田育叔(工 4)
 成蹊桜祭委員会 10名

大谷久行(工 8) 高橋道哉(工 11) 高橋龍一(法 6)
 千代延町子(文 8) 永瀬敏夫(経 14) ○野村敏朗(政経18)

服部真久(経 14) ○布川純子(文 9) 村上善一(工 10)
 毛利任宏(法 11)

推薦委員会 9名
 赤石定次(旧高23) 磯部 茂(医歯6) 煙谷慶子(文2)

大場和子(高 16) 河野克彦(小 42) 佐藤友一郎(経 2)

○鈴木茂之(法 8) 高橋道哉(工 11) ○山根祥利(政経15)
 同窓会役員(下表)

四、刊行物

■成蹊会誌第10号(17・7・1)

同窓会	会 長	副 会 長	幹 事 長	副幹事長
池袋 (実務・中学・専門)	瀧秀彦 (事務取扱)			
小学校	相川一成 (36)	根岸孝昌 (41) 河野克彦 (42)	永井素夫 (50)	増田雅代 (50)
やよい会 (女学校)	島田喜久 (17)	和田美代子 (23)		
高等学校 (旧制)	西村 洋 (19)	河盛好昭 (20) 貫洞哲夫 (22) 榎原 稔 (23)	久保盛唯 (24)	
高等学校	上原 明 (11)	碓本勘二 (8) 岩田矢弓 (14) 大場和子 (16) 相賀昌宏 (20)	上田祥士 (23)	井田博通 (28) 跡部 清 (31) 鈴木慎太郎 (39)
大学 (政治経済学部)	吉野雅晴 (8)	白井年胤 (5) 中西秀郎 (6) 藤田 晃 (7) 桜井祥三 (10) 井上敬次郎 (13) 山根祥利 (15)	別所聰平 (17)	角原勲 (17)
大学 (医歯学進学課程)	山内則子 (6)	磯部 茂 (6)	中村喜典 (3)	
大学 (経済学部)	岩壁真澄 (5)	永井勝巳 (6) 加賀美郷 (7) 伊藤昌弘 (10) 清水智仁 (18)	加藤哲夫 (6)	米倉豊比古 (4) 塩田暢毅 (6) 満藤庸也 (7) 大山卓治 (12) 赤石益輝 (16) 鮎川純太 (16) 三重野裕路 (16) 山崎大樹 (16) 岩岡正哲 (23) 清水和久 (24)
大学 (工学部)	齋藤光行 (4)	小尾幹男 (3) 大谷久行 (8) 島田寿正 (11) 瀬沼宏章 (12) 安達 功 (28)	高橋道哉 (11)	石垣順史 (19)
大学 (文学部)	高山知也 (8)	澤井明子 (7) 千代延町子 (8)	布川純子 (9)	丸居里枝 (7)
大学 (法学部)	高橋龍一 (6)	藤本信一 (5) 鈴木茂之 (8) 毛利任宏 (11)	野澤幸弘 (13)	小石原耕作 (6) 前田周一郎 (7) 多羅尾智子 (8) 石川 尚 (14) 高橋章建 (16) 桑野誠司 (21) 山田俊明 (22)

平成18年1月1日 発行所 社団法人 成蹊会 発行人 瀧 秀彦
 企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局 印刷・製本 株式会社 光 邦
 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766
 メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp ホームページ http://alumnet.ne.jp/

旧制成蹊高等学校創立80周年記念祝賀同窓会の報告

成蹊高等学校（旧制）同窓会においては、去る平成16年9月の同窓会委員会で翌年5月15日に創立80周年記念事業開催の実施内容が承認された。次いで80周年記念誌作成の編集委員18名が選ばれ作業を開始した。この編集委員は又、記念祝賀同窓会の実行委員を兼務した。

成蹊大学10号館12階ホールで開かれたこの記念祝賀同窓会には来賓や招待客を含めて約200名の出席者を得て盛大に祝賀会が開催され式典、来賓の祝辞、友誼校の寮歌、懇親と交歓の集いが繰り広げられた。会の次第を略述すると、式典は同窓会幹事長：久保盛唯の司会により11時30分開式した。まず成蹊大学管弦楽団により成蹊学園校歌と行進曲2曲が演奏された。次いで同窓会会長：西村洋より式辞として、旧制成蹊高等学校大正14年の創立より昭和25年廃校に至るまでの経緯について説明と挨拶が行われた。次に来賓の祝辞として、成蹊学園理事長代理として谷正紀高等学校長、成蹊会会長：瀧秀彦、武蔵高等学校同窓会会長：菊井維正の諸氏から懇篤なる祝辞が述べられた。これに対して謝辞は同窓会副会長：貫洞哲夫が行い閉式した。

祝賀同窓会は12時15分より同窓会副会長：河盛好昭の司会により開会した。

最初に同窓会会長：西村洋より開会の挨拶があり、次いで最高齢者の清水護先生（96才）の乾杯の音頭により全員高らかに唱和した。これより第二部の立食懇親パーティが和やかな雰囲気の中で始まり、約30分後から友誼校各校の寮歌が披露された。友誼校としては第一高等学校、学習院高等科、東京高等学校、武蔵高等学校、成城高等学校、浪速高等学校、甲南高等学校、府立高等学校の8校が招待され、夫々各校の寮歌が旧制成蹊高等学校10数人のバックにより高唱された。成蹊学園のイベントとしてはやや異色の感があったようである。その後懇親パーティが行われ、最後に旧制高等学校有志20名のリードにより全員で校歌を高唱し万歳を三唱して閉会した。退場者には記念品として80周年記念誌「吾ら讀えんその名成蹊」、成蹊の手拭、絵葉書等が贈られ、80周年記念祝賀同窓会は終了した。

最後にこの80周年記念誌は、平成15年5月より2年をかけて準備し18名の編集委員の努力と84名の方々の執筆で、太平洋戦争の戦前、戦中、戦後の夫々の時代における成蹊のスクールライフを資料と記憶に基き作成されたもので、貴重な資料であります。尚本記念誌の刊行に当り経済的なご支援を頂いた、成蹊学園、成蹊会、並びに個人のご寄付に対して衷心より御礼申し上げます。

平成17年10月 成蹊高等学校（旧制）同窓会 会長 西村 洋

旧制成蹊高校創立80周年記念誌「我等讀えんその名成蹊」正誤表

凡 例		A 4 : 巻頭アルバム4頁目、7← : 右から7行目、→3 : 左から3行目、～ : (中略)		
ページ	段	行	誤 (下線部分)	正
A 4	上		波佐間	波左間
16	上	7←	太平洋戦が	太平洋戦争が
21	下	3←	「高」	一高
24	下	→3	四年生	四年制
33	上	→9	裸か	裸
44	上	3←	(中学校相当)、四学年	(中学校相当) 四学年、
46	上	10←	先生はイチョウ～御令息で、貝研究～	先生は貝研究～
111	上	→3	七年入って	七年に入って
166	下	10←	白浜	白濱
171	上	→3	三九	三十九
173	上	5←	ことだった。	ことだった。
217	上	4←	会長、荒木～社長、岸曉～	会長、岸曉～
217	上	7←	幹事長、齋藤～	幹事長、荒木浩前東京電力社長、齋藤～
226	上	→9	採録	再録
261	下	7←	出席扱ひ	缺席扱ひ
293	上	1←	信二	信文
294	上	→9	坂田	阪田

73頁 上段 左から1、2行目については全文削除し、以下のように訂正
 イツ語では「そうですとも」とか「とんでもない」のように肯定、否定を強調する場合、しばしば Aber ja! とか Aber nein! のように、心懸詞 aber を併用いた